



文豪への道



日々精進 2

苔田 カエル

目次

18	1
使い勝手わるくなったけど。	1
2020 年 令和 2 年	11
サービス運営会社変更	18
令和キタァキタァー(° ヲ °)ーァァァァ!!	31
2019 年	42
2018 年 平成 30 年	69
2017 年	84
気がつけば 2016 年。	98
2015 年 (平成 27 年) 度	170
平成 26 年 (2014 年)	290
奥付	
奥付	294

使い勝手わるくなったけど。

★7月18日

カクヨムで取り敢えず書きかけ書いてみようかと思う。
その間に、ここも、少しはなんとかなるんじゃないかと。

何か浮き草のようだ。
何か寂しい。

★7月17日

カクヨムに新作アップしてみた。
反応薄いぜ。
しかたがたない。
新参者だし。
と、自分を慰めてみる。

★7月7日

いちいち更新しないと表示できなもので
なんかめんどくなくて嫌気がさして
カクヨムに登録してみた。

魔が差したのさ。

さくさくいく感じでいい感じだったけど
細かいとこでひっかかる。

なんかしっくりいかないのは、
きっと、慣れてないせいと、
自分に言い聞かせてみる。

★ 7月 11 日

使い捨ての人生。
使い捨てのわたし。

★ 4月 12 日

何だかな、この閉塞感。
若い子には想像もしないんだろうな。
自分は死ぬんだってこと。
想像できても、まだまだ先の事で実感はないんだろうな。
勝手気ままな行動は、
いつも自分のような弱い者がとぼっちを受け取るんだ。
多分、死ぬんだろうなって、覚悟しなきゃと思うけど、
漠然とした予感だけで、
でも、やっぱり、かかったら死ぬんだろうな。

★ 4月 5 日

パプーのいい感じがすべて取り上げられた感じ。
だったらここじゃなくたっていい感じ。
・・・・・・・・・・ナゾヤコラ〜、 (“

ん)ノ

★ 4月 4 日

久しぶりに来たらとんでもないことになってた。
・・・・・・・・・・ナゾヤコラ〜、 (

ん)ノ

★ 3月 24 日

わたしは頭があれなんで、

ずっと同じ曲を聴き続けるとか、

訳者違いで同じ本読み続けるとか、

ちょっと前は、何時間も毎日毎日ゲームしまくったり、

最近は暇さえあれば民生聴いてるし。

CD であれば、エンドレスに流してるけど、

ユーチューブではそうもいかない。

久しぶりに、『歌うたいのバラッド』聞いた。

ってか、歌うたいのバラッドが変換の予測候補に出ておる。

すっげ！

テレビみら、しょんべん臭い鼻たればっかだ。

やっぱいいな。

斉藤和義は CM で少し流れるけど、

やっぱいいな。

嫌な世の中になったのか、

いい世の中になったのか、

テレビからネットにシフトするのも仕方がない。

★ 3 月 18 日

今日も街は変わりなく、子どものびのび平常運転。

特別処置での消費税 5 % に引き下げは魅力的。

本当になってくれたら嬉しい。

たとへなつたとしても速攻明日からとかはならないんだろうけど、

ひょうっとしてなるとしたら、願望含んで買い控え。

もしもなったとしたら、トイレットペーパー無駄に買いだめした人AAAAAAAAA。

★3月15日

マスク買いに取り敢えずドラッグストアに行ってみた。

想定内にみごとにない。

トイレットペーパーも本当はない。wwwww

確か、消費税値上げの時、買いだめしてたんじゃないの？

うちはトイレットペーパーもティッシュもまだまだあるけど。

マスクも、いざとなれば作ればいいし、

でみ、なんだか、イライラする。

ばか買いしたり、転売したり、

空の棚に見せつけられるきちがい沙汰にとっても苛々する。

子供を街でよくみかけるのだが、

なんか不健全で不健康な感じがする。

学校で感染は許せないが繁華街で感染するのはいいのかな。

公共の乗り物に乗って、街をうろついて、

狭い店にわざわざ入って、

だらだらと安価な店でだべって、

ゲーセンで汗かいて、なんやかんやとお金使って、

生活指導も学校休校なら休みでいいのかな。

ウィルスは屋内特に狭い空間でよく感染するときいたが。

この失われゆく日々を、誰が責任をとるのだろう。

自分はまるっきりの傍観者ではあるけれど、

なんか納得いかない。

★3月10日

『反逆者たち』の手直しをしているのだが、

どこをどう直したらいいか忘れてしまって、

結局、手の入れようがない。

★3月8日

カニユの『幸福な死』読んでいるのだが、

なんかちょっと、言わせてもらえるなら、

「ん？」ってなかんじ。

未発表とのこともあってか、下書きが多いようで、

翻訳家の迷いも多かったでしょうけど、

ニュアンスは感じるのだが、

ん？ ん？ ん？ ん？ ってな感じで、

ちゃんとしたら、多分、美しいのだろうなと思った。

★3月6日

『反逆者たち』書き直ししてるんだけど、

久しぶりに読んだ。

コメディなの？

重く暗い感じで書いていたと思ってたけど。

終盤、飽きてきて、さっさと終わらせてしまったことが気がかりで

そのうち、落ち着いたら書き直そうと思い、

そのまま放置してしまった。

確かに、はちゃめちな感じにあえて書いてたと思う。

今では、どんな話だったか思い出せない。

勿論、大まかにストーリーは覚えてるけど、

細かいことを忘れてしまった。

★3月1日

M すて、随分久しぶりに見た。

どうした、民生ちゃん、頭が爆破してる。

くさくさしたので、

ゆんべ、一晩中、民生聴いてた。

んで、現在、『大迷惑』ユニコーン

打熱唱中！！

お金 もっとほしいいいい～！！

★2月29日

偶然 偶然 偶然 偶然

偶然 偶然 偶然 偶然

偶然が 重なれば それは

必然。

『偶然』と思い自分を慰めてきたけど、

ここまで偶然が重なればこれは

作意？

もとより被害者意識の強いわたしですが、

本気で怒っていいかな。

★ 2 月 25 日

新型コロナウイルスって、

ごくごくまれに、2019-nCoV。

どんどん広まっていく。

偉い人達の中では、国民の何%は織り込み済みなんだろうな。

これに乗じて、じじば退治できたら御の字なんだろうな。

と、思わざるおえない感じだ。

多分、自分が新型コロナウイルスにかかったら、

生還できないと思う。

死のうと思うとなかなか死ねないものだけど、

案外、死ぬときはあっけないものだ。

まだ体力があるからインフルエンザはなんとか切り抜けたけど、

こいつにゃ、勝てる気がしない。

何%かに織り込まれた見捨てられ組に入らないのを祈るばかりだ。

★ 2 月 24 日

ありし日のフジ・パブリックの映像を見ながら

ふっと思った。

中原中也が今の時代に生きていたとしたら、

シンガーソングライターになったかなあ？

っと。

特に、意味はないけど。

★ 2 月 23 日

ゆんべ ユーチューブでマッキーの曲を聴いていた。

『若者たちのすべて』に辿り着いた。

ずっとほっとかれて、忘れてしまってたけど、

聞き覚えのある声、

聞き覚えのあるフレーズ、

脳みその奥にしがみついていたんだ。

何時、どこで聞いてたかなんて覚えてないけど、

多分、垂れ流しに聞いてた頃だと思う。

フジ・ファブリックで一番聞いたのは、

『桜の季節』かな。

結局、一晩、『若者たちのすべて』聞いていた。

他の人のカバーも聞きながら

思えば、自分も民生が好きだった。

でも、やっぱ志村さんのあの声で歌う

『若者たちのすべて』がしっくりいく。

脳みそにしみついているんだと思う。

コメに同じように導かれた人が何人かいた。

毎日続く日常の中で

随分と置き去りにしてしまったことが沢山あるな。

爺さまの形見の時計をうっかり落としてしまって、

年十年ぶりだろうか、は言い過ぎ・・・、

久しぶりに動かしたч а й к аの時計。

しまった所さえ忘れてたけど、

何故かすんなりみつけられた。

なにか、昔が動いてる感じがする。

反省する。

なるたけ、思い残しのなように生きなくては、と。

★ 2 月 22 日

なんか前回はそれほどでもなかったんですけど

最近、まっき〜の歌 歌いまくり。

別にファンってわけじゃないし あんま 知らんけど。

なんか知らんが、頭で、ぐるぐる回っとる。

★ 2 月 16 日

まっき～ 捕まったけど、

まっき～セクシャルマイノリティって知らなかった

だから何？ って

そんなことには興味がないが

稼いでんだから 歯 治せよ

がちゃ歯に はの字眉

気になって仕方がない。

そう思って改めて曲を聴くと

なるほど、考え深いものがある

なまっちょうい歌詞の割には

何か惹かれるものがあると思っていたが

なりほど、切ない。

名曲 世界に一つだけの花 って

社会現象にまでなって 揶揄までされたけど、

例えて言えば、ふるいかけられかけられ

まったく どこにも引っかからないで

するすると虚しく落ちてく

そんな人の 最後の命綱のような

そんな人たちの歌なのかな・・・と

・個人的見解です・

あの歌詞 この歌詞と

思えば 全ては

みんなに対して と言うよりも

自分に対しての言い聞かせであったのだろうか・・・と

・個人的見解です・

★2月11日

あだまいでえだあ。

2020 年 令和 2 年

★1月26日

人の読書の仕方にケチつけれるのはどうかと思うけど、

翻訳あるうち1巻だけ借りていくってどうよ？

かなり悪質。

逐一、一行ずつ見比べてるわけ？

人によって、本を読む目的も方法も違うけど、

なんかやだな。

全体を通して読むことで、その人その人の違いがわかるんじゃないの？

一字一句見比べてどうだと言うのよ？

論文かなんか書いてる人かもしんないけど、

素人読者にゃ、かなり迷惑。

仕方がないから別な物語借りてきた。

自分が言うのもなんなんだが、

訳者違いで何度も同じ本読んで、

だからって、どうって、人が言うほど分からないけど、

自分的には通して読んだ方がいいと思うよ。

研究者とか学者じゃなければ。

★1月25日

今年の目標！

殺さない。

過酷な状況下に追い込まない。

ほっこりするような、

そんな物語を1つでもいいから書き上げよう。

てなこと、考えてみた。

★1月21日

慌ただしく年が明けてしまった。

思いもよらないことに師走といえども

時間が止まってしまった感じだ。

毎年、虚しく思う。

公募の期日にすれすれ応募して、

書き上げたという充実感。

来年もまた頑張ろうとさえ思うほどに高揚するものだが、

また今年も駄目なのかと思うと、

何の意義がるのかと虚しくなる。

来年はもう出すのやめよう・・・と。

それにつけても、豪州の映像には胸が詰まる。

現実 is 厳しいことばかり。

やけどに苦しむコアラやワラビー、などなど

現実 is 綺麗ごとでは済まされない。

思えば、あたしは多くの人や生き物を殺した。

酷い環境下にさらしもし、

つらい状況にも追い込んだ。

これからもそうであろう。

綺麗ごとであるよりも。

★ 12 月 15 日

まさに病魔。

咳が止まらない。

嫌でも強制的に咳が出る。

腹筋限界。

それでも咳がとまらない。

もはや病魔に憑りつかれたとしか思えない。

田舎を行くと、果たして太陽光は有効なエネルギーなのかと疑問に思う。

休耕田や畑の跡地、山の斜面や、ちょっとした空地にも、

ずら〜と並ぶ太陽光パネルの絵面は正直怖い。

びかびかに反射してるけど、太陽光パネルは熱反射ないのかな？

クリーンなエネルギーと思って期待してたけど、

本当にそうかなと最近思うようになってきた。

★ 12 月 12 日

日本、化石賞受賞おめでとう！

ノーベル化学賞受賞の吉野彰博士は演説で、

環境問題の対策の一つとしてリチウム電池の有効性を語っておられました。

とても皮肉なことです。

早く安価で効率のいい家庭用蓄電池、販売して欲しいです。

★ 12 月 11 日

中村哲氏が殺害されました。

すかさず伊藤和也さんが頭をよぎった。

当時の理不尽な行いに対する憤りを思い出し、また、悲しくなった。

人はどうしてああも無残な人殺しを考え実行してしまうのだろう。

どうして人々はああも荒んでしまったのか。

中東問題は難しいのでよく分からないが、

アフガニスタンと言う国は頭の中に植え付けられてる。

ふっとしたインスピレーションから書いたのが『砂漠に咲く薔薇』

ペルシャを舞台にして書いたものだが、

地理的にはイランやアフガニスタンをイメージした。

昔のペルシャは豊かで科学も進んでおり美しいところであったはずなのに。

誰も読む人がいないのでほんの1部だけの公開にしたけど、

あまりにもひどい事件にやり場なく、物語全頁公開することにした。

早く争いのない美しい国になって欲しいと願うばかりです。

★ 12月1日

あれよあれよと12月。

もはや今年がおわるのは時間の問題。

自分の脳内設計では成り上り人生がすでに始まってもいいはず。

なかなかどころか、全く、思い通りにいかないもので、

ランチの混雑考えると、食べたいものさえ食べれやしない。

★ 11月28日

新しい会社になって何か月経つかしらん。

そろそろ新しいもん登場してもいい感じ。

次は、瀬戸内寂聴の源氏物語読んでみようかと思うけど

読むのに時間がかかるのでおっくうだな。

他の人がどんな風に訳しているのか興味はあるけど。

★ 11 月 26 日

日曜日、大嘗宮見学に行ってきた。

全身筋肉痛。

雨空がかった日のせいか人は思ったより少なかった。

大手町から歩け歩け、

途中、休んではまた歩け、

雨もやんでたつぷりと皇居体感してきた。

個人的な感想として、

茅葺だったらもっとよかった。

皇居に外国人が来るのがとても不思議に思った。

しかも、大嘗宮見につて。。。。

さりとて、日本人も宮殿や教会観光するしなあ、

遺跡でも見に来る感覚なのかしらん？

できる限り日本人なら見に行った方がいい。

機会があれば皇居に足を向けた方がいい。

微々たるものではあるが、自分の税金がそこには注がれているのだから。

ミクロの世界でも自分の血と汗で保たれているのだから。

そう思うと、とても感慨深い。

★ 11 月 3 日

平成が終わることに寂しさを感じていたが

いざ令和になってみるとよかったと思う。

今年も某賞の季節がきて、

今年は焦らずゆっくり書き上げようと思い、

割と早く書き始めたが、どうしたって重量オーバー。

削って削って、それってあらすじってんじゃないの？ と思ってみたり。

どうにもこうにもできなくて、今年は無理と決めた。

それに、ラグビーに即位の礼に家の用事に台風もあって何かと忙し。

そこえ咳の長患いと来る。

どうしたって無理でしょ。

と思ったけれど一応努力はした方がいいと心を改め、

本気で書き始め、その最中でも、間に合わなければ諦めようと思いながら、

結局、実質今年も 3 日くらいで書き上げた。

去年と違うことと言わば、

何故かいつも苦勞するプリンターがよく働き、

いつも探し回るポッチキスがすぐ見つかりで、

できすぎなくらい苦勞なくできてしまったことが怖いくらい。

ただ修正する時間が少なかったけど。

なんでかな？

自分でも場違いだってもわかってはいるんだけど、

今年も出してしまった。

サービス運営会社変更

★ 10 月 8 日

そろそろ源氏物語終わりそうなので、

次、谷崎潤一郎訳借りてきた。

読むのが楽しみだ。

日本最古の若紫の写しが見つかったらしい。

と言われても、読めない。

活字にしたとしても、ちんぷんかんぷん。

日本人による日本語での日本文学であるのに。

昔は、少女漫画を読むように、

そこそこの階級のお嬢さんたちは普通に読んでいたんだろうな。

同じ日本人なのに、なんか不思議な感じがする。

★ 10 月 3 日

電子マネー還元するお店で買い物ほとんどしないし。

超低額所得者だけど、何のメリットも受けられない。

搾取されまくるだけで、何の恩恵もない。

市道県道国道むやみやたらと歩きまわるとか、

トイレはなるたけ区役所市役所県庁国の施設ですとか、

暖房冷房が必要な際はできるだけ公立の施設で過ごすとか、

読みたい本は図書館に買わせるとか、

できるとしたらそれくらいかな。

★ 10 月 2 日

何か変わった？

サービス運営会社が変わったらしいけど・・・。

源氏物語もいよいよクライマックス。

浮舟まできた。

宇治十帖に入ると雰囲気のがらりと変わる。

ざっぱな表現をすると、こなれてきた感じ。

次は、有名どころで寂聴か谷崎潤一郎なんか読んでみたいと思う。

★ 9 月 18 日

咳が収まらない。

胃液吐く勢い。

腹筋、われるんじゃないかと、

その前に、疲労でやばし。

光源氏の最後はあっけない。

巻が変わる間に消えていて

儚すぎる。

作者が女性である由縁だろうか。

父親の娘に対する愛情が細やかな気がする。

源氏の女性に対する情も、

紫式部の願望なのか、とても優しい。

全体的に、登場人物に対して愛情をかんじる。

一人一人を大事にしてる感じがして、

物語であることをうっかり忘れてしまう。

★9月15日

確か、夏風邪ひくのは『バカ』でしたっけ。

新しい会社になったら、縦書きができるらしい。

どんなサービスがあるのか楽しみだ。

ただただ消えなくてよかったと思う。

が、いつ無くなってもいいように、

バックアップはしておかねばね。

★9月8日

パプーの身受け先が決まったそう。

デザインエッグ株式会社。

早速調べてみた。

会社概要見たけど、どこが出資しているのか不明。

資本金 100 万円とのことだが、

運営費全て自己資金かしらん？

それとも KDDI.G から支援されてるのかしらん？

どれくらいで買い取ったのかしらんん？

閉店に伴い、売上払い戻してくれるってから、

個人情報晒して準備してたんだけど、

多分、売上のあげまいよりも振込手数料の方が高いユーザーって、

結構いると思う。

積みり積もって、だったらただで引き渡した方が損は少なく済むかも。。

などなど、思ってみたり。

★ 8 月 20 日

なかなか書きかけの作品進まない。

明日こそ書こう書こうと放ったらかしだ。

寝る前、いつも反省する。

実は今源氏物語を読んでいる。

勿論、訳本。

とは言え、あまりかみ砕いて訳した物ではないので、

分からず、スルーもしばしば。

登場人物も何んとか覚えておらず。

そんな中、

末摘花姫は、やっぱ最強だわ。

★ 8 月 17 日

だれも読む人おらずで、

ここんとか長らく閲覧数の途絶えていた本、

ブックウォーカーに有料で出すことにした。

更に、値上げしてみた。^^ヱッ。

相変わらず表紙作るの面倒くさい。

シジルの使い方忘れてるし。

とはいえ、ペイント 3 D にもなれてきて、

マウスで描く絵にも誤魔化し、忸忸、技術もついてきたし、

今回はわりと早く仕上げた。

が、痛恨の極み。

申請したらつきかえされてしまった。

まじびびった。

どうやらファイルの添付の仕方が宜しくなかったようだ。

と言うわけで、只今審査中。

★ 8 月 6 日

土曜日、「この世界の片隅に」見た。

帰りが遅くはじめての 40 分ほど見逃してしまった。

静かにじわじわとくる話だ。

本当に、普通に暮らしていた人たちが、大量に死んだんだな。

自分の中では、『殺された。』だ。

明らかに、不条理に殺された。だ。

世の中のバランスが崩れてきて、

なんだが不穏な感じがする。

一人一人が自分の頭で考えて欲しい。

扇動された愚民にならないで欲しい。

世の中は、どこへ向かっているのだろう。

★ 8 月 4 日

殺人的な暑さ。

気象学的には、災害級の暑さ。

ブックウォーカーでのご入会ご祝儀相場も終わり、

ついに多くの本に埋もれてしまった。

そもそも、芥川賞受賞作が人気上位にこない時点で

書店としてどうなの？

人は人。

ぼちぼち書きかけの作品を遅々として書いておる。

ぱぶー滅亡騒ぎで右往左往してしまいとんだ寄り道をしたものだ。

自分でも自覚あるけど、一般受けしないな。

いっちゃんんだが、今書きかけの作品、

もっと暗いぞ。

★ 7 月 23 日

角川の本屋でカクヨ団体様梓発見。

なんだそれ？ と思い調べてみた。

カクヨム：<https://kakuyomu.jp/>

これだ。

運営側の目にかかれば、教育指導電子化と、

あれよあれよと本ができるらしい。

こんなシステムがあったのね。

登録しようか、どうしようか、甘い囁きが心揺さぶる。

色々調べてみたけど、中での柵が面倒くさそ。

登録保留。

★ 7 月 12 日

第 4 作目、申請中。

何事もなければ翌 0 時に登場。

今回も Sigil-0.9.15 で作成。

前作、ルビを入れるも行間に失敗。

第 4 作目にて行間幅寄せ、

更に、改頁、フォントサイズ変更取得。

しかし、大して意味なし。

大体コツが分かったんで、ここいらで一息。

パブーが終了しないんだったら書きかけの新作書こうト。

★7月9日

ブックウォーカーで自分の本買ってみた。

あっ！ 表紙が表示されない。

お試し0円書籍も買ってみた。ラノベっつやつ。

小学館から出してるやつ。

注意事項等も必要なのね。忘れたた。

漫画も買ってもた。

もちろん0円。

重くて駄目だ。

途中でやめた。

なんかおもしろい。

★7月8日

電子書籍にはページという概念がないのがつらい。

レビューで揃えてみたところで、人それぞれ。

機種やフォントの大きさに全く変わってしまうので、

必死に設定したところで意味がない。

ベタ打ちの文章であれば大したことはないのだけれど

詩スタイルの文章ではきついな。

★7月7日

七夕か。

今更ながらブックウォーカーがどんなサイトか調べてみた。

ラノベにいけてる店なのね。

だったらジャンルラノベにしたらいいじゃん、と思ってみたり。

新作だと、プロ本に紛れて並んでて何かすごい。

それにしても、自分でいうのも難難なんだが、

図柄がいかにもち～＊なっ、ではなく、

手作り感に溢れてて、素人さんってな感じ。

あだしごとはさておき、

個人出版の文芸・小説少なすぎて一抹の不安が。

パプー閉めるのもったいなきがする。

★7月5日

キンドルプレビューアダウンロードしてみた。

行間の設定反映されてなかった。ゲゲ。。。。

ブックウォーカーの認証の時、

お姉さんがじゃんじゃん投稿して～とか言ってたけど、

個人出版の部、ほぼ漫画。。。。

文芸・小説部門少なすぎて萎える。

もっと市場広いのかと思った。

別なところ、開拓しようかさえ思うけど

あっちこっち出店するの面倒くさいな。

個人情報ばら撒きゃなんないし。

★7月2日

今日も平常運転 パブーに書き込み。

ブックウォーカーに2冊目投入。

皆さまの端末にはどう読み込まれてるのか全く分かりません。

3冊目制作中。

今度も Sigil-0.9.15 で制作。

改ページ機能使ってみた。

読んでくれてる人の端末にどう入り込んでるのか。。。

旨いレイアウト方法が分からない。

今度はKindleのソフト インストールしてみよ。

以前、Kindle出店した時どうしたかって、

全く記憶にございません状態。

★6月28日

閉店延びてる。

どんな大人の諸事情かしらん？

見受け話があるのかしらん？

そんならそうと早く言っとくれ。

自力で電子書籍作るの大変なんだから。

その間、本書けないし。

宙ぶらりんが一番落ち着かないね。

★ 6 月 27 日

Sigil は面倒くさそう。

しかし、そこは何でも経験。

Sigil-0.9.15 インストールしてみた。

日本語対応だけど、ツールバーが日本語に対応してない。

どうすんのよと、ここであつ～ん！ とやられる。

取り敢えず、テキスト読み込んでみた。

流れにのって、気がつけば電子化された。

次は、ルビをふって縦書きにチャレンジ。

難なくクリア、と思いきや、

げげげっ！

スクロールしない。

人の HP 盗み見して、スクロールのコマンド置換してみた。

すべて水の泡よ。

電子化壊れた。

ここで大きく停滞。

色々調べてみたら、別の指示だった。

バージョンによるのかしらん？

何か行間空きすぎで気に入らない。

行間縮めてみた。

ルビがちっさく1行とってやんの。

そこは、仕方なしとあきらめる。

意味がないけど折角なので目次も作ってみた。

全く意味ないけど。

案外できてびっくりだ。

後は表紙作って終わりなんだけど。。。

表紙の制作がめんどくさい。

★6月17日

EpubCheck をインストールしてみたものの、

使い方が分からず、結局、アンインストールしちゃった。

しかも、外国語表記でちんぷんかんぷん。

今度は、Sigil をインストールしてみようと思う。

★6月16日

電子書籍化ソフト LeMe をインストールしてみた。

理解するのにまる一日費やした。

書籍化するのにまた一日かかった。

やってみたら簡単だった。

自分的には、ロマンサより好きかも。

★6月8日

表紙が気に入らなくて作り直した。

フリー素材から色々盗んでみたけれど、

結局、自分で作ることにした。

★6月6日

表紙を作った。

かくかくと マウスで描く 不自由な絵。

そんな感じ。

★6月3日

一方、里見八犬伝は着々と読み進んでいる。

10巻までたどりついた。

いよいよ虎がりまできた。

あとすこしじゃない？

★6月2日

なかなか思い通りにいかない今日この頃。

ブックウォーカーの認証ができたのはよかったが、

そこから先にぜんぜんすまん。

パプーが無くなるのを痛切に感じる。

とにかく、表紙をなんとかせねば。

令和キタァキタァー(° ヲ°)—ァァァァ!!

★5月26日

ついに！ というより、やっと BOOK ☆ WALKER の認証がとれた。

個人情報開放しすぎじゃないの。

書店に並ぶには、まだまだ先の話ですけど、

どうにかこうにか、ここまでこぎつけました。

★5月7日

現実逃避したくって、

手相見てたら珍しい手相に仏眼相有り。

あるあるあるある、すごいんじゃないの。

靈感、全然ないけどね。

と、思って画像見てたら、

結構、仏眼相見かけたけど。。。。

全然めじらしくないじゃない！

とはいえ、全く心当たりが無きにしも非ず。

人をひき殺しそうになったことあり。

ブレーキとアクセル踏み間違えて、ひやりはっと！

これも車ねただが、

子供飛び出し注意で注意して止まっていたら本当に子供が飛び出してきた。

などなど。

幼少の頃は、彫刻刀を飛ばした先にご学友が。

歩いていたので間一髪で大事に至らず。

立ち止まっていたら、膝の裏にぶすりと QQ 搬送の大騒ぎになってたかも。

などなど。

傷害・人殺しなど犯罪者にならずにこれたのは、

ひとえにご先祖様のご加護のおかげ。

★5月1日

令和 キタァァァ * キタァァァァァ——(° ヲ °)——* ァァァァァァァァ!!!

雅子さまの笑顔に 何故かほっとし 嬉しくなった。

★4月30日

平成最後の朝。

Kindle見に行ったら、この前上げた本販売されてた。

表紙無くても審査通るのね。

★4月28日

ブックウォーカーの著者センター認証できない。

こまったこまったまいっまいったいやいやなんとも。

十連休。

休める人はよかったね。

ロマンサーで書籍変換してみた。

ぶっく★うおーかの当てが外れて、

仕方がないからキンドルにのせてみた。

表紙つくんのめんどくて、そのまま載せたたら表紙抜け。

表紙が無くても審査通るのかしらん。

★4月23日

forkn に投稿してみたはいいが、

なんとなく、発展性がない感じ。

今日、bookwalker 登録してみた。

順序を間違った。

認証うけれね〜と思ったら、

作品なければそもそも認証ね〜し。

キンドルはって〜と、

入金先の銀行が限定されていることに初めて気がついた。

足がつくのが嫌で、こっそり地方銀行に印税貯めたらと思っていたのに。

仕方がないので、都市銀行にかえた。

そんなわけで、

今日は、個人情報ばら撒きまくった。

★ 4 月 22 日

やばし！

キンドルからお知らせきてるんだけど。

ろいやるて～ってどうやって受け取るのさ。

ケチって自分で出店したわいいが、

英語分かんないし、翻訳ソフトが笑えるれヴェる。

訳したところで意味不明。

貧すれば鈍する。

貧乏人は一生立ち上がれない。。。。てこと？

って、使い方まちってる？

★ 4 月 21 日

謎の熱が出た。

今更インフルエンザ、とも思ったが、

食欲有るし、熱も高くないしで違うと思う。

多分、疲労。

極端な気候の変化についていけず。

それにしても、腰とお腹がいたい。

★ 4 月 16 日

今日は作品ワードにこびべこびべこびべ三昧。

ハードウェアに保存していたわけだが、

何だか悲しくなった。

ノートルダム寺院の塔だって崩落してしまうんだ。

パプーが無くなっても仕方がない。

自分もいずれは死んでしまうんだし。

作業しながら思った。

形あるものは何時かは滅びてしまうんだ。

ハードウェアに保存したからってどうなんだ？

これだって、いずれは劣化して、復元さえできなくなるんだ。

そんなこと思いながら、

だったら、大手の片隅でも居候するかな、

と、考えて見たりした。

★ 4 月 15 日

『forkN』にあくせく入力してます。

読者 0 です。

規模はちいさいのかな？

ここでは、新作出せば何人かは読んでくれるものですが。

何か、寂しい。

例えて言えば、都落ち的な感じ。

難民になった気分だ。

★ 4 月 14 日

角川 G の何ちゃらとかいうとこ、

ろいやるてー 50 % だけど、なかなかよさそ。

と思って行ってみたら、引いた。

何か場違いな感じがした。

パブーとよく似た様式の店を見つけた。

『forkN』とか言うところ。

取り敢えず、間借り。

大手進出の是非は、そのうち考えよう。

★ 4 月 13 日

今日、パブーが無くなることを知った。

一瞬、目の前が白くなった。

何時かは、こんな日が来ることは想像していたけれど。

どうしよう。。。。。

キンドルは表紙を作るのがめんどくさい。

どっかないかな。

無料で、お手軽に載せられるところ。

取り敢えず、作新保存しなきゃ。

だあ〜、考えただけでもめんどい。

★ 4 月 12 日

あたしゃ、自分でいうのもなんなんなんだが、

人の中でもかなりの曲者と心得ておる。

にもかかわらず、

チャレンジして来ないでくれ。

にもかかわらず、

普通じゃあり得ない対応とか口の利き方としないで欲しい。

ましてや、

『被害者意識』高めなんで。

★4月7日

ま、誤解されたらなんなんなんで、

鼻から入れたのは、あくまでも、麻酔ですから。

それも耳鼻科で、ですから。

反社会活動ではありませんから。アシカス。

★4月5日

たりら～鼻から麻酔～♪

初めてっす。

何か、らりほ～ノ

朦朧として眠い。

なんとなく、脳に沁みこんでる感。

多分、昔は麻酔なしでぐいぐいしたんだと思う。

★ 3 月 31 日

明日 いよいよ 新年号 発表だ。ドキドキ。

明日から いよいよ 新年度。

新年度に思う事。

水分補給。

★ 3 月 26 日

南総里見八犬伝毎日大した時間じゃなけど少しづだが読んでいる。

非現実的すぎ。

そのせいもあってか、何か変な感覚に襲われる時がある。

幻覚とか幻聴に似た、現実を逸脱した感じ。

2,3 日ほど読まなかったら、何か変な感覚に襲われた。

多分、禁断症状。

まるで覚醒剤のようだ。

やったことないけど。

★ 3 月 24 日

フィギャーの世界大会見てた。

ザキトワ選手のインタビューなんですけど、

折角のザキトワさんの声に、

強烈なおばちゃんの声のせんなっつ〜。

わざわざ通訳の人もついてるって〜のに、

やめてくれ。

本当に、やめてくれ、ヽ(´▽｀)ﾌﾟﾝﾌﾟﾝ。

★3月17日

里見八犬伝 面白いよね。

ちょっと、何言ってるか分からないこと多いけど。

なんで文語体ってあるんだろ。

庶民レベルで読みこなしてた、ってことに驚きだな。

しかも、活字じゃないし。

★3月10日

あれよあれよという間に はや3月。

ゲーム断ちからはや3月。

ゆんべ、げ〜むに夢中な夢を見た。

禁断症状かしらん。

★2月24日

日本文学研究家のドナルド・キーン博士が亡くなられた。

日本の本は一体どれくらい世界の国に広まっているのだろう。

古典を読みこなすには、日本人でさえ大変なのに、

異国の人はどのような感覚で読んでいるのだろう。

以前、ドストエフスキーの本の中で、

切腹が、何か変に理解されて書かれてたことがあったけど。。。

日本に英米文学、独逸文学、露西亜文学等々専門家がいるように、

異国にも、日本人の持つ独自の世界観や文化を理解した専門家がいるのは嬉しいことだ。

★ 2月19日

暮れから鼻づまり病が治らない。

原因がさっぱり分からない。

両穴ふさがって、ほんと死ぬかと思う。

そんな臨終の淵をさまよう今日この頃、

一念発起して、馬琴作 南総里見八犬伝読むことを決心した。

流石に原文は無理。

活字にしたもの読んでます。

割りと事細かに書き記してあり、文章全てを理解するのはできないけれど

情感が伝わってきて、寧ろ原本の方が理解しやすかったりする。

★ 2月5日

昨日、南総里見八犬伝・現代訳読み終わった。

なんかもっと色々あった様な気がしたが・・・

と思ったら、簡略された本だった。

最後の方は、どたばたと登場人物多すぎてもはや識別不能なレベル。

死んだはずと言われても、ばっさりカットされてるわけで、

そこは想像力で補うべし。

今度、原作読んでみよっと。

★1月22日

確かに、里見八犬伝はおもしろいんだけど、

登場人物は多いわ、名前は長いわ、似ているわ、

次から次へと人は死ぬわ、

あんた、誰？ 状態。

★1月17日

里見八犬伝を読み始めた。

完全、詳しい内容は忘れてしまったが、

読んでるうちにまだらぼけに思い出してきた。

嗚呼、おもしろや、おもしろし。

本当に読んでておもしろい。

あれから何人腹切りしたか、

血生臭さも乱世ならば仕方なし。

どうせ読むなら、こうでなくっちゃ。

日本人だな～、とつくづく思う。

★1月10日

ゲド戦記、完読。

やっと解放された。

積み重ねた歴史が無くて亜米利加人ってかわいそう、と思った。

ページ数を増やさなきゃならい、何か事情があったのかしらん？

何だか同じことぐるぐるごちゃごちゃだらだらと説明してもらった気がする。

ファンタジーアイテムをずらりと揃えて、

なんじゃらの剣の威力も発揮することなく、話は地味に終わってしまった。

最後の章を書くにあたって、かなり勉強されたことが伺える。

V巻は、興味の少ない事ごちゃごちゃやくどくどたらたらを除けば、

わりと面白かった。

奴隷制度だけは自然な感じでリアルだったのが印象的だ。

次の予定は、

南総里見八犬伝。

2019 年

★1月6日

ゲド戦記、外伝を読んでV巻に突入。

色々考えたけど、何が悪いって、読む時期が悪かった。

人格形成の初期の段階で読んでいたら、違っていたかもしれない。

特に1巻はユングの心理学に沿って書かれた作品との事で、

当の昔にくぐってしまった自分としたら、なんだかね。

ファンタジー要素にしても、物心ついた時から、

妖術使いだ、魔法使いだ、戦隊ものだとみてきた自分としては、何だかね。

世間の評価に、過大に期待しすぎたのもいけなかった。

フェミニストも古くてうんざりだ。(もともと好きじゃないネタだ。)

時代は過ぎてしまった。

外伝読んで更に萎えた。

随分と突っ込まれたのか、

本や漫画やアニメ等、読んだり見聞きしたりして得たものなのか、

解説本みたいなやつは、後付けの言い訳がましい感じがした。

だったら物語としてちゃんと書いたらよかったのと思う。

とても残念だった。

因みに、指輪物語は全巻持ってるよ。

一応、完読したけど、なんとなくしか覚えてない。

でも、読んでる最中は面白かった事は覚えているよ。

★1月5日

平成最後の正月。

自堕落な生活に終止符。

今年の抱負は、、、、、、

『ゲーム断ち！』

誓うアル。

★ 12 月 22 日

どうすんのよ、今年終わっちゃう。

振り返れば、ゲーム三昧な年であった。

反省。

★ 12 月 19 日

すべてのファンタジーがゲド戦記から派生しているかの様な言われよう。

名前云々あるけど、あれって聖書からきてんじゃないの？

それに、日本の武将も本名やたらと明かさないし。

本名で呼ぶと支配されるって、お侍さんをイメージしたけどね。

★ 12 月 16 日

ゲド戦記には色々悶着付けてるようでやな感じだが、

発想は面白いと思う。

不完全な感じだからこそ、読み手の想像力を掻き立てるところが有る。

アメリカには、修験者も仙人も武士も騎士もないから仕方がない。

多分、インディアンは多神教の自然崇拜だと思うけど、

白人達は、先住民の生活を破壊しながら征服してきたから、

神々や精霊といった人の力を超えるものを認められないのも仕方がない。

ましてや西欧世界には、東洋哲学の『無』の概念がないから仕方がない。

いいところまで行っているのに到達できない。

そんなもどかしさを感じるけど、文化が違うから仕方がない。

なるほど、自分は日本人なんだなとつくづく考えさせられた。

読むことで、潜在的に持っている宝に気づかされたという意味では、

確かに、凄い本であるのだろう。

★ 12 月 15 日

ゲド戦記Ⅳ迄読んだ。

確かに面白い話だったが、読んでてつまらなかった。

というのが率直な感想だ。

物語の要素はおもしろいけど不完全な感じがした。

なんとなく居心地悪く、違和感をかんじるのは、

神様がいない。

言い換えれば、精霊がいない。

知識は詰めるが、修行をしない。

具体的には瞑想とか、一番大事な第六感を養うような鍛錬をしない。

だから、地の果から戻ってきても開眼しない。

悟りがない。

剣に対する扱いもいまいち。

日本人の刀に対する思い入れが強すぎるのかもしれないが。

学校で教えないことって、日常の中で自然と対話するのかなと思えば、

そっち方面かおと拍子抜け。

おばちゃんの愚痴くどくど長々主張されてもな。

魔法は人間の潜在的な力と知識で成すもので、

超常的な存在は、闇とか邪とかでくくってしまって、

結局は、否定しつつも白人特有な傲慢さはぬぐえない。

まだ2巻有る。

多分、これからすごいのかな。

★12月9日

3巻まで読んでの感想だけど、

違うと思うが、

ゲド戦記って、日本のパロディ見たい。

★12月8日

ゲド戦記Ⅲまで読んだ。

読んでてすごくもどかしかった。

くどくどたらたら心理描写がぐだぐだ続いてるってのもあるけど、

超常現象が沁みついている日本人的感性にとっては、

なんか、あれ？ ってない感じ。

米国人が読むにはあれでいいんだろうな。

諸説あるが、

『0』や『無限』を探し出した印度は偉大だな・・・と、つくづく思う。

全6冊あるらしいし、

最後まで読まないで世界観は分からないらしいし、

とにかく、すごい本らしいし、

ひょっとしたら、翻訳が下手だったのかもしれないし、

とにかく、全巻読破すっぺ。

★ 12 月 2 日

12 月になってしまった。

今年は 何だかいつもより早い気がする。

歳を取ればとるほど、1 年が速いと感じるらしい。

なまはげが、無形文化遺産に認定された。

東北のなまはげ種は海岸沿いにあるとか。

海路で伝承されたのかな？

子供が必死になってび〜び〜泣く姿が、なんとも面白い。

どんどん時代が変わって、人の移動も激しくて、価値観も多様化しているけど、

やっぱ、残して欲しいと思う。

★ 11 月 25 日

月がとっても明るいから、なんかいい事あるかしらん。

寒気の性で、空気が綺麗になったからと言えば身もふたもないが・・・。

スポットライトののように、月の光が照らしてくれる。

きっといいことありそう。

と、思ったら、何気にメール開いてびつくり！

英語のメールで、読めね〜。アマゾンから買ってないよ。

と、そこはグーグル翻訳で訳してみた。

相も変わらず妙ちくりんな文章だ。

すっかり忘れとったわい。

も〜5年も経つのかぁ〜、キンドルに本のせてから。。。。

5年かけてやっと売れた。

なんて奇特な方だ。

買ってくれて人に幸せがきますよう。

まいどっ、おおきに！

★ 11月23日

初雪や〜 あぁ〜初雪や 初雪やん。

ゲド戦記 1巻完読。

ゲドさん、色黒、縮れ毛って、

暴力的とか残忍な白人とか、

物語の舞台を固定させないようにしながら人種を特定。

読んでてなんか違和感。

作家さん、白人だから書けるよね。

って、どうでもいいとこと気になっちゃいまして、

物語としては読んで面白いです。

★ 11月18日

表現することは、人間の欲求の一つ。

絵を描くこと、音楽を奏でること、作ること、

踊ること、演じること、そして書くこと、等々。

人それぞれ、自分にあった表現方法がある。

やたら喋り、というのもそうだ。

色々あるうちで書くこと。

これが私の表現方法。

ならば、何を書くのか。

つまり、何を表現するのか。

色々人の文章を読んでいて、

つくづく思うことは、

やっぱり、美しい文章を書きたい。

心に染み入る音楽のような文章を書きたい。

文字や言葉は、表現するためのツールであるけど、

自分にとっては、物語は文章を作るためのツールであるように思われる。

そういえば、相田みつおはどうなのだろう。

彼が表現したかったのは、言葉なのか書なのか。

気に入らない時は、買戻して焼いてしまった聞く。

ということは、主体は書ということか。

言葉だけが先行しているようだけど。

★ 11 月 17 日

今頃、ゲド戦記。

昨日、読み始めた。

明治の文体に比べたら、ぐいぐい読めちゃうね。

この勢いなら、あっという間に全巻読めそうだ。

まだ、1巻読み終わってないゲド。

★ 11月8日

行方不明の親戚さがしているんだけど、

死んだことは知ってるんだけど、

ま、色々あって軌跡をたどらなければならないわけで、

名前検索してみた。

昔書いた書籍がヒットした。

それだけ。

まだあるんだとびっくり。

子供がいるからその子で名前を検索してみた。

すごくばい人見つけたけど、

その人であるならなんとか生きていたみたいでよかった。

だけど、よくよく考えてみたら、実名だすかしかしらん？

つくづく、子供は親を選べないものだった。

本人はとくても、散々生きた果てに辿り着いたとしても、

それにつき合わされた子供は、そこから生きていかなきゃならいんだから。

親と子供は別の人格だ。

親の残骸を背負わされて生きなきゃなんないなんて、

理不尽な感じがする。

それは、はた目から見た感想であって、

当の本人は、また別の考えかもしれない。

★ 11 月 3 日

明治の翻訳本のオスカー・ワイルド借りた。

久しぶりに、サロメを読んだ。

2 作あって、森鷗外訳も有。歌舞伎したのかしらん？

サロメやっぱ (・∀・) イツ!!

サロメ だ〜いすき。

そして他には、鶯と薔薇。

久しぶりに読んだ。

和題は、ナイチンゲールと薔薇とか色々訳されてるけど、

これも、(・∀・) イツ!!

薔薇の棘がぐいぐい行くところなんて ぐっとくる。

あの、幸福の王子書いた人？ 何の救いもないんじゃないと、

初めて読んだ時はびっくりした。

身もふたもない感じが更にいい。

ワイルドとえば、日本人にとっては、

何てたって『幸福の王子』なんでしょうけど、

幸福の王子は載っていませんでした。

原文で読んだら、さぞ美しかろ。

本当、語学ができないのって損してるよな。

★ 10 月 31 日

しょ～くれなきや、いたずらするぞ～。

と言うわけで、今日、原稿を投函してきた。

結果はどうあれ、すごくほっとした。

★ 10 月 20 日

恒例の時期がやってきた。

去年は大慌てで、3 日くらいで仕上げたけど、

今年は 3 週間弱ある。

例のごとく、気がつくのが遅く 2 日ほどで仕上げたわけだが、

「やる気あんの？」ってな感じで、

趣旨を完全に無視してる。

これから読み返して、修正するつもり。

修正したところで、これ以上は無理。

★ 10 月 8 日

明治の翻訳本、借りてきたけど・・・

・・・重い・・・。

★ 10 月 5 日

今のこの時代、政治家にノーベル平和賞授与するのはどうかと思う。

財団の私的な賞に、評価基準がどうのと

いちゃもんつけるのはもってのほかかもしれないが

人類全ての国民を対象とした世界的な賞となった今

願わくば、名も無き人の地道な活動こそ評価して欲しい

と、わたしは思う。

ほんと、よかった。

★ 9 月 24 日

あ・・・・・・・・夏が終わった。

平成最後の夏が、終わってしまった。

★ 9 月 23 日

この炎天下の中、墓参り、3 件はしごっす。

熱中症なるかと思った。

運転してて、意識飛びそうになったし。

自分が彼岸にいった〜する。

★ 9 月 9 日

ゴーゴリの隊長ブーリバを読んだ。

一体、信仰って何なんだろうと思わされた。

そこまで信仰を固持しなければならない社会って、

今の時代じゃ考えられない。

特に、日本人には理解しがたいものではるが。

人を殺すのには後ろめたさがある。

何にしても口実が必要。

敵を殺す口実は色々と考えだされてきたが、

信仰は、随分と勝って良く利用されたてきたものだとつくづく思わされた。

未だにそうだ。

信仰を建前に、蛮行をする輩はいるし、

異教徒ということで、迫害もたたない。

日本人にはなじみがないとは言え、

以前読んだ、「大黒屋光太夫」を思い出した。

当時の日本人において、洗礼を受けるということは、

自分そのものである日本を放棄することで、

親や故郷や培ったすべてを永久に失う事であった。

(当時、日本ではキリシタン禁制だったから)

権力に操られた信仰は恐ろしい。

盲目的な信仰は凶器だ。

★ 9 月 5 日

少しずつでわあるがようやく書く気になってきた。

「振り出しに戻る」みたいな感じで。

例えて言えばりハビリしている感じかな。

少しづつだが何となくうれしい。

書いている内容は 暗い話だけど。

★8月31日

アジア大会を見てた。

参加することに意義があるとも言えども、

やっぱ日本が強くなきゃ面白くないよな。

と、思いつつ、

陸上女子のユニフォームって、なんで臍出し足出しなんでしょ。

露出増やせば増やしただけタイムがよくなるんですかね？

に、つけても、

日本のユニフォームって、いい素材使ってる感すごい。

★8月26日

今日、日曜美術館を見た。

戦死した久保克彦さんの卒業作品をやっていた。

現役芸大生の感想も述べての番組であったが、

それを見てて、ふと思った。

「芸術は誰の為のものだろう」と。

年齢も、環境も変われば、物事の捉え方って違うのだとも思った。

一目見れば、細かいことはさておき、

反戦を表しものである事は分かる。

卒業制作ともあって、実験でもあり学びの集大成であろう。

まして、何にも拘束されず描けるのは最後かもしれない。

「自分の為に描いた」

そう私は感じた。

学生という名目で許された自分の時間を、

誰のためでもなく、自分の為に消費するのだという強さを感じた。

それは、認められたい、褒められたい、分かってもらいたいとかではなく。

そして、作品を見て何を感じるかは、見た者の感性次第。

★ 8 月 14 日

これが所謂暗黒期というものなのだろう。

大河ドラマが許容範囲を超えてつまらない。

全体的に、日本の感性が低下している感じがする。

時代が人を作るのか、

この人有きの世の中なのか、

今は、新世紀到来の前夜なのだろう。

こんなにだらけて退屈なもの、

今に、きっと、とんでもない天才が現れるに違いない。

★ 8 月 12 日

死せる魂 2 部 読んでて、

いつの間に、そんな話なんたんだろ？ と、

狐につままれた思いでいたら、

奇跡的に残された原稿を、なんとか物語に起こしたからだった。

★8月6日

2部読んでるけど、本が重くてつらい。

その前に、死せる魂のその後を描いたドラマを見た。

露西亜なんて何言ってるか分からないけど、

かなり誇張されてるし、厳密には違う所もあるけど、

登場人物のキャラの特徴がまんまで、面白かった。

これで露西亜語できたら、ほんと、楽しいだろうな。

★7月29日

死せる魂 ゴーゴリ著の第2部って、

焼いちまったもんだから本当は存在しないんだけど、

あるんで取り敢えず読んでみる。

★7月27日

毎日あじ〜。

なんか夏バテ。

このままちんでもおかしくないってくらいの、倦怠感。

今、ゴーゴリにはまってまして。

死せる魂 別翻訳で2度読みしてる最中です。

続編、本当、読んでみたかった。

★5月4日

ペテルーシカは、社会的風刺なのかのと思ってみたり。

たぶん、テーマは『自我の芽生え』だと思うんで。

作者がどこまで考えて作ったか分からないけど、

社会的背景を考えてみても、色々なことが想像できる。

家に居ながらにして、超特級の芸術を見ることができるなんて、

ほんといい時代になったものだ。

★5月3日

今日は、憲法記念日だから祝日だけど、

今日は、ペテルーシカを見た。

これも面白かった。

コサックの野蛮な感じや、

賄賂が横行する役人や、

お金をばら撒き遊ぶ商人にジプシー女。

まだまだ他にもいかにも露西亜ならではの物が溢れてて、

面白いし、また、分かりやすい。

お姫様の話もいいが、ペテルーシカは

人の（人形だけど）内面を表現して、文学的だ。

お題が現代的だし、ピョートルの動きも斬新だ。

見てて本当に面白いけど、

反レイシズム的な人たちが騒ぎやしないか心配。

★ 4 月 30 日

マリンスキー劇場上映の火の鳥と他 2 つ見た。

面白かった。

劇場ではあれ程の表情や筋肉の動きは見れないだろうけど、

劇場には劇場ならではの雰囲気があるから、

劇場でも見てみたし。

悪役の軍団って、ショッカーの起源かしらんと思ってみたり。

★ 4 月 26 日

2018 年は、露西亜ではバレエの年らしい。

長らくバレエを見ていない。

死ぬ前に一度、『白鳥の湖』見てみたい。

できれば、ボリショイバレエ団で見たい。

さらに我儘言わせてもらえば、

ペテルブルクの劇場で、

まりんすきい〜で火の鳥も。

★ 4 月 23 日

今、勝小吉の夢酔独言読んでいる。

知り合いが、面白いから読んでみれやってから読んでみた。

書いていること、ほとんど分からないわけだが、

けっこう面白い。

★3月29日

春の霞は、PM2.5 やら何やらで、肺に厳しい。

積み重なった負担のせいもあってか、

今日こそ『終わったな』と思った。

切り捨てらるんだ、と覚悟した。

自分は一体何の為に生きているんだろう。

自分の存在価値が全く分からない。

地球上の人たちが、好きなだけ好きなことをしたらいい。

あたりかまわず吸い放題煙草を吸えばいい。

纏いたいだけコロンやら香水やらふりかけたらいい。

浴びたいほど消臭剤やら芳香剤をまいたらいい。

苦しむのは、わたしだけだもの。

どうして生きているのか分からない。

これから先どうして生きていけばいいのか分からない。

嗚呼、終わったな。

★3月16日

今日は昨日に比べ、がくと気温がさがったけど、

日の日差しにしろ、塵っぽい大気にしろ、

なんとなく、春の雰囲気を感じさせる。

本当、塵っぽい。

毎年飲んでる花粉症の薬が、いよいよ効かなくなったか、

と、思っていたら、今年はいつもの何倍だかの飛散量だとか。

息吸うのに、へとへとだ。

こんな状態で呼吸機能検査は、

アスリートに例えて言えば、

何往復も全速力で疾走した感じかな。

★3月15日

今日は暖かった。

今、二葉亭四迷の日記、読んでいるところ。

何の理念があるわけでもなしといいつつも、

露西亜の脅威から日本を守ろうとしている。

が、その実、中々思いが届かない。

それどころか、思うような職にはつせず、

母親の仕送りやらなんやらで生活に困窮する有様。

そうした思い通りに生きられないもどかしさを

自分は浮雲の文三の様だと嘆いている。

そういえば、二葉亭四迷が訳した、

ツルゲーネフの「ルージン」もそんな感じかな。

志を持って世に出たはいいけれど、

自分を発揮する場がなくて、もやもやと毎日を過ごし、

どうにもこうにも自分を生かすことができなくて、

何も成さずにただ年を取り、

そのまま、多くの人の中に埋もれてしまう。

大抵の人はそんなものだ。

でも、二葉亭四迷は自分の意識とは別なところではあったけど、

ちゃんと、名前を残したよな。

★3月6日

くよくよ考えたって仕方がないや。

なんとなく、思考が死んでる感じ。

書きたいという意欲が全然湧かない。

追い込まれないと、生きないタイプ？

報われるのなら、どん底もいいけど、

苦しみだけで終わるんなら、嫌だな。

★3月5日

どうやら、切り捨てられたようだ。

しかたがない。

凡人 of 凡人。

そして、面倒くさい体質。

(\ *t 㐂 `) はあ～、

ため息しか出やしない。

★ 2 月 11 日

知り合いに、「死んだ子を数えてはいかん。」と言われた。

確かにそうだ。

気分が滅入る。

去ってしまったものを思うより、

これから生み出すことを考えよう。

思えば、長らく何も書いてない。

ゲームにうつつをぬかして、時間を無駄に消費して、

創作意欲さえもすっかり失くしてしまった。

差し詰め、賭博に明け暮れ、身を持ち崩し、

廃人同様な状態とでも言ったところかな。

モチベーションってのは人によってさまざまだけど、

自分にとっては音楽かな。

よくは分からないけど、刺激されるだ。

心の中に入り込んで、刺激するんだ。

音は、自分の中で、言葉になろうとして、

だから、自分は、言葉にしようと思うんだ。

★ 2 月 7 日

やる気が出ないのは、たぶんゲームのせいかな？

そうこうしているうちに、1月も終わり、

2月にはいて、

ぼけ～っとしてる間に、

確定申告がやってくる。

時は残酷だな。

Twitter ではいつの間にかフォローを外されていた。

しばらくぶりで、馴染みの作家さんの本読もうとしたら、

本がなくなっていた。

SNS では、よく来ていた人の訪問が途絶えてしまった。

自分だけが取り残されるようで、

さびしい……。

相も変わらず、こうしていることは、

不幸なのか、それとも幸せなのか、

他人と楽しい時間を共有するってことは、

なかなか難しい事なのだな。

★2月6日

どうしたらいいのか分からない。

書きたいという意欲が湧いてこない。

このままではいけない、

という気持ちだけが空回りして。

★2月4日

最近、嫌な夢をよく見る。

ますます気分が落ち込む。

昨日、豆まきをした。

豆の威力で、嫌なことも粉碎されたらいいのに。

正しくは、落花生だけど。

二葉亭の本と読んでいると、

学校で採点される日本語って、

そもそも正しいのかと疑問を持つ。

中学に入ると英語の授業が本格化していく。

文法を学び、訳をさせられる。

問題が出されれば、ちゃんと文法に沿った文章にしないと、

丸はもらえない。

作文を書く上で、はっとしたことがある。

英語には公式がある。

また、受験用日本語にもメソッドがある。

それが、自分の文章を変えてしまっていた。

なるほど、村上春樹氏の評価の一つにこんなことにあるのなか？

新しい日本語の様式で書いた文章。

作家は、実験しながら文章を書いている。

新しい日本文学を生み出そうとしていた時代に於いては特にそうだろう。

そうした意味では、日本語は随分と変わってしまった。

今じゃ、自由に文語体を読み書きできる人は稀だ。

私たちが使う日本語のスタイルはそう長くはない。

決して完成形ではなく、これからも変わっていくのだろう。

そうであるのに、さもこれが正解だということがあるのだろうか。

だからって、突拍子もなく変化するとも思えないけどね。

★ 2月2日

皆既月食は見れなかったけど、

昨日ははっとするような月を見た。

なんだか、なぐさめてでもしてくれているような、

不思議な面持ちのする月を見た。

昨日はとてもつらかった。

悪いのは、やっぱり自分の方じゃないかと、

環境に馴染めないこの体質が悪いのだと。

やっぱり、切り捨てられるのは自分の方だ。

何に反応しているのか、分からないまま

ついに、顔までもがひりひりとしきた。

これが自然の摂理なら、淘汰されるのは自分。

野生の身なれば、死ぬしかなかりう。

耐えに耐えて、苦しみもがいて死んでいくのか、

社会からは排除され、貧困の末の孤独死か、

いずれにしても、みじめで醜い死に方だ。

そんな末路を、漠然と覚悟した。

山道を登る中、見え隠れするその月は、

大きく、赤い、その月は、

遠くはあっても、やがて肩の高さになって、

まるで、寄り添ってくれてるような、

月が美しくさえあってくれれば、

野垂れ死にしてもいいかとさえ、

どうにも仕様のないこの身なら、

行けるとこまで生きていこうか、

と、そう思えてきた。

★1月28日

ここ最近、ユーチューブ見てて、新しい言葉覚えた。

「文化盗用」

白人が、着物きただけでバッシングよ。

恐ろしい言葉だ。

ってか、日本って文化的にも人種的にも弱者ではないよな。。。

ともあれ、

物語を自由気ままに書く身としては、

個人の自由な発想さえも規制されるようで、

そんな言葉は、恐怖でしかない。

いちいち気にしていたら、なにも表現できなくなる。

★1月27日

どうも今年も不発だったみたい。

思い入れ深いテーマ、ぶちこんだだけに、

尚更、無念。

何がダメって、やっぱ……

お陀仏ですかね？

まったくもって、お陀仏ですよ。

ま、はなっから、場違いな感がありましたから。

だからって、やめやしませんよ。

そうありながらも、

二葉亭の本まだ読んでいるけど、ちんぷんかんぷん。

文語体にいたっては、もはやお手上げ。

でも、当時の人たちが、

新しい日本語を生み出そうとする努力はあめいじんぐ！

二葉亭四迷は、自分は文学を学んだことは一切ないけどと

何度となく繰り返し言及しているけど、

それこそ、私の様に、文学の知識も知的な要素も何もない者でさえ、

何かを書きたくて、何かを書こうと、何かを書き、

表現することができるのは、

先人たちの賜物。

まさに、奇跡だね。

2018 年 平成 30 年

★ 1 月 10 日

今年になって 10 日も過ぎてしまってからなんなんだが、

全然、休んだ気がしない。

自分のためにしたことと言えば、ゲームかな。

全然、充実感がない。

それって、自業自得の範疇。

そのほか、

パコの魔法の絵本、見たくらい。

そのほか、

海月姫、見たくらい。

そのほか、

君の名は。見そびれたくらいかな。

★1月8日

平成30年が来てしまった。

相変わらずのゲーム中毒。

何やってるんだろう自分。と、思いつつ、

取り合えず、ゲームしとこか、と。

気が付けば、明日目前よ。

その内、人間崩壊するんじゃない。

明日になるのが怖い。

何もしないで夜が更ける。

あと何年生きられるかわからんつ～のに。

気持ちだけ焦るわ。

ま、ここは、取り敢えず、ゲームの続きしとこか。

★12月12日

人さまにはど～でもいいことだけど、

喘息の薬切れててんの気が付かなくて、

そのまますっとった。

なんか息苦しいと思った。

のもさがながら、

朝、手が震えなくて、恰好、快調にキーボード打ってたけどね。

これも人さまにはど〜でもいいことだけど、

自分の作品読み返してて、＼* 注釈の読みが、

本文に入り込んでてぶっくらこいた。

今、直したけど。

これもまたまた人さまにはど〜でもいいことなんだろうけど、

この前、期限が切れるので本を返しに行ったら、

受付で強い衝撃を受けた。

香料、だめなんだよね。

化学物質あれるぎ〜の気があるもんで。

ぽん！ とか言ってアロマ入り柔軟剤、得意になって付けんで欲しいわ。

あれってアロマとか言ってるけど、人口的に作った香料でしょ。

ほんとの処、攻撃してきた香料の正体は何だか分からないけど。

いずれにしてもはっきり言って迷惑なんだよね。

て、言うより、

凶器だよな。

★ 12 月 1 日

くだらないと思いつつも取り合えずゲーム。

何してるんだろう自分。と、思いつつも、まずはゲーム。

書きかけの話書き上げなきゃ。と、思いながらもまたゲーム。

ゲームは人間を墮落させる。

何が面白いのやら、きわめて単純な動作。

悪魔は、人を魅了する。

感覚に、忍び込んでくるんだ。

ひたひたと神経に絡み、

のよろよろとその触手を伸ばして、

やがて脳まで達すると、

すっかり支配されてしまうんだ。

うまくできてるよな。

★ 11 月 17 日

科学技術の近代化は想像でも、実感としても、感じることはできるが、

普段遣いの文章や書き文章の近代化って、あまりぴんとこないな。

文学の世界では一般常識であるのかもしれないが、

自分のような無学な者にとっては、今更ながらも、趣深い事である。

自分で文章を書いている中で、いつも、「た」とすべきか「ている」となるものか、

過去なのか、今なのか、物語とともに話は進むものなのか、

時制と人称にはいつも迷わされる。

私が主役である場合、他の人の行動や心情と言ったものは分かるはずがなく、

しかし、それでは、物語が一方的で、読み手に取っては分かりづらく、苛々する。

私側から話を進めつつも、ある時には客観的な視点で物語を進めていたり、

違和感をもちつつ、変なところは無視をして書いている。

そういう点では、外国語を知る人には、整理がしやすいような気がする。

知り合いの話しによれば、村上春樹氏は、英語で文章を組み立てると聞いた。

それを翻訳して、日本語の文章にするらしい。

他の言語に比べたら、日本語はかなり奔放な感じかな。

主観か客観か、迷ったら、最悪主語をぶっとばしても文章としては成り立つものね。

★ 11 月 10 日

目から鱗。

ヨッル浩子さんの蓋鄭四迷の翻訳における「純粹言語」としての「た」形

という論文を読んだ。

何気なく、普通に、二葉亭の翻訳読んでいたわけだが、

何が近代化かって、なるほどそういうことかと理解でできたし、

また、自分が普通の感覚で読めた理由も分かった。

「た」「いる」って、露西亞文学から生まれた用法なのね。

★ 10 月 29 日

余裕こいて、そろそろかしらんって HP 見たら、締め切りまじかだった。

2 日で書き上げ、校正に 1 日かけて、あとは印刷するばかり、

今年は間に合わないかと思った。

って、毎度毎度、この印刷が曲者で、往生するわぁ〜。

これで、ついに、やらかすのか〜と。

紙は詰まるわ、印字はかすれるわ、

それでもどうにかこうに立て直し、

いざ本番！ と思ったらインク切れ。

ここか〜、ここでしくじるのかぁ〜、と思いつつ、

せっかく書き上げたのにここにくじけてはいかんと気を強くもち、

どうにかこうにか印刷したったわ。

あとは、出すだけ。

★ 10 月 26 日

まだ標準語が確定してなかった時代の口語体。

おもしろすぎる。

そんなことはさて置き、

株式会社トゥ・ディファクトってどんな会社？

と思って検索してみた。ﾌﾑﾌﾑ。

んでもって、<http://www.2dfacto.co.jp/> から、

パブ〜に入ってみた。

へ〜、って何が変わったんだろう？

★ 10 月 19 日

二葉亭四迷の翻訳本、2 巻まできた。

わりと口語的な文章で、振り仮名がふってあって、

思いの外、読めないこともないが、

その口語が今時使わない言い回しだったり、

うっかりルビがないと漢字が分からなかったり、

お手紙の文章に限っては、いやはやもって、

そうらえば候にて、誠候なるは、故に候なり。

．．．．．そんな感じだ。

★ 10 月 15 日

今年は、想定外に病だれな半年であった。

おかげで創作意欲もそがれてしまった。

そうこうしてるまに、アレヨアレヨと寒くなるし、

それでまた、創作意欲がそがれるし、

まったくもって始末にいかん。

★ 9 月 10 日

ぎゃ～、太陽フレア直視しても～たっ。

なにゆえ？

いかんせん、そこに太陽が輝いているから。

そういや、二葉亭四迷さんって、

白夜の露西亜に悩まされ、

白夜の翻訳に疲弊して、

絶命したんだしたっけ？

やっと、二葉亭四迷の翻訳、借りてきた。

読むのが楽しみ。ワクワク。

★8月20日

ま～なんですな。

毎日毎日雨ばかりで、夏はどこいっちゃんたんでしょね。

全然、気持ちだって晴れやしませんよ。

ほんとにね、今年は病気ばかりで、

やっと手術までこぎつけたはいいが、

やっぱり、切っ貼ったは痛いもんですよ。

どうせ、休みなんぞは通院で終わってしまってたんだ、

雨だろうが、槍だろうが、かまやしないけどね。

濡れていくより、からったした方はまだましってな感じかな。

なかなか書く時間がもてなくて。。。。

薬の副作用ですかね、なんかげろげろ。

来週も、ずっと、病院がよいですよ。世界標準では今週か？

★8月3日

クミコさんとのやりとり、

今だったら、かったるいことなしでLINEですんじょうよな。

メールだっていいし。

シナモンさんご愛用のPCって98シリーズかしらん？

村上春樹読むのにも、時代考証しなきゃなんないだ。。。。

★7月23日

今度はねじまき鳥読んでいる。

うっかり、『携帯使えば?』と時代錯誤に陥ってしまう。

ああ、時代は先へ先へと進んでいるんだなと実感する。

★6月30日

今、春樹のダンス・ダンス・ダンス読んでる。

素直に、おもしろい。

ノルウェーの森、未だ下巻読む気しないけど、

ダンス・ダンス・ダンスは、おもしろい。

★5月25日

なかなか咳が抜けない。

本当に風邪なのか?

ただの風邪なのか? と思いつつ。

ら〜ま・やなのは、まはば〜らたでしょ、てな感じで読み始めた。

が、余りの重さに体力の限界。

免疫力が落ちた所に、そして風邪。

聖仙の呪いだあ〜。

てなことで、身の丈にあった少し軽めの本を借りて来た。

短編なので、なんだかなあ〜。

何時か、全編、完読したい。

★4月17日

人中のかえる、ら～ま・やな6巻読み終えた。

実質、6巻で話は完結するのね。

乳海攪拌出、7巻に出て来た。

．．．．．これか～。

ってか、これっぽっちかぁ～？

まはば～らた、読まない駄目なのかしらん。

そろそろ暖かくなってきたので、古物語の続編書こうかな。

と、いっても、途中まで書いて放置してるんだよね。

あんまりにも長くなってしまったので、

いっそ、小僧が活躍した分は外伝として分離しちゃうかな、と思っておる。

★4月6日

新年度を迎えてしまった。

人中のかえる、らーま・やな6巻まできたぜ。

悪役は卑劣だったりする癖に、

法に反していると、真っ当な意見を言ったりしたり、

悪党の頭は頭で、自分の非を認めつつも悪道を突っ走り、

その癖、変な呪詛にびびっておったりで面白い。

★3月17日

人中のかえる、らーま・やな 4 巻まできた。

猿王射抜いてそんな言い訳ありか〜。

人は獣を何時でも狙い、

獣は人に討たれるものだ・・・みないなことってますけど。

ま、そんな屁理屈もありかなと

楽しんで読んでいます。

★ 3 月 9 日

昼休憩って、60 分しかないんだよね。

超忙しいと、45 分に削られるんだよね。

30 分まで待って出てこなかったら、ランチとして失格でしょ。

今日なんか、5 分くらいで食べたったわ。

ロココなんとかつのたのんだんだけど、

野菜の刻み具合が、キュービックで、

も〜餌としか言いようがない。

間髪いれず口に押し込んで、

味わう暇などありやしない。

★ 2 月 16 日

らーま・やーな 2、やっと借りてきた。

やっぱ面白い。

うだうだして、なかなか森に出発しないけど、

でも、面白い。

印度人って、結構、ねちねち面倒くさい人達なのかな？ と思ってみたり、

それもまた儀式的で面白かったりする。

★ 2月11日

牛乳屋のテヴィエを2回も読んでしまった。

ってか、1回目の記憶が殆どないけど。

屋根の上のヴァイオリン弾きは、耳にはよくするが、見たこたない。

なんか虐められるイメージがあったけど。

ロシア人だったかな、に迫害されても信念通して逞しく生きるみたいな？

それが演出ってもんかな。

作られたイメージって怖い。

牛乳屋のテヴィエを読んでは、いたって友好的で、

居留区とはいっても、悲劇的な感じは受けなかった。

が、最後の2章、なんだか『行きなさい』かな？

読んだ後、なんともいえない、後を引いた。

オバマさんが言ってたな。広島に来た時、

「ある日、突然、日常を奪われてた人々」ってな感じのこと。

本当、そんな感じだ。

多かれ少なかれ、やがては自分の身にも起こりえるかもしれない。

この日常が消えてしまうってことが。

例えば、災害で財産全てなくすとか、

病気になって、働けなくなかって、お金がなくなって、

全ての入金が滞って、今日食べるお米もなくなつて、

歳だけどんどんとって、飢えと寒さに耐えるしかなく、

唯一、そこを抜け出せるとしたら、それは『死』かな？ と。

自分の場合、自分の責めによることが多いのだろうが、

そう思うと、前に進むのが嫌になる。

それなのに、時間は容赦なく前へ前へと止まることなく進むだけで、

紛らすこともできずに、支えも無く、遂に耐えられなったら。。。てなつ、

多分、鬱ってこんな感じなのかな、と思ったりもする。

★2月5日

未だ豆まきしていない。

鬼に囲まれ、

この世は 全く魑魅魍魎。

★1月29日

図書館臨時休館しとった。

らーまー・やーな、記憶が持たないかもしれない。

登場人物解析図、どっかにないか探してみたけど、

困った時の、ういきーさんかな。

詩としてもすごいらしいが、翻訳ではその素晴らしさが伝わって来ない。

もどかしい所だ。

記憶があるうち、

早く、次が読みたい。

★1月28日

めぐる造影剤。

自分は普通のつもりでも、何か変。

それは、まるで飲み過ぎた次の日のよう。

多分、異物が邪魔しているせい。

・・・と、失敗の口実にする。

★1月27日

自分だけが、ついてなくて、

自分だけが、神様から見放されているようで、

先の見えないどん詰まりの中、

ただ、目の前にあることだけをひとつづつこなし、

毎日が、その繰り返しで、

そうして、死ぬまで行くのだらうと漠然と思い、

こんな生き方でもいいじゃないかと妙に納得してみたり、

それでも、時には、夢を見ては、浮かれて見たり、

こんな自分で何が悪いと開き直ってみたり、

どうにもならない渦に巻かれて、

息つく間もなく溺れもがく中、

いっそ死んでしまいたいと願いながらも、

そのくせ、やっぱり、死ぬのが怖かったりする。

★1月26日

お笑いの絵本作家が無料配信しているとかで、見に行ってみた。

綺麗な絵じゃの～。

作品の良い悪いはさておいて、巷では、無料配信についてが問題になっているとか。

自分的には、無料熱烈大歓迎！！ですが。

小説や随筆云々文章系のものなら、無料は結構損失出るかもしれないけど、

絵本なら、あんま問題ない様に思われる。

絵本と画面じゃ全く印象が違うし、作品的には別物だと思う。

気に入れば、絵本で欲しいと思うでしょ。

現に、売れ行き絶好調！とかで、うらまやしい。

それより、商標権取得マニアおやじの方が脅威的だ。

まじでびびるわぁ～。

『言論の自由』『表現の自由』の危機じゃない？

★1月22日

ラーマヤナ読み始めて面白いけど、登場人物大すぎて把握しきれん。

登場人物、メモしてればよかったと後悔している。

精霊の守り人始まったけど、前回の話、すっかり忘れてるし。

ふぁんたじ～や。

2017 年

★1月19日

今年の目標！

んじゃ、

『根拠のない自信を持つ。』

．．．．．ってのはどうだろ。

★1月17日

そんなわけで、菅原氏について検索してみた。

嗚呼、自分に欠けているものって．．．．、

やっぱ、人間力だよな。

なんてったって、人間力だよ。

それをも越える才能があれば、だけれども、

それでも、やっぱ、最終的には、人間力だよな。

嗚呼、だってしょうがないじゃない。

かえるだもの。

★1月16日

油断してたら年が明けてしまった。

それも、随分と日経っちゃったじゃない。

嗚呼、今年こそ、めじゃ〜でぶ〜したい。

そんなことはさて置き、

昨日、ラジヲ聞いていたら、菅原敏さんが詩を読んだ。

クラシックの番組だったのかな？

BGM 何個も変えて読んでいた。

ブランドとのコラボとかで活躍しているらしい。

が、自分は初めて知った。

詩で生業をたてるということは並大抵のことではない。

どんだけ凄い詩なのか、興味津々で聞いてみた。

なんか、ふつ〜っぽい詩だった。

所謂、よく知るタイプの詩だった。

こんなんでもいいんだ、とも思った。

誰でも書けそうな詩ではあったが、

誰でもそうはいかないんだろうなとも思った。

才能は、詩そのものにもあるものなのだろうが、

存在そのものも、また、才能のうちなんだなとも思った。

★ 12 月 28 日

今気がついたが、メール機能がなくなっている。

★ 11 月 20 日

一昨日、応募した作品を読み返してみたら、

ぎょ！

脱字発見。おまけに、助詞が変。

あ〜あ。

お金に目が眩んで急ぎ働きしたせ〜だ。反省。

★ 11 月 12 日

何はともあれとりあえず、お金が欲しい。

下心アリで応募はしたものの、全然趣旨に沿わずに、書きたいもの書いて、

多分、今度も撃沈。

途中で、何か可笑しいなとは思ったけど、

日にちもアイデアもないんでそのまま出しちゃった。

書き上げたことだけに満足して。

ところで、会社が変わって、何か変わったのかしらん？

★ 11 月 10 日

PC 固まった。

自分の思考も固まってしまうみたいで、

腸が第二の脳なら、さしずめ PC は第三の脳とでもいいでしょうか。

ホント、チャンスをばうに振った感じだ。

★ 11 月 6 日

電話に何回か知らない番号から着信があって、まじでびびった。

某コンテストに応募したばかりだったので、まさか！

料金不足で取り立ての電話か～。

恥の上塗りか～、と、まじでびびった。

うち帰って電話番号みたら全然違う番号なので一先ずほっ。

内容はともかく、一作仕上げたところで充実感を感じていたところだったんで。

もっと、他に出す予定だったけど、P Cが調子悪くってそっちに気とられて、

結果、出せなかった。

その分、恥をかかずにすんだけど。

★10月6日

P Cの調子が悪くて、長らく死に体であった。

最終手段、初期化、するまで追い込まれたが、

なにが効いたか、なんとか動き始まった。

一応、人安心。

★8月27日

やっとこ、現代詩とやらもどきを投稿し終えた。

プリンターでそのまま印刷してもよいのだけれど、

ここは、心を込めて、手書きにすることにした。

一文字一文字、怨念、忤、思いを込めて丁寧に、

・・・・・・の筈だったが。。。。汚い。

取敢えず、やるだけのけのことはやった。

後は野となれ山となれ。

暫くは、黒歴史の更新に励もうかと思ふ。

★8月17日

自由に書いたら定型詩。

色々調べて見てたけれど、現代詩の特徴は、『不安定』。

そんな内容に、その文章に。

そして、極めて個人的である。

戦前戦中の型をぶっ壊す！ をスローガンに、

内面性を掘り下げるあまり、難解さを極めて行ったとかで、

それを経て、更に今、

個から共有へ。

失われたリズムよ再び。

という動きもあり。

要は、多種多様。何でもあり。

自分の好きなスタイルで、好きなことを書いたらいいんじゃないの。

ってことですかね？

それにしても、べたな詩、書いちゃいました。

賞金がちらつくと、思考が固まっちゃうんですね。

★8月14日

現代詩って何だ？

色々調べてみたが、結局のところは分からない。

自分の書いた詩は、一定の行数で書かれているので、

多分、定型詩。

現代詩には型がないということだ。

ならば、自分の詩は現代詩とは言えない。

こりゃ、まじい。

だからと言って、かえたとして、多分無理。

自分にはこれがあるからして、その為に変えるのは、

つまり無理。

でも、出してみようかと思ふ。

★ 8 月 13 日

世の中は、お盆にオリンピックと何かと忙しいわけだけど、

思い付きで、詩を投稿しようかと思ふ。

そんな訳で、詩を書いてみた。

いざ、清書。

そんな段階まで持ち込んだわけだが、

よくよく投稿要綱をよ読んで見たら、『現代詩』と記載があった。

『現代詩』って何だ？

分からないので、検索してみた。

・・・・・・さっぱり分かん。

つまるところ、現代人が書けば『現代詩』じゃないの？

ということで、ここは、このまま押し通すことにした。

が、しかし、『現代詩』って、なに？

★7月23日

全員ってわけじゃないけど、今回の芥川賞受賞者も文学部出てる。

やっぱ、専門に学ばなければだめなのかな？

世の中を捕らえる感性や文章のセンスだけでは駄目なのかな？

何を教えてくれるんだろうか？

物事の捉え方とか考え方とか流行とかとか。。。

文章とか構成のテクニックとか。。

そう言うのって、人から教えてもらわなければ見に着かない物なのだろうか？

行けば誰でも文学が分かり、且つ、書くことができるのものなのだろうか？

一体、文学とは、何で構成されているのだろうか。

★7月22日

なかなか他人から共感を得ることのない自分の作品。

天才な詩人であったなら、一体これを、どんな風に表現するのだろう。

何をどうしたら、人の心に響くのだろう。

それは、決して迎合するのではなく。

天才的な詩人であったなら・・・・・・。

どのような思考をしているのか、その人の頭を覗きたいと思って見たり。

何を、どうしたらいいのか、何処に行けば、何を開けば、みつかるのだろうか。

★7月16日

新作をあげてみた。

たった1頁の詩だけど。

読む人は、何を書いたか分かってくれたらうか。

我々に、一体何ができるのだろう。

本当に、誰か、どうにかしてほしいと切に願う。

読んでもらえるとは思えないけれど。

★7月7日

正直、どうしたらいいものか・・・。

今、『反逆者たち』の手直しをしているわけだが、

どうこをどう治せばいいのか、皆目分からん。

まったく。

待っていた郵便がなかなか来ない。

来るのは、督促ばかり。

どうゆ〜こっちゃ。

★6月22日

この前、沖縄で、殺された女の子の追悼と、米軍への抗議集会があった。

自分は、それを、ニュースで見た。

しい～なんとかとか、アルファベット表記された団体の女性が、

声高に舞台の上で演説している姿が映し出された。

それを聞いて、なんだか怖くなった。

憎しみを煽るような感じがして。

そして、また、考えた。

我々の敵はいったいなにか？

自分の怒りは、不平等な協定にある。

明らかな罪人であったも、裁かれないということ。

それは、人間の尊厳を無視したことだ。

その女の子や多くの女性は人間とみなされないということ。

広義な意味では、我々日本人はもとより、

この日本領土に住む人々皆、

USAにとっては、人間としては認識されてないことを意味している。

幸い、女の子を殺した罪人は、日本が先に捕らえることができたけど。

他にも、どうして米軍兵士は蛮行に及ぶのかを分析する番組も見た。

軍隊に入って、まずされることは、個性をなくすこと。

侮辱的な苦痛でもって自尊心をずたずたに引き裂き人格を破壊すると言う。

それは、軍としての統制をとるためと、

人の顔を見ても敵と思えるようにすること。

そんな教育を受けた元兵士には、女の子の叫ぶ声も、

苦痛で歪んだ顔も、一切、届かなかったのかもしれない。

それとも、必死に抵抗したからこそ、

嘗ての兵士として受けた教育が、フラッシュバックの様に、

その罪人の脳や感覚を狂わしていったのかもしれない。

仮想敵国が現実化しつつある中で、

我々の身の安全をどう守るのか。

我々の怒りの意思表示として、抗議集会やデモは必要なことだと思う。

何もしなければ、捕まえたとして、裁くことさえできなかった。

少しづつではあるが、日本の権利が認められつつある。

ただ、感情的に憎しみを煽るのはどうなのだろうか。

あの怒りの矛先が、何処に向かうのか、

秩序的な枠さえも超えやしないかと、恐怖を感じた。

★ 6 月 11 日

最近、『反逆者たち』を手直ししたい衝動に駆られる。

樹の最後が綺麗過ぎた。

もっとあがいてもよかった。

葛岡の感情も、悔しさをもっと出してもよかったかな

と、思っ見てたり

いやいや、やつは激情型の人間ではないから

抑え気味がかえって感情が表現できていいのでは

とか、迷って見たり。

娑婆での時の流れに抵抗できず

もどかしさを感じながらも流されるしかない自分。

まとまった時間が欲しいな。

でも、お金がないのは困るしな。

あ〜あ、でぶ〜したいな。

★5月26日

わかるかなあ〜

わっからねえ〜だろ〜なっ。

ってな感じで、千早ふる、ちょこっと訂正してみた。

★5月21日

あらしかしらん？

亞書でしたっけ。。。。

連想させられて、何か怖い。

★5月15日

弔辞とかあってびっくりした。

某さんの作品、ちょっと時間ができたから、

後でゆっくり読もうと思っていた矢先に、だ。

一体、何があったんだろう。

人には人の事情でものがあるんだろうけど。

自分は自分で、何となくだか、ふっと、それは漠然と、

こんな物語が書きたいなというものが頭に浮かんだ。

陪審制度推進派の青年と、陪審制度に乗る気のない青年の話。

欧米的な自分達の権利にこだわる青年と、

東洋的な排他的気とは言わないまでも、

身の丈で静かに暮らしたい青年と、

そんな二人の対比を書きたいなと思った。

それには、資料を取り寄せなきゃなんないし、

それに、多くの資料読み込まなきゃなんないし、

それって、時間が必要。

それに、理解できる頭脳が必須。

はあ～あ。

★5月8日

そうは思っているけど、やっぱり気になる作品の評判。

閲覧数を逐一見たりなんかして。

自己嫌悪に陥ってみたりして。

一体、何が自分に足りないのか、

人から見れば、誰かの真似になっているのか、

そんなことばかり思ってしまう。

★5月4日

気がつけば連休。それも後半。

頑張って新作出してみた。

今が旬！！

この時期を逃しては・・・と、一大決心。

「千早振る」にはちょっとした思い出が有って、

これを期に、自分になりを書いてみた。

有名な演目なので、何度か耳にはしているが、

一番、思い出のあるのは三木助かな。

今では、彼を知らない人がだいぶ増えてしまったが、

一時期は、名も顔もよく知られたもので、

今風に言えば、いけめん落語家ってところかな。

その後だな、

若くして非業の死をとげたのは。

ワイドショーで見ると、寄席で聞いた、

「千早振る」が思い出された。

とんだ、ちはや違いですが。

★3月15日

そろそろ書きたい気がする。

でも、まとまった時間がとれないし。

夜は眠いし、朝は起きれないし。

老化現象ひたすら進む一方で、たいろくは益々衰えるわで、

何か、ちゃ〜じしたい気分。

★3月13日昨日も朝っぱから震災関連特集。

デヴィットボーイが亡くなって、何となく、一つの時代が終わった様な。

彼が、両性具有であったことや、日本が好きであったことなんか、すっかり忘れて、

その存在さえも、記憶の中に埋もれていた。

結局、人なんてそんなもんだ。

そいや、昔、よく曲が流れてたっけ。

自分も、一枚買ってみたっけ。

そして、その時の衝撃を思い出す。

明らかに、自分の中に刻み込まれた彼の感性だ。

その時、自分も、ごたんぶんに漏れず、大きな影響を受けたのだ。

英語は分からないので、歌詞カードだけど。

静かに語りかける様な歌い方は、その歌詞にあっていた。

謎めいた物語をぼつりぼつりと記憶の中から探りながら拾いながら語っている様な風で。

自分も、こんな歌詞が書けたらと思った。

そう言えば、マザーグースも何か謎めいた不思議な詩であるな。

その根は、イギリスに生えた人だったのだなと思って見たり。

そんなことを、思い出した。

★ 3 月 7 日

昨日、たれ流していたテレビから、某番組で震災の話が聞えて来た。

ドラマ仕立てのドキュメントだ。

何だか、言葉のチョイスが鼻について気持ち悪くなった。

あたかも、感動しなければおかしいみたいな。

ねらった感じが嫌だった。

自分も、人から見たらあんな感じなのかなとぞっとした。

気がつけば 2016 年。

★ 1 月 31 日

気がつけば、随分、前に、としを越していた。

そして、明日から、はやいもので、もう 2 月。

そんなことはさておき、

今となっちゃ一昨年あたりかしらん？

米で、ポンペイの映画作っただけな。

あれって、評判、ど〜だったんだろ？

ってな、そんなことが、ふっと頭に過った。

自分は、まったく見る気がしなかったけど。

ポンペイって、自分のみならず他の日本人にとって、

シンパシーを持つ人が少なくないんじゃないかな。

テレビ番組で、よく特集がくまれてたし、それをまた見もしたし。

展示会に来れば、何故か行ってしまうし。

それって、どうしてだろ？ と考えてみた。

一瞬で全てが消えてしまった悲劇への興味や同情なんだろうけど、

正直、遙か昔の、遠き国の、対岸の火とは思えない。

日本が火山国だからだろうか。

度々、そうした悲劇を歴史的にも現代に於いても目に目のあたりするし。

中でも、火砕流に吞まれた瞬間の人型に対する印象は強烈だ。

自分の中では、広島・長崎で起きた原爆の悲劇をおもい起させる。

そこに居たという跡だけ残して、人々の生活も命も一瞬に消えてしまった。

例えば、公園の階段に遺された沁みとかに。

何故か、ポンペイの悲劇は、自分の中に刷り込まれた記憶の一部のようにもなっている。

米映画のように娯楽映画の一つの素材として扱われるのにはたまさしさを感じる。

と同時に、ハリウッド映画も随分㗎㗎のネタ不足なんだなあ〜と思ふ。

あの、ノアの箱舟もどうだったのでしょね。

★ 11月29日

家、メンテ中。

寒いわ、忙しいわ、なんか気がそがれるわで、書く暇なし。

早く、部屋に戻りたい。

★10月3日

今日の文化的活動。

5頁更新した。

割と晴れていたのでも太陽光で結構蓄電。

そして、夕飯は、ソーセージとジャガイモとで独逸人風味を味わう。

今日は、朝から煙草と消毒薬攻めで部屋の中は毒室状態。

お疲れ、空気清浄機。万全ではないけどね。

まだまだ夜もがんばって。

じゃ、寝る。

★10月27日

それもこれも、何にするたって神頼みよ。

賞金たって、宝くじ当てる感じで必死に神様拜んで見たり。

思いが強すぎるんだな。

って言うより、慾が異常に深いのだろう。

ほんでもって、他力依存度が半端ない感じ。

そりゃ、も～、お守りだってはじけるさ。

願かけしたり、お守りを持つなってことは、

つまりは、神様に頼らず、己の力をつけろってこと。

★10月26日

結局、書いてない。

なかなか時間がとれなくて。

うだうだ、だらだらと時間は過ぎていくだけで、

ま、こんな時は取敢えず、寝るとするか。

★10月25日

ってな訳で、どうしても賞金に目が行っちゃうわけで。。。

されど、お金ばっか追いかけて、それに合わせて作品書くってのも、

それも自分の軸も定まらないうち、

かえってぶれぶれになってしまう気がする。

まだまだ自分にはやっておかなきゃならないことだらけ。

まずは、中身を磨かなくては。

★10月24日

ミステリー文学大賞って、賞金が300万円とか500万円ってすごっ！

何で出さなかったんだろう～って、すごく悔やまれるけど、

出したからって貰える訳じゃないんだよな。。。。。

それにミステリーって書けんの？

まったく、極度の金欠病でやんなんちゃふ。

賞金に目が眩んで眩んで。

血圧まで上がってきちゃふし。

これでぶつつん切れたら最悪だな。

何の意図があってか知らないけれど、

テレビつけば、最近『下流老人』の話をよく見かける。

全く、生きて行くのは厳しすぎて、

歳をとるのは恐怖でしかない。

到底、有料ホームに入るだけの財力ないし。

自分の末路は、貧困と孤独死かと恐ろしくて仕方ない。

★10月23日

最近、全然、書く時間がとれない。

体力も、随分回復してきたと思ふ。

明日は無理でも、明後日から、また、書きかけの作品、書きたいと思ふ。

★10月14日

昨日、応募作品だしたったわっ。

いや～、すっきりした。

なんか、大事な預かりもんやっとなんか返せた、そんな気分で、

ほんと、すっきりです。

今日、届いたかしらん？

今頃、山積みになった応募作品に埋もれているんでしょうな。

★10月12日

今日、宛名を書いた。

公募作品・発送の仕方、フェルトペンで書くとよいとあったので、

必死に探したが、全く見つからず、

やっとみつけたのが、マッキー。

これはお告げか？

雨が降っても流されない様、油性インキ細で書いて送れと。

そして、遂に、封じてやった。

後は、何があっても後の祭り。

例えば、誤字脱字とか。

と、覚悟を決めて糊つけてセロハンテープで張り付けて。。。。

あっ、送り状！ と思っても、後の祭りよ。

ちょっと焦ったけど、余計なもん入れるんじゃないって書いてもあったし、

どうせ、送り状なんて見ないんでしょう。

資源の無駄無駄。地球にやさしくってなやつで。

あ、、、、、、 っと、宛名書き見て絶句した。

賞の名前.....間違えてる。一文字だけど、たった一文字だけだね。

すっごく考えたけど、地球にやさしく、懐にもやさしく。

と言わけで、そこは、紙を張って訂正した。

あ〜も〜後は、出すだけ。

お日柄の良い日と思っていたが、ここまできたら、

とっととすませて、さっぱりしたい。

と、言う訳で、明日、郵送するつもりだ。

★10月11日

いらぬ心配であった。

今日、郵便料金がいくらかかるかシミュレートしてみた。

結局、25g超えた場合、文句無しで定型外になるようだ。

それに、A5用封筒探してみたけどなかったし。

そんな訳で、素直に、A4サイズの封筒に入れて送ることにした。

今日は、ここまで。

作品を、封筒に入れるとことで終わってしまった。

続きは、明日。

いよいよ、宛名書きだ！

間違わずに、つまり、一枚も封筒を無駄にしない様、書きおうせう。

★10月10日

やっと印刷終わった。

何の嫌がらせか、それとも何かのお告げか、

すんなり印刷できなかつたりしたけど。

終わりの頁が、トナーで汚れたりして。

そーした無駄遣いって、いらっとすんだよね。

なんせ、金欠症なもんで。

明日は、いよいよ封筒に入れて宛名を書こうかと思っている。

但し、その封筒なのだが、うちにあったかな？

A 4 サイズと A 5 サイズの封筒だったら、ちっさい方が料金安いのかな？

公募・原稿の送り方では、精々二つ折りって書いてあったので、

安いんだったらできたら二つ折りで送りたい。

兎に角、何でも、少しでもお金を書けずに送りたい。

そして、遂に発送！！

と思ったけど、明日、郵便局やすみだった。

★10月8日

今日、印刷したんですけどね、漢字、間違いとった。

ニホンムツカシヲ。

本名で出するか、俗名で出するかすごく迷ったが、

取りえず、この名前で出すことにした。

個人情報が紐付けられて、ネット上においてもマイナンバー制みたいな。

ってか、いちいち誰が誰だか覚えてないと思うけど。

★10月7日

後は、印刷するばかりなんですけどね。

その前に、もう一度、応募要項をがん見してみた。

どうしたって、何度読み返してみたって、

原稿用紙1頁目の書き方のヒントがね。

タイトル・氏名って書いていいの？

それとも、いきなり話し進めちゃっていいんですかね？

公募作品原稿用紙1頁の書き方では、表紙があれば、題名・氏名は必要なしと。

ここは、腹を決めて、一頁には題名・氏名は書かないことにした。

それで落ちたらし方がない。

ま、その前に、文章の書き方で速効ボツになるかもね。

なんせ、文科省御推薦文体からは、離脱しちゃってますから。

★10月5日

あとが面倒くさそうなので、その50万円の公募はやめにした。

気が向いたら、この為に考えた話し、書こうかと思う。

なんか体調悪くて、金欠のせいか、すぐ疲れる。

造金剤、処方してくんないかな。

太宰が、芥川賞頼みこんだという切実な気持ち、わかるわぁ〜。

100万円あったら、自分だったら取敢えず、お肉食べる。

そんな訳で、カモになってる場合じゃないのだ。

ところで、今年も、ハルキストの館、盛り上がるのかしらん。

★10月4日

あぶねあぶね。

欲の皮つっぱると、足元すくわれますわよ。

何だかんだと、漸く、後はプリントアウトするだけ。

そこまでこぎつけたと言うのに。。。

某大賞賞金50万円の文字が。

だったらこっち、いやいや、ちとまてよ、

この作品は、これに応募する為に書いたもの。

インスピレーションが降りたのも、この為のもの。

浮気はいかんよ、浮気は。

でも、日にちがないぞと思いながらも、やっぱり実直に生きるべきかと。

そう思い、別の話を考えた。

そして、書き始めた。

かなり、話しも煮詰まって、ちゃちゃと終わらすつもりでいたが、

ちと、どんな賞か下調べをしてみた。

ふごふごごご。

浮気はいかんよ、浮気は。

人間、実直がいい。

カエルだって、同じさ。

★10月1日

なんか体調わるいんですよね。

だからって、なんもしてなかった訳じゃなく、

金欠に借金背負い込んだ勢いで、

公募こ～な～！ 検索してみた。

そんな訳で、べたな話作ったりして、

また、性懲りもなく、黒歴史を更新しようかと思っている。

もう、作品は書きあげたのだが、書き終えてなんなんだが、

今更ながらに、原稿の書き方を検索してみた。

と、その前に、小説の書き方を覗いてみた。

そして、初心が間違いがちな一人称の書き方を見て、

おやおや。。。。。

一人称で陥りがちな間違いとは、うっかり読者に語りかけちゃう文章と。

具体的には、自己紹介とか。

やってるやってる。ばっちりあてはまってる。

・・・って、吾輩は猫である。名前はまだない。とか何とか読んだことあるけど。

★9月20日

シルバーウィークキャンペーンって、じじばば割で年寄限定いいことあるのかと思った。

すっかり定着したかのようにシルバーウィークが言われる中、

いよいよ明日、けろの日だ。

そんなことはさて置き、書きかけの作品、手付ける暇がない。

雑事に追われて等閑に。

★9月16日

つつても、過去のダイジェストの部分なんですけど。

早く、新しい話に入りたい。

★9月15日

人生山あり谷あり谷あり谷ありそして病あり。

そんな訳で、腹痛もなんとか一段落して、また、書き始めた。

なかなか本題に行けず、うだうだと前置きを辛抱強く書いて来たが、

やっと本題に入る所までやってきた。ヤレヤレ。

★9月3日

とは言うものの、何の反応もないってのも時たま辛くなるものだ。

結構、読んでは貰えているようだが感想ね〜し。

ツイッター開設すればふおろ〜されね〜し。

やっぱり自分には魅力がないのか？

人間性に問題があるのか、作品の中身が全く悪いのか。

それならそれで、仕方ないことだけど、

ただ、自分のレベルってのは、怖いけれど知りたいものだ。

どこが悪いとか、有るとしたら何が評価されるとか。

自分が成長できないのは、正にここに有るのかもしれない。

自分以外の人の考えや感想に触れることができないことに。

つまりは、コミュニケーションの能力が極端に低いということ。

どうしても有意義な人間関係を構築できない。

それでは、適切なアドバイスも感想も得ることなどできないだろう。

何時までも自分の思考から抜けだせないで、

何処までいっても、いくら書いても、人いよがりな自己満足になってまふ。

故に、誰も、自分以外の人、遠巻きに傍観するだけになってしまふのだろう。

正に、孤立無援のスパイラルやぁ～！

★8月28日

白熱する近所の煙草 vs 消臭スプレー合戦。

そして、蚊取り線香、殺虫剤スプレーの応酬。

その他、農薬並びに下水、漏れたガス、不明の揮発性の何か。

恐ろしすぎる。

お蔭で、すっかり自律神経がやられてしまった。

ただでさえ、繊細な神経なのに・・・。

まじで、防毒マスク買おうかと思案中。

と、そんな中、めるし～僕若しくは嬢ちゃん、それとも僕と嬢ちゃん。

ダウンロードしてくれてたのね。

★8月19日

今日は腰据えて書きかけの作品書いていた。

かなりやった気がした。

でも、実際上げたのは、1頁が2頁のもんであった。

又吉のAmazonのレビューも好評で、すっかり酷評の数に水を分けてしまった。

マジで益々又吉が羨ましい。

ツイッターのフォローから外してしまったけど、

だからって、別に嫌いになった訳じゃない。

とは言え、ファンかと言えばそうでもないけど。

ただ、友達になってやってもいい感じ。

でも、向こうが相手にしないだろうけど。

そんなわけで、未だ、フォロワー人っ子一人いやしない。

つくづく友達のつくれんやつだわ。

★8月15日

今日から頑張ろう！ と思ったのに、

隣のつきっぱ蚊取り線香害で、頭痛と胸痛でできんかった。

吐き気もしたけど。

何処へ行ったいいのか四面楚歌。

自分は、淘汰されるべき種なのかと諦めも〜ど。

★8月14日

今、チェ〜ホフのユモレスカ読んでいるんですけど、

何が可笑しいのか分からん。

たまに、ぶっ。と笑えるものもあるけれど・・・。

これって、自分の情緒欠乏症なのか、それとも国民的ローカルな笑いなのかな？

★8月13日

全くやる気がしない。

無気力とか、そんなレベルじゃなく、

明らかにやる気がない。

そうさなあ～、

やる気を打ち消す勢力が活発化しているっての？

考えようとする、「考えるんじゃね～」と否定している様な、

敢えて、何も考えない、感じないといった様な、

そんな感じ。

『排斥』って言葉に近いかな？

★8月6日

やる気がしない。

本当は、何もしたくない。

ってか、これって、老衰かの～？

★8月4日

子供の自分に、将来、こんな現実が待っていようとはどうしてわかろう？

人は、残酷だ。そして、残忍だ。

苛めの体質は、大人になっても変わらない。

寧ろ、知恵と度胸があるだけでもっと陰湿だ。

今、自分の置かれた現状を例えて言うなら、

「十字架にかけられんとすキリスト」でも言おうか。

十字架でなければ、血祭りとでも？

何の罪で、自分は、今、正に、十字架にはりつけられんとしているのだろう？

一体、何の為の生贄か？

昨日程、自分の存在が疎まれているとは思わなかった。

それは巧妙に、隙あらば、蛇に狙われた蛙のごとく。

邪魔ものは消せ。それも痛めつけて。

最早、周りは人はみな敵で、そして、その他の大勢は人の不幸を伺う傍観者。

孤立無援。

『自分は死なねばならない』と猶予もなく覚悟させられた。

自分達の快樂嗜好の為に、邪魔なわたしは血祭りにあげられたのだ。

晒し者にされ、侮辱され、人格全てを否定され。

人々は、わたしの血を望んでいる。

それも、わくわくとしながら。

★8月1日

すまぬっ。

わし、激論戦わす程文学詳しくね～。

★7月31日

正直、又吉氏の芥川賞受賞は本気で凹んだ。

最早、自分には万の一もの奇跡がさえないのだと、まざまざと思い知らされた。

自分は、エンターテインメントの世界では全く無用なのだ。

増して、文学の世界に入り込む隙など皆無。

これが、自分の限界というものなのだろう。

何て甘いんだろう。

世の中舐めすぎ。

本を発信すれば、人は読んでくれると思った。

あわよくば、支援してくれるかも。

上手く行ったら、採用してくれるかも・・・と。

そうでなくても、議論を戦わすような仲間とか、

お互いを高めあえる同士にめぐり会えると期待したが・・・。

なんか完敗だ。

駄目な奴は何をやっても駄目だめだ。

誰一人として、鼻もひっかけてくれない。

こうして夢は潰れて行くのかな？

★7月30日

次に、芸術性について考えてみた。

ラノベ等の大衆文学と純文学の違いは、芸術性があるかないからしい。

確かに、文豪と言われる人達の文章や言葉遣い等々には、趣が有る。

文体だけでも、読むだけで、その雰囲気酔うことができる。

『花火』レビューでは、前方では懲りすぎ、その後は続かず息げ入力で、

文体に統一感がないという不満が多かった。

そして、テーマであるが、

そもそも文学とは、特に自分がテーマである文学に於いては、

自分の経験から書かれるわけで、取り巻く環境に大きく影響されるものであるから、

当然として作品の中に、その時代背景が顕著に反映されるだろう。

最近の芥川賞は以前に比べて随分落ちたというのは、そこにも原因があると思ふ。

大体、明治大正戦前中直後と、平成の社会が同じ訳がない。

ゆるゆるな社会の中で、文学がゆるゆるになって行くのは当然のことであろう。

それに、そもそものそもそも、芥川賞は本を売る為のイベントだって言うじゃない。

なんとも、吉本ばりの落ちじゃない。

それに、名に馴染みない新人さんを援助するもの。

まだ拙い文章であるのは当たり前。

芥川賞は、読者のためにあるものではないらしい。

他に、読者を不満にさせることとして、

読者側の質の向上や期待の高さがあげられるのではと。

大体、漱石だ太宰だ何だと普段から読みこなしている人が、

駆け出しの小僧に、満足させられる訳がない。

又吉氏『火花』の受賞は、芥川賞とは何たるものを、

改めて、人々に認識させた。

これらの要素を踏まえれば、正に、取るべきして取った芥川賞と言えるのかもね。

本屋大賞と芥川賞がなんとかとか、物議をかましていたけど、

本質は同じなんじゃない？

ただ、対象のジャンルが絞られているってのと、

一つの権威なってしまったと言うだけで。

本が売れて業界的には大成功であろうが、

作家を見れば、又吉氏の一人勝ちのようで、

他の受賞者の印象が薄くなって気の毒に思える。

そこにもう少し何らかの配慮があってもよかったのではと・・・。

本自体の受賞を疑問視する意見も多いが、

果たしてその力量が芥川賞対象のレベルに達しているかはどうかは、

自分では読んでいないので分からない。

が、想像では、多分、そこそこいっているのではと思われる。

図書館で、空きになったら読んで見ようかと思ふ。

当分、予約も多く、自分の番が回って来るのはまだまだ先のことであろうけど。

それまで、覚えていたら読もうかと。

★7月29日

又吉氏『火花』amazon レビューを讀んでいて、

レビューは、賛否両論、良い悪いは拮抗している。

讀んでいてなかなか面白い。

酷評で有ればある程面白い。

他人の不幸は蜜の味。

讀んでないので『火花』自体の中身は知らないけど、

レビューを讀んで、色々なことを考えさせられた。

先ずは、第一に純文学ってなに？

そして、何がそれ程評価されているのか？ と。

プロのそれも純文学の作家に特に評判がいいらしいので、

ここは三田誠広氏の小説教室を読んで見ることにした。

べた褒めだ。

取るべくして取った、正に純文学のど真ん中をいく最上級の作品らしい。

ってか、その純文学ってなに？

ウィッキーさんを読んだり、知恵袋を読んだりして見たけど、

結局、よく分からない。

でも、これらを読んで自分なりに解釈すればこうかな？

純文学とは、如何に自分をさらけ出すか、とか、

どれ程自分の内面を表現できるか、とか・・・。

どうも、見どころは『自分』であることのようにだ。

また、一般読者とプロとのずれは、評価のしどころが違うことにあるようだ。

読者は、物語性を求めがちだが、純文学でそれは重要なことではない。

あくまでお題は『自分』であって、

自分の内にある葛藤や思いを表すことに重点が置かれるもののようだ。

酷評の中に、山場がないとか、つまらないというのはこう言うことなのだろう。

元々、純文学は詰まらないもののようにもあるし。

次に、純文学とはこういうものであるとということを自分なりに踏まえた人で、

有る程度読みならしてきた読者が、どうして満足を得られないのか？ について。

★7月27日

『古物語〜』最終編、いい加減終わらせなければと思い、

再度チャレンジすることにした。

長々と書き過ぎて、中々本題に入れず、まじ飽きた。

が、このままではいけないと一念発起。

うだうだ書き過ぎた部分を、切って、切って、切りまくり、

大幅かつとするつもり。

・・・・・・・・っ！

見ただけで、直ぐに嫌気がさした。

いっそ、このままでいいんじゃないの・・・と思って見たり。

修正って、書くより苦痛。

★7月26日

いよいよ遂に、明日、『反逆者たち』の最終回だぁ。

思えば、アトム時代、博士と言えば禿髯ビソか何れは爺であったが、

エボルト君登場時に於いては、その若々しさにぶっくらこいたもんだ。

最先端の分野だけあって、若者が台頭するのは決して不思議ではない。

寧ろ、若い頭脳と力が必要なのだろう。

石黒氏のヒューマロイドの登場も、当時、その外見に、かなりの衝撃を受けたものだが、

高橋氏のエボルト君の愛らしさにはいっそう魅了されたものだ。

なにより、消耗しても可愛い仕草は切り捨てることはできないと言うポリシーに感銘した。

自分の個人的願望としては、ロボットの開発に於いて、

機能性の向上は当然のことだが、他国の開発の様に合理化性だけを求めて、

日本人長く抱えている『人間的』な部分を削らないでほしい。

どこかコミカルで愛らしくあってこそ、日本の物づくりはまだまだいけているとも思える。

★7月25日

最近、閲覧客がめっきり減っちゃうわ、

ツイッター見れば、えろっぺ〜ご仁にふおろ〜されちゃうわで、

あんまいい印象のない今日この頃。

しかし、こんなあたにしもいいことってあるもんなんですよ。

遂に、『二の姫』2222。

なんと素敵なぞろ目でしょ。

こういう時って、『人は人に支えられている』って、思えるもんですよ。

自分の力じゃできないもんね。

中には、否定的な感情で読んでいる人もいるのですが、

そんな負の考えはなしとして、素直に感謝！

★7月24日

ツイッターたちあげて見たが、案の定、友達できず。

恐らく、訪れる客人も皆無であろう。

ことごとく、無名である者の哀しさよ。

土俵入りの稽古も再開させたが、

しさしぶりに四股を踏み、左の肢の付け根がいと痛し。

★7月17日

『バケモノの子』は、面白いらしい。

且つ、もんごつ感動するらしい。

自分は、『ケダモノの子』と間違えて覚えてしまってたが。

じじい〜の認識なんてそんなもんだ、キスけ。

それはそうと、タベ、twitter とやらを開設して見た。

プロフィールになんとか貼り付け成功。

気が向いたら遊びに来てね。

★7月16日 緊急告知：ツイッタはじめました

話題は、又吉一色だな。

うらまやましいな。

又吉氏への AMAZON の酷評を読んで思った。

新しい感覚、表現の独自性、深い考察等々、

自分は書けているだろうか。

他人に対する批評ではあるが、読んでいるうちに、自分を顧みていた。

やはり、どうしても、お決まりのパターンにはまってしまう。

云い回しとて、何処かで見聞きした様な言葉の羅列。

物語においても、そんな感じ。

最後は、綺麗にまとめようとしている。

華やかな舞台には上れず、片隅で燻るしかない自分に不甲斐なさを感じつつも、

自分の実力は、まだまだ程遠いと思い知らされる。

★7月15日

どすこ〜い どすこいってな感じで、流石にこりやまずいと思い

閃きで、四股を踏むことにした。

やり方なんて知ったこっちゃない。

と言う訳で、ゆーちゅーぶ見ながらやってみた。

どわぁ〜、疲れた。そして、どば〜っと汗が出た。

次なる目標は、雲龍型の修得である。

★7月14日 その2

実は、先一昨日から昨日にかけて、進撃の巨人を見とった。

噂では聞いていたが、その実は知らないもので。

実写版の公開もされることだと。

感想は：面白かった。続きを見たい。早く見たい。

しかし、第二部は2016年ってじゃないの。

とても、それまで、今のテンションを保てるとは思えないし、

まずは、すと〜り〜を覚えていられるか自信がない。

いやいや、進撃の巨人があったことすら、忘れてしまっているかもねと。

外国でも上映しているようだが、あまりグローバル化は狙って欲しくない感じがする。

めめめ、うじうじ、くどくどと日本人の独特な感性とか、考え方とか、云い回しとか、

つまみどころの満載さとか、色々色々、日本人の壺は忘れないでほしいと思う。

今、政府では、ポップカルチャーのグローバル化を計っているけど、

初めから迎合した作品って、どうなんだろう？

日本文化が持つ独自性に、海外の視聴者は惹かれるってこともあるんじゃないの？

★7月14日

適応できない人間は淘汰されねばならない。

これは、生物の摂理だ。

自分は、煙草の煙の対応する能力が欠如している。

最早、限界。

肺を患い、今度は喉が、抵抗力の低下でぶつぶつ（菌らしい）ができ、

一寸した刺激でもひりひりと指す様に痛くなる。

どの部屋に逃げても逃げ場はない。

昼夜問わず、夜明け前から深夜遅くまで。

寝ていてさえも、耐えがたき痛みで起こされる。

もはやこれまで。

後は時間の問題だろう。

だから、早く死んで、祟ってやろうともう。

呪って、呪って、苦しんだ分呪って。

空気の吸えない苦しさを味あわせて、

本人はもとより、家族、血を受け継ぐ限り崇めてやる。

学生の頃、喘息の苦しみで同級生が死んだ。

高いビルから飛び降りたんだ。

別のクラスだったけど、生前は、見たことないけど、

同じ学年の生徒達で、学校葬をした。

遺影でのその子は笑っていた。

なのに、どうして？

病気の苦しさから逃れたかったとの説明だったが、

当時の自分は理解できなかった。

それだけが理由ではなかったのかもしれないが。

芸能人でも、病気を苦にして自殺した人がいたっけ。

そんな理由で、人は死ぬものだろうかと思っていたが、

今の自分なら分からないでもない。

自分が死んだら、苦しみを味わった分、否それ以上にして、復讐してやりたい。

それが、苦しみを耐える為の支えになっているとは・・・・・・。

そんなことが実際可能なことなのか？

多分、自分はその往生際で自分を怨霊化できる自信がない。

不幸にして、喉元過ぎれば何とやらの、楽天主義であるからな。

だけど、苦しくなれば、やっぱり人を呪わずにはいられなくなる。

★7月11日

今日は何の日だったんでしょ？

祭り？

えらく盛り上がっているけれど……。

今日は、体調わるしで、一日ちんてた。

気道が狭まって上手に呼吸ができなくてで。

読んでくれてありがとう。

また、明日からがんばります。

今日はこれで……また寝ます。

★7月8日

水木しげる氏、太平洋戦争直前にの手記みつかる。

雑誌『新潮』に載せられるとのことだ。

「人を土くれにする時代だ」

「自己にとどまるのは死よりつらい。

だから、一切を捨てて時代になつてしまふ事だ。」

重い言葉だ。

戦争を実際に体験したことのない自分は、どうして戦争を書くことができるのだろうか？

やはり、他人事だ。

人の体験を通してでしか知ることはできない。

所詮は、想像上の悲しさであったり、辛さである。

彼のような生き証人が消えつつある中で、わたし達はどう語り継いでいけばいいのか。

次のまた次の世代へと、繋ぐことはできているのだろうか？

自分の、公開したばかりの作品を読みかえしてみた。

果たして、伝わっただろうか？ 自信がない。

★7月7日

今日は七夕だけど、星が見えない。がっくし。

今、シリーズ物の最終章書いているけど、気分がのらない。

話しの前振りなんですけどね、だらだらと長くて、全然詰まらない。

早く、本題に入りたいのだけど、中々、突入できずで。。。。。。

★7月5日

トンガ、綺麗だな。行ってみたし。

王様の戴冠式って、司祭がするんだ。

国名は、度々聞くけど、どんな国か詳しくは分からないや。

大河ドラマの台詞って、現代的だな。

昔の人って、あんなこと言ったのかな？

それに、随分あっさりと引きさがりよるし。

藩より若殿様より 嫁って。。。。。

当時にしては、進んでるよな～。

★7月3日

この前の前に公開した作品だが、お客さんの足が止まった。

読んでて詰まらないのかな。

長過ぎたかな。

人からの批評聞きたいのだけれど、それに自分は耐えられるのかな。

例えば、どこがどう足りないとか、考え方が有り得ないとか。

一体、自分は、どここのレベルまできたのだろう。

★7月2日

重い物もったせいか、下っばらが痛い。

そんなことはさて置き、自分をつくづく性格がわるいと思ふ。

ああ、ほんと、やんなっちゃう。

それに、無類の怠け者だ。

何時か、絶対、罰が当たるね。

今も、罰の最中かもしれないけど、

また、罰を罰とも思えない所が、どう仕様もない。

まったく、やんなっちゃうよ。

早く、QUOカード届かないかな・・・。

★7月1日

今日、新作上げて見た。

こうね、短い物、何かちょっとしたものをね、書きたいと思って。

本当は連作物、おわらせたいんだけど。

構想中でうっちゃらかしてるものもあるし。

そんなもんをね、仕上げたいとは思っているんだけどね。

長編なもので、時間と環境が欲しいわけなんですがね。ナナナナナナ。

堂々と作家できる人って、羨ましいな。

なんたって、優先できるでしょ。

俗世に邪魔されずにね。

経済的にも口実もつくし。

★6月28日

も～ね、全てに於いてやる気がしない。

人生まるごと全否定された気分だ。

まったくさっ。

★6月27日

お酒が呑めたらどんなにいいだろうか。

なにもかも、むしゃくしゃしたこと、全部呑みほしちまってだ。

自分の体質が恨めしく思うよ。

よっぱらっちゃう前に、痒くなって、鼻がつまって呼吸ができなくなるとくら。

他にもあるよ。

煙草が駄目とか、人工香料が駄目とか、揮発性の薬品が駄目とか、

一体、生きていてなんだってんだ？

環境に対応できない体質でどうしろってんだ？

嗚呼、環境だけじゃないな、馴染めないのは。

お酒が呑めたらどんなにいいだろう。

存分に悪たれて、眠ってしまいたい。

★6月23日

韓国の有名小説家、三島由紀夫著『憂国』盗作認める。

そんな記事見ました。

盗作したとされるオリジナルの文章がこれ：

「二人とも健康な肉体の所有者だった。彼らの夜は激しかった」

これだけで盗作になってしまうのか？

とても不安になった。

自分も盗作してんじゃないかと思うと。

無意識のうちに、聞きかじったフレーズを使用して。

又は、常用の句と思っていたものが固有の表現だったとか。

現に、聞いたことのない歌の歌詞や台詞の中に、

自分と同じ様な表現を聞いてぎょ！ っとすることがある。

向こうが盗作をする訳はなのだから、だったらこっちが盗作か？

怖い、怖い。

自分の作品全てに渡って、云い回しも、語句も、ストーリーも、

何もかもが人の真似っこな気がして。

嗚呼、自分では気がついてなくても、本来はそうなのかもしれない。

以前読んだHP、ラノベの書き方で、こんなこと書いてあった様に記憶する。

良いと思った文章は、じゃんじゃん取り入れちゃえて。

ストーリーの類似は盗作になるけそ、文章の類似は盗作にはならないと。

それを読んで気持ちが軽くなったのを覚えているけど。

本当の所、どうなのだろう？

★6月21日

最近、若者に支持されていると言う『下衆の極み乙女』とやら、

名前こそ下衆であるが、それはともかく、どんなものと聞いてみた。

サビの部分、聞いたことある。何かのCMだったかな？

結局、何言ってんだか聞き取れず、

ま、『声も楽器のうち』ということかなと。

それにしても名前って大事。

自分の作品がイマイ受け入れられないのって、名前も影響するのかな。

カエルなんて、下等生物だし。名前からして負けている感。

本村カエル に本気でしろかと悩んだこともあるが、

如何にも偽物ってな感じでやめにした。

自分のことはおいといて、ただ不思議に思ふのは、

世界の終わりと下衆の極みとか、なんで自虐的な名前つけるんだろ？

それに、個人の名前はローマ字表記とか多いし、何でだろう？

ローマ字表記は、初めは何となくかっちょいいと思ふけど、

誰も彼もつけ始めると、ややこしくってうっとおしい。

全部大文字表記だし。と言って、覚える気ないけど。

いっそ、希臘とかキリルとか、なんならハングルにしてみたら？

因みに、『苔田カエル』いろんな国の文字で表記してみた。

http://uenosato.net:8080/~moji/php/kana_skm.php?frm=yahoo

アラビアセキュリティ上、画像はパブーに登録してあるものしか使えません

(http://uenosato.net:8080/%7Emoji/php/h_arb.php?kana=%E3%81%93%E3%81%91%E3%81%9F%E3%80%80)

ヒエログリフセキュリティ上、画像はパブーに登録してあるものしか使えません

(http://uenosato.net:8080/%7Emoji/php/h_hrg.php?kana=%E3%81%93%E3%81%91%E3%81%9F%E3%80%80)

タイたいセキュリティ上、画像はパブーに登録してあるものしか使えません

(http://uenosato.net:8080/%7Emoji/php/h_thi.php?kana=%E3%81%93%E3%81%91%E3%81%9F%E3%80%80)

デーヴァナーガリーセキュリティ上、画像はパブーに登録してあるものしか使えません

(http://uenosato.net:8080/%7Emoji/php/h_dvn.php?kana=%E3%81%93%E3%81%91%E3%81%9F%E3%80%80)

変態かなセキュリティ上、画像はパブーに登録してあるものしか使えません

(http://uenosato.net:8080/%7Emoji/php/h_hnt.php?kana=%E3%81%93%E3%81%91%E3%81%9F%E3%80%80)

★6月20日

ちえ、芥川賞逃したか。且つ、直木賞もね。

絶対かすりもしない物ならば、賞なんて、けっと思う物なのだろうが、

いざ、それが手の届くところにあるとなると、欲しいもんなんだろうな。

勿論自分も、くれるもんなら、貰いたいもんだわ。

★6月18日

さっきまでこれを見ていた⇒『長寿な鳥の悩みを聞いて下さい』

https://www.youtube.com/watch?v=-E4F1ouP_qw

鶯からホトトギス等の鳴き声、鳥、猫、鳥の鳴き声、九官鳥のあべちゃん、

インコ、そしてこの番組へと辿りついた訳だ。

九官鳥やインコが人の真似をしているのが面白くて、ついつい見入ってしまった。

あたかも、人の言葉が分かるかのようで、

飼い主側が何となく会話を成立させている様にも見えるが、

見ているうちに、鳥の方でも言葉を選んでる様に思えて来る。

そして、上記にあげた番組を見た。

涙涙なくしては見られない。

カエルが泣いた～（TへT）

※もしも見る場合は、ハンカチなりてっしゅなりのご準備を。

内容は、飼い主が亡くなるか何かで孤児になってしまった大型鳥のお話。

鳥は、意思の疎通ができるのか、また、感情はあるのだろうか、甚だ疑問。

たとえできたとしても、犬や猫の様に高度な、そして豊かな表現能力はあるのだろうか
と。

脳みそ小さいし～と高を括っておったが、見てびっくり！

随分と見くびっておったものよと反省したわい。

★6月16日

ややこしや 昔ぐるじあ今じょ～じあ

こうし～ではなし

しばし戸惑う

★6月15日

またかいな報いはいりや 黒歴史

★6月14日

赴けば 林家ペっぱ～ しかとかお

きやりあじゃね～し

きやくでもね～し

★6月12日

鶯や おきよと鳴けり 我が春よや

★6月11日

昨日、とある本の是非を問うニュースが流れた。

以前、酒鬼薔薇と名乗っていた元犯罪者が手記を出したというのだ。

今朝は今朝で、朝っぱからその手記の一部が読み上げられていた。

自分は、この本に対しては懐疑的だ。

文章がつらつらと読み上げられたのだが、その文体に於いても疑わしい。

ゴーストか云々については置いといて、

なんでも噂によると作家志望であるとか何とかで仮に本人が書いたとして、

果たしてその全てが本心なのか。

フィクションとノンフィクションの往ったり来たりで、体良くまとめていやしないか。

何となしに、これはあくまで自分の主観であり直感なのだが、

読者有りきの読み物ではないかとさえ思える。

確かに、この様な人物がどのようにしてでき上がり、

どんな考え・感情を持って犯行に及んだのか、

そして、現在、何をしてどう変わったのか、

当然、知りたい思いは山々だが、

この本を読んだからと言って、果たして人の深層心理が分かるものか。

それに、10万部であったかな、の契約で、

印税は、売れようが売れまいが前払いで本人の手元に入っているという話ではないか。

出版社共々、かなりの胡散臭さを感じぜぬにはおえない。

若しも、仮に、反省しているのであって、今後自分の様な病に犯されている人の助けになりたいと、

本気で思っていることならば、別の形で出して欲しかった。

例えば、専門家の分析や指導の記録として。

この人の作文や遺族等への手紙、治療の様子、会話のやり取り等といった、

裏付けのある物の資料提供であれば現実味があり役に立ちそな気がする。

現に、毒薬マニアの名大女子大生は彼にかなり心酔していたらしいからね。

★6月9日

何かの拍子で唇かんで痛いです。

爪を切ったら右の人差し指が深爪だし。

なんかいいことないじゃろか？

★6月6日

実は、来週の月曜日からでも早速、

連載を開始しようかと企んでおる。

★6月5日

できた！

いよいよだな。

来週あたり、遂に公開（予定）。

また、頁増えたけど。

そいえば、『ライ麦畑でつかまえて』って、

依然、読んだんだけど、よく覚えていない。

ストーリーは、何となくうるおぼえではあるが、

何が良いんだかよく分からない。

それで、もう一度読み起こそうと思って、借りて来た。

まだ読んでないけど、めどがついたのでそろそろ読んでみようと思ふ。

★6月2日

終わったあ～。

長かった～。306頁だあ。びびったか。

これから修正に入りさせていただきます。

公開までもう暫くお待ち下さい。

★6月1日

なんとか最後の山場まで漕ぎつけた。

5月中に書き終えようと思ったが、できなかった。

できれば二三日中にあげたいものだが。

思いのほか、長くなってしまった。時間も頁も。

★5月30日

連続テレビ小説OP募集って、明日で締めきりじゃない？

まだ、間に合う。

応募の際は、未納分の受信料のみ揃えて支払ってから応募しよ～ね。

ってか、滞納者が選ばれたら面白いのに。

★5月28日

ま、野暮用で、この前、縊死について調べた。

まずは方法を知りたいと思って。

なんかぶる～。

夜の検索はいつそう気持ちが滅入るよな～。

依然見た『悪霊』でコーリャが縊首するシーンがあったけど、

記憶の中では、石鹼を床に塗って足が滑って・・・だと思ったが、

今日、見返したらそんなシーンなかった。

どの番組も、石鹼を塗ったくった絹の紐は勿論、石鹼自体写ってなかった。

人間の記憶っていい加減だな。

★5月27日

いくら待っても、ぽろりはない。

知人は言った。

嗚呼・・・・・幸運なんて、そうそうあるもんじゃない。

ただ、今書きかけの作品だけは、せめて終わらせたいと思った。

★5月25日

書きかけの作品、前の方をおさらいしようかと思った。

愈々佳境に入り、話をまとめなければならないと思ったからだ。

しかし、余りの長さに、しかも、ぐだぐだとして、

途中、病的な睡魔に襲われ、耐えきれず居眠りこいてしまった。

文章も変だし。いかん、直さねばと思いつつも。

仕方がないんで、話を先に進めた。

話をまとめるのは後にしようと思って。

★5月24日

二つ目の山を越えた。

後は、最大にして難関の山を超えるのみ。

と、えんでんぐかあ～。

★5月22日

書きかけの作品だが、大きな山を一つ超え、

今、正に、二つ目の山を越えようとしている。

そして、最後の山を越えたらえんでんぐへと突入だ。

昨日か一昨日か、興味深い記事を見かけてので読んで見た。

歌謡曲の歌詞の変遷についてだ。

どんな言葉が、その時代時代に多く使われているかを調べた記事だ。

最近の歌詞は詰まらないと言われているが云々と記事は始まり、

へ～ ほ～ は～と読んで見た。

自分が考える所では、最近の歌詞は、ぬるくて嫌気がさす。

耳触りの良いものを並び立て、これっと思えば、使い回しよる。

ま、『詰まらない』というより『飽きてくる』。

その記事で言うところにゃ、今の時代は『力強さ』だとか。

元気がつくような、励ますような歌らしい。

じゃ、文学に於いても、そうしたものが受けるのかな？ と

一寸腹黒く考えて見た。

★5月21日

やれ、祖母さまの遺品の謎の置き物。

昨日、やっとお返しに上がることができた。

巳さまをお祭りする神社である。

うぬぬぬう、ちょっとまでよ・・・・・・・・。

巳さまと言えば蛇ではないか。

まあいいかつ。

この蛇の置き物、いんすぶれーしょんを得たるは確か。

そこはしっかりお礼など申し上げ、お納め致した。

ただし、賽銭をけっちったのはなんであるが・・・・の～。

★5月15

書きかけの作品だけど、中々終わらない。

全然話が進まないし。

長すぎて前の話忘れているし。

盛りすぎてどれが焦点かばやけて来てるし。

200頁間近でさえ一つのエピソードが終わらんし。

後何頁書く気さ？

★5月10日

古物語Ⅱの閲覧数がⅠをうわまった。

ご愛読頂きありがとうございます。

思えば、Ⅱを読んじゃえばⅠは読まなくてもいいかもね。

Ⅰのエピソードがほぼ書いてあるから。

と、思ってみたり。

なんなら、いっそのこと、Ⅰいらなかったかも。

と、心にもないことを考えて見たり。

ってか、Ⅲを書く時、ⅠとⅡのエピソードを書かねばならので、

凄い頁数になってしまうんじゃないかな。

と、思うと何だか迷走しそうな悪寒がするな。

★5月9日

鼻息が荒いのか、喘息の薬が効いてないのかよくわからないアル。

息をするのが苦しいような気もするけど。

中の人はGW週間はお休みだったようで・・・。

火山のレベルアップで、カエルの金欠病も格上げに。

そんなことより書きかけの作品なんだが、

頁数だけ増えて、中々進まない。

もどかしや、もどかしや、もどかしや教に改宗だっ。

★5月7日

春樹好きの知人ったら、どんだけ春樹が好きなんだか。

「春樹は一日にして成らず」

自分も、著作権で安泰な生活送ってみたい。

何だか書きかけの作品なんだけど、中々進まない。

頁数ばっか増えてしまっ。

正直、初めから最後まで読んでもらえるのだろうかと不安になる。

ぐだぐだ書いてテーマがぼやけてしまっは、ただの時間の無駄だ。

結局、経済と時間の経過とに多くの才能が押し唾されていくんだろうなと思ふ。

★5月5日

気軽な気持ちで、中休みにカフカの『変身』を読んだ。

山下親子の訳で、文章的にちょっと読みづらかった。

カフカの『変身』は喜劇に当るらしいが、

役立たずの自分にとっては、胸が痛くなる話であることよ。

ところで、『古物語』であるが、この話は全3話から成る（予定）。

Ⅱでは、図らずも、障害を持つ姫の話の主体としている。

正に、「図らずも」なのである。

障害がない娘でも別に自分的には構わないのだが、

ただ、双子となるとどうだろう。

昔のことだ。一人出産するのも大変であったことだろう。

無事生れたとして、病気に打ち勝つ免疫力があるだろうか。

構想を進めていくうちに、ふっと、ある情景が浮かんできた。

頭のどこか片隅にあったのだろう、上杉鷹山と正妻幸姫との話が。

そして、思う様になった。

障害があるからって、取り立てて、特別なことではないんじゃないかと。

ただ、誰かが、ちょっと、手を貸しさえすれば済むことだ。

その人への情とてそうである。

人を雇える程裕福な家であったなら、それで多くのことが解決できるだろうが、

庶民の家では、そうもいくまい。

ま、その話は別のお話になってしまうので・・・

詳しくは『変身』でね！

★5月1日

独自の頁追加方法を編み出し、

追加する度頁が乱れていしまうと言うストレスも回避され、

つつがのう、書き込みができる様になり申した。

さありなむ、今、書きかけの作品だが、

中々思い通りに進まないのが、これまたストレス。

因みに、今、書きかけの作品ですが、

一言に『学園もの』とでもいいましょうか、

ってか、主役が教師だから必然的に舞台は学校、登場人物は生徒さん。

内容については、ないよ～。

そんなことはさて置き、

人は、どうして死ぬのか書いてみたいと思った。

貧困や、病気といった苦しみからの回避で死ぬ人もいるだろう。

色んな理由で人は自ら自分の命を断とうとするけど、

自分は、『傲慢からくる死』と言うもの書いてみたくなった。

★4月29日

人のプロフィール見て、3万何がしのアクセスってから、

すっげえ！ と思い自分はどれくらいかなあ？ と閲覧数を計算してみた。

．．．．．。

3万超って、やっぱすげえ！

と、朝っぱからびびった一日のはじまり。

★4月27日

どうした、中の人？

閲覧数が尋常じゃないんですけど・・・・・・。

本当に読みに来てくれた人なら、ありがとうございます。

今後ともよろしくお願いします。

★4月26日

夕べ、成宮王国Ⅲを見た。

翻訳家の癖かもしれないけど、特に米国人って『邪悪な～』ってフレーズ、好きだよね。

あああああまたかと、途端、萎える～。

日本だったら、プリキュアかよ！ ってな具合で。

★4月24日

よく、プーシキンとレルモントフは対比される。

色々と類似したところも多いが、分岐点は農奴解放にあると言う。

雑把に言えば、プーシキンは楽天的な印象であり、レルモントフは悲観的であるとか。

世界が変わると希望に燃えていた若者と、何も変わらないことに絶望する若者とか。

日本に於いては、なにが変換期となるのだろうか？

例えば、随分前から騒がれ始めた『戦後レジームからの脱却』がそうだろうか？

日々の生活の中で、自分が歴史の流れの中で生きていのだなという実感は全くないが、

やっぱり、爺や若者、流行廃りと、人々の意識は常に流れている。

今、流れようとする方向が正しいか間違っているかなんて、今の人には判断しかねることだし、

過去の歴史を見ても、動き出した意識は止められない。

爺は、若者への警鐘を鳴らすことが使命と思うだろう。

若者は、時代錯誤の戯言と反発するだろう。

その兼ね合いとしては、そうした時代に生きたものの責務として、

所謂世論で括られるわたし達一般人は、安易に同調するのではなく、

冷静に、何度と立ち止り、自分で考え巡らすことが重要となってくるのだろう。

★4月22日

春樹にかみつく尚樹って、父と子のような。

『心を尽くせばきっと分かってくれる』なんて理想は、

今の時代の人にとっては、『幻想だ』と見切りをつけた訳で・・・。

左傾・右傾という相違より、自分には、世代間の違いの様に思われた。

＼*親子にしては年齢がそれ程離れてはいないけれど。

歴史や文学で読んで来たことは、物語の話だと思っていたが、

そうすると、今が、その時代の変わり目、ってやつなのかな？

教科書検定の件についてもそうだけど、国民の意識も変わってきていることを感じる。

世代とともに、取り巻く環境も、考え方も違って来るのは当たり前のことだ。

春樹は、小説家だから、理想を追い求めるのは仕方がない。

それに、言葉には力がある、人の心をも揺さぶる力がと、

信念とでも言うのか、断固たる自信があるのかもしれない。

★4月21日

運も才能のうち、ってからには、

やっぱ、できる人には、自然と路が開けるんだろうな。

先ず、何をどうしていいのか分からないって時点で、駄目でしょね。

★4月20日

まじで最近、芥川賞ってどうやってとるんだろう？

って、悩んだりしているけど。

★4月19日

リード姉、引退。

お疲れ様の一言に尽きる。

弟さん、姉ちゃんには悪いが、軽いパートナーが見つかるといいな。

ってか、案外、妹だったりして。

引退後は、木下工務店で普通に働くんだろうか？

何はともあれ、幸せになって欲しいですね。

★4月18日

中の人って、土曜日お休みなんだぁ・・・。

★4月16日

最早、中の人が操作しているとしか思えん。

不気味すぎるじゃろ。一体、何が目的だ？

と、思わざるおえない閲覧数の動き。

シリーズもののドラマの再放送を見て思ったのだが、

この人誰だっけ？ トハ、

この人も、あ、この人も、今はあの世の人だなトハ、

同じ役者なんだが、役名が違ってるトハで、

作り側にとって、恐ろしい現象が起きている。

恐らく、初期の頃は那场限りで、長く続くこと想定していなかったんだろうなと。

ついでなんで、出演者をういっきさんで検索してみた。

ここ最近見かけないけど、やっぱり仕事が入ってなかったりと、

役者で居続けるのって、大変なことなのだな〜と、つくづく思った。

恐らく、役を貰った時は、これで安泰だ！ と大喜びしたかもしれないのに。

ひょっとしたら、役者以外でその業界に活着ているのかもしれないけど。

やっぱ、凡人は、確実にサラリーを貰える職が一番だな〜と試してみたり。

四面楚歌な中で、自己満足の為に書いて行くだけなのかな〜と試したり。

知合いが云う様に、「春樹だけ、別の世界に行ってしまった」と、

遙か彼方の空の向こうを仰ぎ見る思いがした。

・・・・・・・・春樹とスタートを切ったことも、道を同じくしたことさえもないけれどね。

★4月12日

そう言えば、つい先日、国会で珍問が出たっけ。

UFOに備えた国防についての質問だが、

何故か菫澤氏がそれについてインタビューを受けていた。

そんなこんなで、懐かしく『ムー』が一瞬、頭をかすめた。

正直、「666説」が出てきた時点で、

亀山氏の本は二度と読まないだろ〜なっ、と、漠然と思った。

そんな悲喜交々な別れを思う中、漸く、新作に取り組むことにした。

本来なら、シリーズ物の最終章を一気に書き上げたいところだが、

そこは、流石の、やっぱり、カエルちゃん。

曲がる臍なく、全く別の話に食いついてしまった。

そして、粛々と・・・書いています。

★4月9日

暫くなり方を潜めていたわけだが、その間、色々あって、

深く傷を負ったり、傷ついたり、余った時間は読書に費やしたりと・・・。

そんな訳で、亀山郁夫著「謎解き『悪霊』」を読んできた。

感想として、別に読まなくてもどうってことない感じがした。

そして今、原卓也訳『カラマーゾフの兄弟』を読んでいる。

これが、案外、面白いくらいすら読めている。

読み返しだからかもしれない。

以前、テレビドラマを見ながら、亀山郁夫訳を読んだ訳だが、

その時は、正直、登場人物の行動がいまいちしっくりこなかった。

が、今、読み直してみて、なるほろ～と理解いくことが多い。

これもまた、読んでいて面白いことの一つである。

読み返しだから、読むポイントが掴めるのかもしれないが。

巷では、亀山氏の訳は誤訳が多いと批判されている。

人によっては、これまでの露西亜文学自体に誤訳が多いとも言っている。

お金にならない分野なので、訂正されにくいとも…………。

それじゃあ、露西亜語の分からない自分は、一体どうしたらいいのさ？

本物を読むことは絶対にできじゃないのと、絶望的な気持ちにもなる。

しかしながら、そもそも自分は日本人なので、

例え露西亜語が堪能になったとしても、露西亜人が読む様に、

露西亜人としての感性で読むことはできないんじゃないのか？

そんなことを考えてみると、どこがどうか、間違っているとか、

自分にとっては不毛な気がしてきた。

★3月24日

最近、近隣住民とのトラブルの果ての殺人が多い。

且つ、年配者の犯罪の報道もよく見かける。

昔っから、お隣同士は仲が悪いとは言うが…………。

そんな昨今、お隣さんから、誰に聞いても『非常識だ』

という理不尽な難題を吹かけられた。

知合いからは、「問題おこすなや」とは言われているが、

如何せん、そこは相手がいることだ。

世の報道を見るにつけ、何事もないことを祈るばかりだ。

★3月23日

水・土発行（予定）だが、あくまでも予定だから。

前もって、釘を刺しておくけど。

更新されなくっても、悪く思わないでね。

．．．．．って、

売れっ子な振りしてみたけど、

心待ちにしている人って、いるのかな？

★3月19日

あんなにモテたピケティー氏。

最近では、ピケティーのぴ～の字も聞かない。

ま、日本人なんてそんなもの。

★3月18日

自分は、余りにもものを知らなすぎる。

これではいかん！ と思い立って、『文学とは何か』を学ぶことにした。

と言っても、何をどうしたらいいのか、取敢えず、入門編も入門編、

『文学部唯野教授』を読むことにした。

読み終わった。

が、しかし・・・・、

つまりは、なんも分かん者がかんちょこに批評なんてするんじゃねえ～ってところかな？

そうかもね。自分は、からっきしのど素人だしね。

確かに、現代文学の何が面白いのかわからない。

ついでに、この本自体に於いてもね。

でも、感想なら語ったってもいいんじゃないかと。

言論の自由もあるしね。

自分は～だった。っということ。

と、一先ずは、結論づけてみた。

★3月14日

いやいや、とんだ失態を・・・。

てっきり、『かぐや姫の物語』9時からだと思った。

知合いに教えられて、慌てて見たけど、初め30分、見逃した。

それでも、普通に面白く見た。

宣伝では、「かぐや姫の罪」って、しつこく言うから、

勝手に、サスペンス的な要素があるのかと思い、

これか、あれか、と、意識してしまったじゃないの。

例えば、採った茸が実は毒茸で、村が消えたのは、

村人たちが毒に当って死んでしまったから・・・・とか。

そんないらない努力はさて置き、

タダで見てなんなんなんですけど・・・、云わせてもらえるなら。

富士山の由来がでてこなくて、かなりの不満だ。

逆算して考えると、これが左巻きと言われる根拠か。

そんなことには、全然、断じて、露とも、気がつかない振りをして、

全体的には、映像が綺麗。

やっぱり自分は、CGよりも手書きが俄然好きだ。

★3月12日

昨日、予定通り、新作を発表した。

予想外にお客さんが来てくれて、正直、びっくり。

完結まで、付き合ってくれれば嬉しいです。

多分だけど、明日、『かぐや姫』やるんじゃない？

実は、これ、とっても見たかった。

重臣達の血判状とか出て来るのかな？

って、それって、「かぐやひめ」違いの某家具屋の『覇権取物語』。

その血判状だけど、今の時代に衝撃的であったな。

本当に、血判なんだろうか？

ばかりが入っていたけれど。

この時期放映って、狙ったのかな？

★3月10日

いよいよかも。

明日、新作公開（予定）。

そして、明日は4回目の3．11。

先日、宮城で、お父さんの骨盤の骨が見つかり、

福島では、中学生のお嬢ちゃんの骨も見つかったとか。

捜索隊の人々は大変でしょうが、やはり、諦めきれないですね。

幽霊の記事を読みました。

被災地に現れると言う人々の魂の。

読んでいて、切なくなりました。

未だ、見つかる人を考えると、『思い』は少なからず有ると思います。

一日も早く、全員、家族の元に帰れるといいですね。

そして、成仏できることを願っています。

★3月8日

いやいや、昨日も今日も、結局どうも・・・面目ない。

今日こそは、新作発表できると思ったんだけどね。

まあ、そんな訳で、水曜日までには、どうでしょ？

★3月6日

ここ最近、空気清浄機が稼働しっぱなしで止まらない。

煩いんで、気分の悪い時だけ点けることにした。

電気料もかかるしね。

書きかけの作品だが、後は頭から読みとおして修正するのみ。

なところまでこぎつけた。

が、そこは、ほれ、カエルなもんで、今日もほっとらかしよ。

そんなこんなで、今日も何もせんで無駄に過ごしてしまうのだが、

やはり、自分にわからないことが多すぎる。

まずは第一歩の踏み出しがいかん様に思えて仕方がない。

文章を書いているにも関わらず、自分は、文学を知らない。

思想も哲学もしらない。歴史はすっかり忘れてしまった。

はっきり言って、無知すぎる。

ものの道理もしらないし、人がどう思い行動するのもよく知らない。

と言う訳で、少し、知識をつけることを試みようと思う。

★3月3日

ここまできたら終わったも同然、で何時もの発作があ。

兎と亀に例えたら、自分は兎になるのなか？

それも、亀のようにのろい。

それはそうと、今日、メンテがあったらしい。

何が改善されたのだろう。

わからんけど、何か遅くなったよな・・・。

自分のロートルPCのせいかもしれんが。

★3月1日

ㄥㄥ、ここまできたら終わったも同然。

後は安生よく締めるだけ。

ほいじゃ！

★2月28日

嗚呼、明日から3月だ。

さまざまなものが上がるらしい。

考えただけでも、恐ろしや。

物によっちゃ、50%の値上げ。

こんなことで、生活していけるのだろうか。

と、そんな不安を抱きつつ、

書きかけの作品、いよいよ終わりに近づいた。

あともう少し。

思ったよりも早くでき上がるかも。

★2月24日

じじい〜びつくり！！

この年にして、メジロを鶯と思い込んでいたことが発覚。驚いた。

めるし〜嬢ㇿ。

詳しくはこれ：<https://puboo.jp/book/95445>

と言わけで、今までの認識を覆す衝撃を受けた。

どうしてくれんのよ〜！

と、怒りは日本文学絵画はたまた、花札の果てまでも。

しかし、ここは落ち着いて。

何がどうして何とやら。

詳しくはこれ：<http://www.hegurinosato.sakura.ne.jp/Nature.htm>

鶯色の怪などなど、を読んで見た。

と言わけで、何事もなかった振りを決め込もう。

鶯とメジロの違いなんて、黙っていれば多くの人は気がつかね。

コピペで人のアドレス盗んでしまったが、これも内緒にしておこう。

すまんの～。

★2月23日

自然であったり、人の動作であったり、その表情であったり、

全てに於いて、描写が細やかなんだな。

自分は、自分なりのある答えを導き出した。

それは、正解ではないかもしれないが、自分が感じたこととして。

描いているのは、人でもなく、物語でもなく、

『情感』とか、『情緒』とか、若しくは『イメージ』ってのはどうだろう？

そうであるなら、『芸術』と言ってもいいのかな？

よくわかんないけど。

それにしても、あれ程の技術が消えてしまうのは、とても惜しい気がするな。

★2月22日

ま、考えてもご覧なさい。

自分は……と言って恐縮だが、

例えば、たった一言が言いたいがために、

長々と、物語を絞り出して、何とか言わせるように持っていったりするけど。

そう思えば、宮崎駿と言う人は、『アニメーター』なのだな。

描いてみたかっただけかもしれない。

描きたいものを、映像にして動かしてみたかった。

しかし、それでは、興行的には許されない。

だからそれなりに納得いきそうな話をのせて、

表現したいものを、さも意味ありげに繋ぎ合せたのじゃないだろうか。

そんな印象を見ていて思った。

例えば、マッチで火を点けよう。

マッチを擦るには、今より昔で、手軽に擦るなら煙草かな。

その力加減に、傾きに、滑らす速度など云々。

付け加えて、『思想』について。

知合いどもらがそのことについて話していたが、自分でも考えてみた。

よく、巷では、左巻きと揶揄されることもあり、

今日日、政治的発言もされている。

しかし、自分は、作品を見る上で、そうしたものを感じたことがない。

うがった見方を頑張ってすれば、そう見えないこともないだろうけど。

つまりは、扇動家にはなれないし、まして思想家にもなり得ない。

やはり、彼は、『アニメーター』だ。

それも、すこぶる卓越した。

そう言う意味では、『文学ではない』と言っていいのかな？

ならば、だったら、『エンターテインメント』ってなもんなんかな？

恐らく、こんな客が一番やな客なんだろうな。

それも、お金も払わず、ぐだぐだ言いたい放題言いよる。

★2月21日

遅々として進まず。

題して、『牛歩戦術』らり。

って、何と戦ってんだ～？

いい加減、書き換えの作品、解放されたい。

と言ったところで、『駿長編引退記念』で、

自分なりの宮崎作品鑑賞法に決着を着けようと思ふ。

ただで見てわろくちいいなや！と外野は騒ぐが、

時代を先走って、投資してきたのだからいいのだ。

ずばり、それは、あれ、ほら、その、なんだ、

昔見た、『アンダルシアの犬』。

ストーリーなんてどうだっていいのさっ。

結核の感性力がいか程かとか、末期患者の世話は誰がしてるのかなんて、

一切、気にしちゃいけないのさっ。

肺病患者が煙草の煙に咳一つせずにいられよ～ともね。

非現実的な、幻覚と妄想の錯乱する世界。

見るべきは、風であったり、木漏れ日であたり、夜の帳であったり。

嗚呼、これが、若し、長ったらしいコマーシャルがなかったら、且つ、大画面であったなら、

きっと、ものっ凄い臨場感であっただろう。

故に、人、取り分け焦点を当てた人物に於いては、

無味で生気を消したじじむさい表現にこだわったのかな？

あくまでも、個人的な感想です。

★2月20日

いよいよだな。

わくわくする。

楽しみだな。

どんだけ凄いか早く見たい。

監督長編引退作『風立ちぬ』。

長編引退のね。

★2月19日

何を狙って棒読みタレント声優なのか？

別に、芸人や俳優が声をするのは珍しいことではないけれど、

そもそも、創世記には、声優って職がなかったんじゃない？

ただ、棒読みなのが気に入らない。

何処の何がしが声してるって、じじい～は勿論、ちびっ子何かにゃ関係ない。

因みに、タレントに釣られて見に行く人っているのかな？

その時には『時の人』であるかもしれないけど、数年後は・・・・・・であることも。

はたまた、余りの不快さで、本人自身にさえも嫌悪感を持つというリスクもあるわけで。

しかしながら、そうまでして、例え作品の雰囲気やぶち壊してまでもお願いしたい

何かすごいメリットがあるのかな？

大人の理由か何かは知らないけれど、タレントさんでも時の人でも使っていいけど、

聞くに堪える、映像にちゃんとのった声を選んで欲しいと思うのだ。

今週の金曜ロードショーは『風立ちぬ』と言う。

巷では、かなりの棒読みぶりと評判だが、どんだけすごいか見てみようと思う。

★2月17日

この前の金曜ロードショー『崖の上のぽによ』を見た。

初めてである。

噂ではなんとなく聞いておったが、どれほど@ \$ っぷりかを見てみることにした。

・・・・・・・・・・。

人面魚⇒人間人間⇒人面魚へと変化する過程は流石、なかなかなものである。

でも、ちょっと、何時の間にやら『人魚姫』？

ストーリー的には流石、つっこみどころに余念がない。

それはそうと、技巧を凝らした美しい映像に、それなりな台詞。

嗚呼、それなのに、棒読みタレント声優にはげんなり。

全てを帳消しにする破壊力。

見たら随分とタレントだらけじゃないの。

別に嫌いな人達ってわけじゃないけど・・・・・・・・。

誰の為の作品なんだろう？

そんな考えが、ふっと、頭を過った。

★2月15日お詫びと訂正

境内案内図検索してて反省。

すまんの～。

と言わけで、しらへび姫、訂正中。

書きかけの作品、中々前に進まないな。

3月中に、終わらないかも。

★2月11日

やれやれ・・・・・・・・神殿の配置図検索で ぎょ！

また書きなおした。

そう言うことは、書く前にやっておくべきことなんじゃない？

って、一様調べたつもりだったんだけどね、途中で飽きてしまって・・・・・・・・。

嗚呼、考証人がいてくれたなら、しかも、ヴォランティアで。

★2月10日

実は、日曜日に、新しい冷蔵庫がやって来た。

長年奉公してくれた冷蔵庫、2台、よれよれながらも現役で動いてるんで、

廃棄するにはなんとなしに罪悪感。

一台は、見受け話が舞い込んで来て、引き取ってもらえることになったけど、

もう一台は、残念だけど廃棄した。

ん・・・・・・・・二台分を一台にまとめるのって・・・・・・・・。

まだ、入りきれずのものがある。

冷蔵庫買ったばかりだけど、自分としては、一番欲しい家電って、

『蓄電機』かな。

一般家庭用蓄電機。小型で安くて効率のいいやつ。

早くできないかなあ～、って、本当は、メーカーが本気出せばできるんじゃないの？

やっぱ、大手独占企業のあのインフラ会社が圧力かけてるのかな？ とか……。

もしも、優秀な蓄電機ができたなら、

電線、いらなくなるよね。

家庭用ソーラーパネルでお日さまのある時間は充電して、

足りない分は、電池パックかなんかで補充したらいいじゃない。

灯油みたいに、契約で配達してもらって、減った分だけ補充しもらうとか、

お店で、必要な分だけ買うこともできるよね。

本当は、できてるんじゃないの？

★2月8日

わしも、自肅せねばならんのかの～？

でも、不特定大多数の人が読む訳じゃないし。

嫌でも目に入って来るってな訳でもないし。

いいんじゃないかと・・・・・・・・・・。

★2月7日

随分と今の授業は変ってしまったものだ。

小学生に、モザイクがけであった惨殺死体を見せたとか。

遺体には人格がないらしいが、しかし、被害者の人権ってなんだろう。

『命の大切さ』とか『報道の知る権利』の授業だったとかで、

その授業で、子供達は何を学ぶことができたのだろうか？

次は、『言論の自由を掲げたぺんの暴力』を取り上げて欲しい。

そんなとんでも先生の出現ではあったが、

今、書きかけの自分の作品を読み返している中で、

何か、不安になった。

自分は悪趣味だと思うので、モザイクの中の写真は、見てないけど、

人の話では、斬首された首が身体の上に乗せられているとか。

遥菜さんのお父さんを思い出すと、ただただ悲しくて仕方がない。

嗚呼・・・・・・・・・・。

自分も、そんな、同じ様な場面を書いている。

人質をとる場面を書いている。

何人か人が死んでいる。

残虐シーンも書いている。

ISIL 事件の報道中、アニメもコントも自粛して、放送されなかったものがあったとか。

これを読んで、気分が悪くなったり、変な気持になる人が出ちゃったりするのかな？

そんな不安が、頭を過った。

★2月4日

マスコミは、相変わらず『イスラム国』を使用しているのだな。

イスラームと混同して紛らわしいな。

『自己責任』については、学生さんが拘束された時に、散々論争されたっけ。

何れにしても、話の分かる相手ではないのだから、

物見遊山な気持ちで安易に危険な場所に行くものではないと落ち着いたと思う。

それゆえか、今回の報道では触れることも、攻めることもしなかったと思う。

世論は冷静であったと思う。

それが、冷たく見えたのかもしれない。

後藤さんの奥さんも、当事者であるのに、よく冷静に振舞えたと、

彼女の声明も、称賛されている。

パイロットのお父さんがヨルダン政府・国王を批判し、日本人なんて知るもんかと大騒ぎした後、

奥さんの声明がネットで流され、多分、その後、

パイロットのお父さんや親戚がインタビューがされたと思う。

おとつあんは、中々進まない交渉に不満をみせつつも、政治的な言動はひかえ、

親戚は、そのことで、日本とヨルダンの関係が悪化するのを心配していた。

部族の人は、日本人と囚人との交換は理解できる。

が、でもヨルダン人の救出が先だよねと、身内の本音も述べた。

後藤さんの奥さんが、メッセージの冒頭でスピーチした自分の言葉、

自分の夫の救出に尽力を尽くしてくれる人々へのお礼や、

ヨルダン人パイロットの安否を気遣う言葉が、

多くの人の心に響き、冷静さを取り戻し、

それが、I S I L側には想定外で誤算となったと言う人もいる。

お父さんや身内の人やデモを起こした人達の心にも届いたと思う。

決して、自分達は見捨てられてはいないのだと。

自分達の息子も、日本人の命も同じく尊いのだということを。

★2月3日

今日は節分だ。

今年も恙無く豆まきをした。

どうやら、『ISIL』に統一されたいらしい。

知人は、この事件について、日本人は同胞意識が低いと非難していた。

なんとしても、どんな手段でも、ヨルダンを差し置いてもなんとか日本人を助けるべきだ。

なんて、思えなかった。

どうしたって、『自己責任』という言葉がついてまわる。

気の毒にはおもうけれど・・・・・・・・。

遙菜さんのお父さんの会見に、外国の人々は驚いたらしい。

何で謝罪しているの？ と。

しかし、国内では、息子は言動全てが常識を超えて同情される余地などなかったが、

そのお父さんに於いては、称賛する声が多かった。

自分もその一人である。

お父さんの心情を思うと、とても辛い。

後藤さん殺害時には、どうして会見を開く必要があるのだろうと思ったのだが、

遙菜さんのお父さんは、また、そこでも謝罪され涙を流した。

とても、見ているのが忍びない。

自分の息子がを殺されたかのように、怒りが湧いた。

どうして二人は死ななければならないのだどうか？

悪いことなどしていない筈だ。

それも、無抵抗な人間をだ。

これが多くの日本人の感情ではないだろうか？

なんだろう？

自分に於いてではあるが、怒る大義名分ができた、そんな感じだ。

行ってはいけない地に行ったという負い目から、

怒りをぶつけるのはお門違いな感じがした。

自分達の落ち度を真っ先に考えてしまったのだ。

これが、平和ぼけなのかな？

戦後の教育の賜物であろうか？

それとも、もともと日本人はこんな国民性なのかな？

また、自衛隊の論争のようだとも思った。

危険を予測したからと、それに対処することはできな。

攻撃を受け、傷を負ってからでなくては行動することができないのだ。

そうであるなら、我々は、飼いならされてしまった感じがする。

命の犠牲という極地に至らねば、感情が動かないなんて・・・。

現代の認識では、人は人を拘束してはならない。

監禁された時点で、充分、怒る理由がある筈なのに。

そうではあるが、自分の心が動かされたのは、

二人の不当な死よりも、遥菜さんのお父さんだ。

父親の、肉親の悲痛な言葉によってである。

★2月1日

朝起きて、テレビを点けて、目を、耳を疑った。

ハルカさんの時も、『自己責任』と思いつつも、

なんともやり切れぬ思いが燦っていたが、

遂に怒りが爆発した。

しかも、宣戦布告までしやがって！！

今こそ、二次元奇襲を掛ける時ではないのか？

日本固有兵器『おたく』始動で、

脱力感を与えて戦闘意識を萎えせる時ではないのか？

自分は、その手の感性はないんで・・・・・・・・。

が、しかし、『ペンは剣より強し』。

自分は、自分のできることで戦ってやる。

★1月31日

クソコラを見て、クソコラの様式って、『大喜利』みたいだなあ〜と思った。

与えられた素材で、決められた中で展開していくわけだが、

歌会や連歌や何かの遊びもそうであるよな〜。

お仏蘭西の風刺画と比較されるけど、

やっぱ土台となる文化や歴史が違うのだなと思った。

★1月30日

今書きかけの作品だが、読み返して、余りの詰まんさに驚いた。

長々、だらだら書きよってからに。

中でも前作回想シーンが鬱陶しい。

書きながら、感じてはいたのだが、視点となる人物を間違えた。

こいつはしまった！ と思いつつ、終わりまじかにきてしまい、

今更書き換えなんて面倒くさい。

てな訳で、1回お休み。

今日は、クソコラ I S I S 画像ってどんなものか、見てみることにした。

★1月28日

いやいや、びっくらこきまろ。

書きかけの作品だが、以前、何を書いていたか忘れてしまって、

仕方がないんで初めっから読み返すことにした。

そしたら、絶句・・・・・・・・。

何が何だか、まるで別の自分が書いたかの様、

すっかり記憶になかったり、至る所で文章が変だったりと、

ここは腰を据えて初めから、と決め込んだ。

あと少しで終わる予定まで来たのだが、

前半、中盤、後半と、間を開けて書いたものだから支離滅裂。

急がば回れ。

そんな訳で、まずは、文章を整理することにした。

★1月26日

明日から、真面目に書こうと本気で思った。

・・・・・・・・今日からじゃないんだあ・・・・・・・・。

それはそうと、書きかけのやつ、3月中には終わらせようと、

本気で心に誓いをたてた。

そんな訳で、今日は寝る。

★1月25日

朝起きて、テレビ点けたらびっくりした。

ゆんべ、大きく自体は変化していたのだな。

日本の一部の行動についての言及はなかったけど、

もし仮に、「萌えキャラなどけしからん！」とか

「我々の聖なる画像を加工するなど許すまじ！」とかで制裁を加えた。

と言われたら、彼らはどう責任とるのだろうか？

と言っても、責任のとりようもないけれど・・・・・・・・。

朝日放送では、後藤氏はシリア国民から好感をもたれているとかで、

ひょっとしたらそうした地元の支持に期待できるかもという話をしていた。

今回の彼らの個人的行動の責任は別として、

イスラム教徒達が日本人の為に祈ったり、

ヨルダンやトルコ、様々な国や部族の協力を得たり、日本国の信頼性さることながら、

例え個人であっても、イスラム圏など異文化の人々に誠実であることは、

個々を越えた大きな力にもなりうるのだなと感じさせられた。

後藤さんが助かるという可能性があるとは、まだまだ言い難い状態には変わらないけど。

★1月24日

日本人2人がイスラム国に拘束されて72時間はとうに過ぎてしまい、

テレビでは、連日、新きやら、隠れきやら登場する中、

日本政府は邦人保護に向けて、方々手は尽くしていると思われるのだが、未だ進展せず。

そんな中、とんでも日本人始動で、これってどうなのよ？

イスラム国兵士に向けて、どのきゃら一番萌えますかアンケート発信。

おまけに、IS 側合成と思われる画像を、更に独自の感性で加工。

「ISIS クソコラ画像グランプリ」なるものを勝手に開催。

風刺画のお家元お仏蘭西では、「日本人もまたシャルリーだ！」だとかで、

余計な評価をなさってくれやがったり、

極めつけは、自称実母のご登場で、謎のメッセージに頭を悩ます始末。

I S って、サッカー見ていただけの少年を、けしからんと殺しちゃう集団でしょ？

イスラム教の礼拝で、邦人の無事の解放の祈りが上げられているとか、

こうした普通のイスラム教の指導者や信者達の怒りや呼びかけを、

もっと多く流して欲しいと思った。

日本人に向けても、イスラム国に向けても。

I S の人達は聞く耳は持たないだろうけどね。

★1月19日

いやいや、酷い目にあった。

インフルエンザの予防接種をしたその日から具合を悪くし、

ウィルス検査でひかかり、

最低5日間、外出禁止令が発布されちゃいました。

恐ろしい激痛と熱にたいろくが奪われて行く中、

あとどれくらいこんな痛みに耐えられるだろうかと、

本気で思った。

毎年、爺婆感染の死亡率が高い訳を、身をもって知った感じだ。

今年は生還できたけど・・・・・・・・。

★1月9日

知合いのオヤジが、こんなものを教えてくれた。

村上春樹が、あたなのメールに「できるだけ」答えます！ b y 新潮社

2015年1月15日午後より

みなさんはどうです？

春樹にメール送ってみませんか？

じゃ、わしが・・・・・・・・。

と言ったら、じじいはシカト、だと。

だったらどうです、少年少女若者諸君！

若者のがゆえの思いをぶっつけてみてはいかががかえ。

2015年（平成27年）度

★1月7日

今日は七草。

随分と昔から奉公してくれとる炊飯器で、お粥さんを焚いてみた。

初めての試みである。

んぐぐぐう・・・・・・・・。

失敗した。

水積もりが少なかったようだ。

とても軟いご飯が炊けた。

仕方がないので、お湯を入れて再度スイッチ ON。

二重の手間で、電気料無駄遣いしてしまった・・・・・・・・。

★1月6日

何でもお笑い芸人が純文学を書くらしい。

連載されて、それがまた芥川賞とるかもしれんと。

とかなんとか、そんなニュースにイラッ！

芸能人が小説書いて話題になって、賞を取ったり、本を出したりと、

正直、すごく羨ましい。

それって、「名が売れてるからじゃない」とジェラシー全開。

しかしなんだ、ふっと考えてみる。

じゃあ、自分が有名になれるかって言えば、可能性は0に等しい。

名を成すだけでもどれだけ熾烈な競争を掻い潜らなきゃなんないことか、

それって恐らく無理であろう。

それにどうだろう？

例えそれが自分でちゃんと書いたとして、

客観的に、正当な評価が傑作であったとしても、

うまければうまい程、ゴースト疑惑が持ち上がり、

本人が書いたと認知されても、「所詮はあいつが書いたものだ」みたいに

ある一定の評価以上は貰えない可能性もある。

そんなこんなを考えると、やっぱり、自分は、

今、自分ができるところをやるしか仕方がない。

指を咥えて、諦めて、地道に書くしかないのである。

★1月5日

今日、初めて、『禿同』の意味を知る。

しかも、今となっては『死語』らしい。

★1月4日

何かのどっかを直そうと、日中、ふっと閃いて、

いざPCの前に座ったら、すっかりそれが何であったか忘れてしまった。

★1月3日

あけましておめでとうございます

今年も書きます

よろしくね！

と言う訳で、今年も早いもので、あっという間に3日が過ぎてしまいました。

寝正月を決め込んでいたが、寝てる暇なく過ぎてしまった。

ただでさえ極貧なのに・・・・・・ああ、それが大人の義務。

今年こそは、負債分を回収したい。

さらに、必要経費を稼ぎたい。

できれば、贅沢に暮らしたい。

ならば、もしもの貯蓄もしておきたい。

★12月29日

あさ～やけえの しかりの中に立つ影はっ みら～まん♪

と言わけで、夜の明け具合を観察してみた。

6時頃から見ているけれど、今日の日の出は6時50分頃。

既に、空は白じらとして薄ら明るくなっていた。

今日は、雲が広がっているからかな？

何時も東の空から光が広がって、そして、赤く焼けて来るのだが、

今日は、全体的に均一に明けた感じがする。

★12月28日

自分は、ある日を境に、本を読むのがつまらなくなってきた。

それは随分と昔のことだが。

深みがないというか、登場人物の心情が伝わって来ないし、

文章に於いても、単調で、芸術的美しさが感じられない。

思うに、ストーリーだけを追っている様な。

つまりは、そう言うことだったのかな？

原案と書く人が別人であったからだろうか？

何十年ものブランクを経て、今更、露西亜文学読んでるけど。

★12月23日

ゴーストライターについて語っているテレビを見て、かなりのショックを受けた。

タレントや企業家とか、文章で食べてない人達の著作が、ゴーストであるのは周知の通り。

しかし、その番組での発言は、文章で食べてる人までもが殆どゴーストだと。

人の頭なんて限界があるもんな。

そうそう容易く良い構想が出て来るもんじゃないし、盗作とかパクリとかない話ではない。

しかし、そのゴースト、そうした日蔭者の存在ではなく、

ちゃんと日の当たる、しかも契約書まで取り交わす間柄だとか。

きょうび人気の推理小説作家もそうであるとか・・・。

それを証拠に、自分は読んだことはないけれど、作品ごとに文体が違うらしい。

つまりはこうだ。

構想する人と文章を書く人は別人であると。

なんでも、構想する人は文章がかけないんだとか。

癖があったり、間違った文法を使ったり、起承転結が可笑しかったりと。

第一、忙しくって、一々書いている暇なんてないじゃなの、ときたまんだ。

・・・なんだそれ？

★12月22日

書きかけの作品、どうも今年中には終わる気がしない。

終わらず気力が無いってのもあるし、雑用で終わらず暇がないってのも。

間が開き過ぎのびのびのびのび太。

支離滅裂で、内容は勿論、文の調子にも統一性がなくなってしまった。

むむむむ、こりやまずい。

間置いて書いちゃうと、後の修正が大変なんだよね。

★12月20日

どつぽにはまって入れね～。

御用達の SNS、うっかりログオフしてしまって、入り方が分からずお手上げだ。

しかも、ロックなんか掛っちゃって……。

もう二度と入れないかもね。

★12月9日

今、ツルゲーネフの『父と子』読んでいる。

『ベスト』文字びっしり、と思ったら、もっとびっちり。

でも、会話が結構あるから余白も多いぞ、と思ってみたり。

しかしなんですなあ。

ツルゲーネフって、日本人的には絶対弄りたくなる名前ですな。

でも、写真みた限りでは、しっかりしてるようで……。

★12月8日

毎日寒くて辛いなっ。

★12月7日

何か最近、終活、終活って、

考えてみたら、自分が死んだらこの物達はどうしちゃうんだろう？

そう思うと、切なくなった。

あと何年生きられるのだろう？

はやぶさ2が帰還するまで生きているのだろうか？

そんなことを考えると、本気でなんとかしなければいけない気がしてきた。

何時か使いから。

何時か読むから。

何時か何かに役に立つはずと、どんだけ貯め込んでしまったことか。

自分意外には必要ない物ばかりだ。

抹消せねば。

何もかも。

終活、終活。

思い出が、生きた証が、

物質慾を大いに恨むよ。

物達に、すまない、と思うばかりだ。

★12月6日

青空文庫で中原中也と洒落てみた。

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん。

と、もし現代に中也が生きて詞を書いたとしたら、

どんな詞を書くのかな？

詩ではなくって詞さ。

バンドなんか組んじゃってだ。

★12月5日

山羊が盗まれた。

殺され、さばかれ、食われてしまった。

3人のベトナム人に。

「んっめ～」といって食べたかどうかは不明だが。

★12月4日

最近何かと耳にする『SEKAI NO OWARI』のゆーちゅーぶを見ることにした。

なるほど、ボーカルはやんわりとして幻想的な雰囲気を感じた。

が、すまん、じじい～、何言ってるか分かんね～。

と言う訳で、歌詞を読んで見た。

読んでみた感想は、びみょ～。おし～ってのか……。

しかしながら、思想が固まらず深堀をしないからこそ、若者らしさなのかもしれないな。

中々面白い詞もあったね。

ほんでもって、こんな分かりやすい歌も歌っているんだ～

と思ったら別人だった。

それはこれ、Suck a Stew Dry『自分戦争』。

と言わけで、若者文化に触れてみた。

★12月3日

『ベスト』、遂に読み終わった。昨日だけど。

長かった～。字が多かった～。

ひたすらベストが続いた。

途中、挫折しそうに何度もなった。

が、耐えて、耐えて葛藤しながら読んでやった。

この極限の忍耐力こそが、『ベスト』の醍醐味なのであろうか？

ベストが終息しつつある中で、おっさんが倒れたことを堺に、

漸く、読んでいると言う実感が湧いて来た。

終焉に向けて、何がどうかは知らないが、感動した～。

漸く、解放される～という感動か……………。

戦いの末、得られる感動だ。

って、これでいいのか？

★12月2日

何か一部の作品の動向が賑やかなのだが……………。

いい加減、書き換えの作品書かねば。

完全、前半わすれちゃって、且つ、話が何度も重複してしまっ……………。

編集作業の方が大変そうだ。

★11月30日

ぶくろぐって、ある程度、仲良しグループってのがあのかな？

共通に批判的なことかいてあるのみかけたことがあったが、

あれって、あたくしに対するあてつけかな？ と思ってみたり・・・。

当てはまる要素がなんとなくある感じで・・・・・・・・。

それって、爺意識過剰ってんだよ、と、何でもない振りをしてみたりして・・・・・・・・。

コメントあげたりもらったり、なんとなくうらまやしなかったりする。

その輪に入って褒めてもらいたかったりする。

褒めてもらえなくても、自分の作品に触れて欲しいと思ってみたり。

そのくせ、どうせ自分は、なあなあな関係って、重荷になってくるんだろうな。

隣の芝生って、目に鮮やかで、青々と刺さって来るものなのだよ。

と、自製の苦でも語って慰めようか。

★11月28日

中島啓江さん死去にびっくり。

舞台は生で見たことはないけど、テレビでは見ていました。

呼吸不全って、太りすぎであることに要因が大きくあのかな？

何か、凄く、ショック。

回避する手段がありそうなのに、とても残念に思えて仕方がない。

★11月25日

知合いのおやじが、何かにつけ『ペスト』読めってんで、

どんだけすんばらしいのか読んで見た。

・・・・・・・・・・。

ベストのことばかりじゃないの。

正直、読んで飽きてきた。

しかも、恐ろしいことに、活字がびっちり。

全然進まん。

春樹の本なら、恐らく上下巻は読み終わっているはず。

言葉の言い回しも面倒と言うか、邪魔くさいと言うか、

本当に原文はこの様な文体の雰囲気であるのかな？ と思ってみたり。

★11月24日

今日こそ真面目に書こうと思ったら、思いもかけず面白い HP が。

有名人の系譜であるが・・・・

あのリアクション芸人出川氏が、老舗のぼんぼんだったり、

迂闊にも、見いってしまった。

あした、あした、で・・・・。

★11月23日

今、書いている作品だが・・・・、

これって、ジャンる的には『ラノベ』になるのかな？

★11月22日 いいふ～ふの日？

と言わけで、 げっげっげっ！ のちゅらさん。

★11月21日

北米大寒波襲来！

まろーすじじいかあ～？

はやかないかね？

多分、違うでしょう。

★11月20日

健さん、亡くなられました。

そうそういない役者さんでしたね。

狂気とはちょっと違うけど、極限まで持っていく緊張感がありました。

それはこれとして、ちょっと思ってたって、『エコエコアザラク』調べてみた。

何か凶悪犯罪があってドラマが放送中止になったこともあったとか。

もののついでに思ったのだが、学園物ってめっきり見なくなりましたな～。

熱血教師も今や絶滅危惧種。

それもこれも、時は流れていくものですよ。

★11月15日

ここ何十年と映画なんてみてないけど、宣伝なんか見ていると、邦画について、

日常を切りだした癒し系とかほっこり系とか誰でも抱えていることとか、

じ～んときたり、思わず涙がほろっとしたりの傾向なのかなと思ったりする。

さもなくば、ドラマの映画化とか漫画・アニメの実写とか。

そんな中で、紙の月はなんとなく面白そう。

小説読んでいないので宣伝だけの想像だけど。

人が日常からずれて行く心理には、興味があるな。

日常の延長にある映画もいいかもしれないが、

超えてはならない狭間にあって一触触発的な心理状態とか、

何か、人間の狂気といったものを見てみたい気がする。

ホラーではなく。

昔の様な凄みのある映画を見ないような気がする。

任侠ものでもなくてね。

★11月13日

やっと『未成年』を読み終えた。

葉の後遺症のせいもあったてか、上巻は読むのに偉い時間がかかったものよ。

しかし、下巻は何とすらすら読めたこと。

ま、作者と登場人物の人間性や思考は必ずしも一致する訳ではないし、

社会へ対する、読者に対するとするべきか、問題提示でもあって、

中でも、主人公の実のおやじが終盤で自分の思想を語る場面があるのだが、

『貴族の憂愁 (トスカ)』とかいうやつだ。

国・民族等の枠をとっぱらいキリスト教世界での一体を目指すという、

一見、国家主義に対抗するようにも思えるのだが、

それを体現できるのがロシアのいんてり源ちゃんだとなると、汎スラヴ主義がちらついてくる。

スラヴ民族→正教→キリスト教世界 ～世界へと。

ここに、『おそろしあ』の原点があるのかなあ、と感じた。

真相は、さあ、どうだろう、そんな捻くれた考えをしてみただけだ。

★11月12日

毒気も抜け、そろそろやる気が出てきたみたい。

そんな訳で、書きかけの作品、今、手がけています。

それにしても何ですなあ～。

シリーズ物なのですが、前作品の固有名詞が出てこない。

困ったもので、新しい登場人物の名前さえ覚えらんない始末。

しかも、長らく放たらかしで、多分、辻褄が合っていないでしょうね。

ま、地道に書いて行くつもりです。

★11月11日

今日はポッキーの日か。

そんな訳で、相変わらず、ぬるいポエムは人気じゃの～。

うらまやしい～わい。

と羨んでみたり・・・・・・・・してみた。

★11月9日

復活の呪文は・・・・

ばる～ あっ間違えた。

これは滅びの呪文であった。

ん？

ま、そんなことはさて置き、寒いな～。

頭ががんがんする。

まじで冬眠したい。

★11月5日

これから、じゃんじゃんアジアや中近東、以前踏みにじられた国や、

未だ搾取されている国から、世界に向けて文学が発信されていくとしたら、

世界の評価は変わって行くかもねしれない。

認識も変えざるおえなくなるだろう。

思えば、日本人の自分探しの旅と言え、インドだ。

中国ではなく、インドだ。

心の源を辿るなら、インドなのだ。

我々は、遥か遠くと繋がっているのだ。

正倉院の宝物には、ペルシャから齎されたの物もけっこう収納されている。

つくづく、世界は広く見るべき、と思った。

まだ、インドには云ったことないけどね。

★11月4日

春樹・・・・・・・・。

毎日でのインタビューが、早速、某国のプロパガンダ的に利用されちよるけど？

これって、春樹的にはど～なのよ？

★11月3日

新作あげてみた。

書きかけの作品、ほったらかしなんですけどね……。

★11月2日

もうね、いっそのことはっきりと言ってほしいって思うんだけど。

公平にね。

ちゃんとした確かな目でだ。

『お前さんには才能がないよ。』ってね。

★11月1日

多分、発音に近い表記なら、キリリローフ。

そんなことはどうでもいい。

勝ち組・負け組と分けるとしたら、有無を言わず自分は『負け組』。

この先、何を楽しみに生きていけばいいかって？

死ぬ間際、えも言われぬ幸福感に包まれるらしい。

その瞬間でも夢見て生きて行こうか。

★10月29日

キリーロフはピストルを握りしめてながら恐怖に慄いていた。

そして、彼は、そうした自分が不幸だといった。

物語の中でも、現実の世界に於いても、自ら命を断つ者が少なくない。

誰だって、どんな人にだって、『死』というものが頭を過らないことはないかと思う。

しかし、どうして、人は自らを殺さないのだろう？

自分は、今、こうして生きているけど、

どうして、自分は死なないで生きているのだろうか？

死ぬ理由ならいくらだってあるだろうに。

多分、普通の人ならとうに死んでいるかもしれない。

やっぱり自分は、人よりずれているのかもしれない。

どこか、何か、狂っているのかもしれない。

色々と思い浮かべてみるのだ。

がたがたと足場の悪い何かの上で、ロープを握りしめている場面とか、

ビル風に吹き上げられた風を受けながら、覗き込んだビルの屋上の風景とか、

包丁を腕に当てて、正に引こうとしている瞬間とか、

しかし、そんなことは、どうしたって空想でしかないのだ。

何故って？

っと同時に、無意識の意識の底の方で、こんなことを探っているようなのだ。

自分が生きていてもいい理由をだ。

そしてふっと思うのだ。

何時の日か、何の躊躇いもなくすんなりと自らを断つ日が来るのだろうか？

あの境を、いとも容易く、何事もないかのように越える日が来るのだろうか？

自分の人生の中に、そんなことが本当に訪れる日が来るのだろうか？

自分は、他の人より防衛本能が発達しているのではなかろうか？

何故なら、異常な程の楽道家だ。

思えば、辛い、苦しい、と感じながらも、ならば努力をしたかと言うと全然してない。

だから、きっと、罰が当たるに違いない。

最後の最後に、自分ではどうにもできない状態の中、窮地に追い込まれるに違いない。

それは、積極的に生きようとしなかった者への罰だ。

故に、自分は、鬱になることも、自分の命をすきにする自由も許されていない様にさえ思うのだ。

★10月28日

わしが死んだら・・・・・・・・

・・・・・・・・美少年に生まれ変わるのだ。

そんなことを何気につぶやいてみた。

そして、TOP新着本を何気に見たら、『自殺のススメ』なる本を見つけた。

<https://puboo.jp/book/91527>

コメントしよかと思ったら、コメント拒否設定であった。

だったらメールしよかと思ったら、メールも拒否の様。

・・・・・・・・仕方ねえ。

と言わけで、ここにでも書いておくか。

この本を読んで真っ先に思い出したのが・・・・・・・・

そう、キリーロフ君。

キリーロフ君は何故自殺をしたのか、

漠然とではあるが、自分なりに理解はしているつもりだけど。

彼は、人神思想を証明する為に死んだんだ。

みんなは彼を無神論者と言うが、本当に彼は神を信じていなかったのだろうか？

と言うか、神が存在しないのなら、何故、死んで証明しなければならなかったのだろうか？

誰へに対する証明であったのだろう。

ま、キリーロフのことは一端置いといて、

この作者であるが、この人には一体どんな思想があるのだろうか？

最後の綴りに、

『以上のような理由から私は自殺を肯定的なものとして捉え、

行使することをお勧めします。』

とあるのだが、他人に勧められるもんじゃないよな？

しかも、この人の論説では説得力に欠けるんだよな……。

キリーロフは、ピストルの引き金を引く時、恐怖を覚えた。

ってことは、それは彼は自分自身の中に『神』の存在を感じたってこと？

因みに、スタヴローギンの死に方は、何だかかっちゃわるかった。

床に石鹸を擦りつけ、足を滑らせ首を吊る。といったものだ。

そ〜いや、何年か前にニーチェが流行ったけなあ。

そんなことを思い出した今日この頃。

★10月27日

暖かいかと思ったら気温は急降下。

明日は全国的に寒いとか。

寒い寒い、嗚呼、寒い。

懐は何時でも真夏でさえも寒いけど。

★10月24日

しかしなんだっ。

年をとると時間の経過が早すぎる。

気がつけば、寒いじゃないの……。

今日、6カ月検診で歯科に行ったら、虫歯があった。

しかも、かなり進行していたそ〜な。

しょっく！

日々、時間ごと、いやいや秒をおって、蝕まれていたのだな。

嗚呼、着実に刻まれて行く時間の中に、意識だけが取り残されている感じた。

自分は、なんにも進歩していないのに……。

★10月18日

と言うのも、あれは何時の頃か、学生の頃に違いないのだが……。

学校であったかどっかの講堂であったか、偉い人の公演を聞かされた時、

その偉いおっさん（誰だか忘れてしまったが）がこんなことを言っていた。

「ものを覚える必要なんてあらずやしない。

必要な時は本を開けばいいのだから。

知識は図書館にあり。」

阿呆な子には危険なことばであった。

それを真っ向にとってしまった。

以後、覚えることを放棄してしまった子供の辿る道は、といたら・・・。

ま それもこれも その人の人生。

★10月15日

最近、切に分かったことが有る。

自分には、思考する脳みそが必要なのだと。

どうしたって、自分の脳みその限界を知っている。

他人と比べて、容量が少ない。

これは仕方のないことだ。

それで、自分はある裏技を編み出した。

といっても、これは、無意識のうちにであるが。

記憶することをしないのだ。

ものの名前、ことの詳細、九九等々・・・。

それらは、PCが教えてくれる。

計算に於いて、計算機がしてくれる。

自分はただ検索の為のキーワードだけ覚えておけばいいのだ。

PCは、自分の『第二の脳』、とでもいえようかな。

しかし、これには弊害もある。

人との会話の中で、言葉が出てこない。

相手は、ものを知らない馬鹿なやつだと思うだろう。

そんな感じで、コミュニケーションの場では損をする。

そして、もっと悲惨なことは・・・・

最近あったことさえ余り覚えていない。

人に言われて、そうであったかと思ひ出したり、覚えてさえもういなかったり。

・・・・。

これは、認知症？

★10月14日

結構長いこと、『台風一過』を『台風一家』と思い込んでいたものだが、

多分、それは、自分に限ったことじゃないと思う。

芸術における天才なんてそうそう現れるものじゃない。

これはあきらまかなやっかみかもしれないけれど。

凡人の自分にとっては、そうそう現れては困るのだ。

『困る』というよりは、『混乱する』が相応しいのだが・・・・。

それは、商業的評価と真の評価の相違についてであるが、

割り切るには容易いことだが、それにつけても空虚なものと憂鬱になる。

それとは知らずに踊らされる者、

真なるものを知っていながら妥協せざるを得ない者、

何もかも心得て仕掛ける者、などなど。

商業的なものと真の芸術は別の次元の世界として考えなくてはいけないし、

今の時代、商業的な土壌はなくては芽は生えず花は咲かせないのだろう。

仕方のないことではあるが、どちらも縁のない者にとっては混乱せざるを得ないのだ。

『こんなんでもいいの?』と。

そんなことをあることを見聞きして思った今日この頃。

要は、本物を見極められる自分の感性を磨くしかないのだと思った。

★10月9日

秋の風物詩、逃す春樹のノーベル賞。

それにしても、どうして毎年彼は名前が上がるのか。

彼の何処に人々は魅了されるのか。

誰か、公平な視点で教えて欲しい。

以前、何処かで読んだことあるけど、

「春樹はジャズが好きで、ジャズ喫茶の店主をしていた。

故に、春樹の文章には独特のリズムがある」とか言ったような。

自分は、常日頃思うことが有る。

自分の場合はクラシカルを聞いているのだが、勿論聞くだけでうんち君とは無関係。

しかしながら、思うのだ。

好きな曲を聞きながら。

切ない程に、気持ちが高揚する。

そして切に思うのだ。

この素晴らしい曲を、何とかして言葉にしたい。

人々に、どうにかして伝えたいと。

例えば作詞家が、曲に合わせて歌詞を書く様な、そんなんじゃなく、

作品としてその曲を表現したいという欲求が湧いてくるのだ。

言葉で、文章で、物語の中に。

そんなある日にふっと春樹の作品が頭を過った。

彼の書きたいことって何なんだろう。

ジャズ好きだという言葉が頭を過った。

それは、もはや自分の血の如く、音楽が身体を脈打っているに違いなく、

だったら、やはり、彼だってそうだ。

拍子が刻む旋律を、文章にしてみたいと思っているに違いない。

故に漠然とした、根なし草のような、言葉が空を漂うような、

これは、あくまで自分個人の受け方であるけれど、

しかも、まともに読んだのは1冊で、ノルウェーの森はまだ上巻だけだが。

そして、こんなことも思うのだ。

自分は、『文学』とは何かさえしらないけれど、

例えば、ある一つの曲を文章で表すことができたとしたら。

それは、読む人に於いても同じ感性でもってその曲であると認識できうる、

しっかりとした土壌のもとより生えた作品であったとしたら、

それもまた『文学』と言えるものではなかろうか？

ここでまた一つ疑問が起こる。

こうした物が実現できたとして、『しっかりとした土壌』は必要か？

作品は誰に帰属するのか？

作者の意思を押し出すものか、それとも、読み手に全て任せるものか。

いずれにしても、作者の自己完結はよくない。

そんなことを絡めて考えていると、春樹の文学性というものはそうしたところにあるのかなって、

ふっと、そんなことを思ったり。

春樹はグローバルな作家と言われているが、所以はどこにあるのだろうか？

翻訳家の腕がいいとか、そんな話もあるけれど。

何が人々の琴線にふれているのだろうか？

このもやもや〜とした感を解消したいと、彼の名を聞くたび思うのだ。

★10月6日

いつの間にか、10月も6日も過ぎちゃってるけど・・・。

誰かがダウンロードしてくれていた。

が、にも関わらず、PDF・ePub とやらを更新してないんだよね。すまんの〜、ずばらで。

そんな風だから、書きかけの作品も放ったらかしのままだ・・・。

終わらせてしまいたいとは思っているんのだが・・・・・・・・・・、

ふぎやらぐうわ〜っと、冬が来る前に。

★10月2日

ついでの話なのだが、アルベルト・アインシュタインは

ADHD（注意欠如・多動性障害）なのか、それとも AS（アスペルガー症候群）なのか？

読むものによって違うのだけど・・・・。

統合失調症の脳内は ADHD にも似ているらしい。

ADHD や AS の所謂発達障害には、天才が多いと言われ（竜馬、アインシュタイン等）

その一方で、天才の中には、脳を酷使しすぎで精神を病んだ人もいる（芥川、ゴッホ等）。

そこで、この、発達障害であるが、調べたら、と言っても 2 ch ネタだけどね、

AS は、アメリカでは 9 0 0 0 人に一人、それが日本では 3 0 0 人に一人だと言う。

これは、報告されているだけの統計であるので、実際にはクラスに一人の割合だともあった。

どうして日本は突出して多いのか？

一つは『ADHD・AS＝天才』というブランド性。

どうせ精神疾患であるのなら、これを付けてくれといった具合に、

又は強い思い込みで、精神科に押し寄せてくるらしい。

この偽発達障害は一体何パーセントを占めているのだろうか？

そしてもう一つは、本当に多い。若しくは増えている。

天才であるという話は置いて、この発達障害が増えているということであるが、

ならば、どうして増えて来ているのだろうかである。

fMRI で撮ると、脳のなんじゃら～と言うところに障害あるらしい。

これは、脳そのものに問題が有る訳で、気分といったものからくるものではないのだ。

それが増えて来ていると言うことは、どう解釈したらよいものか。

つまり、日本人の脳みそに異変をきたしているということのだ。

しかし、どうだろ？

これはあくまで推測であるけれど、人類は日々進化しているのだ。

この異変（障害のある脳）も進化の過程とは言えないだろうか？

根拠ならあるよ。社会的な根拠が。

現代は情報過多だ。情報源も沢山ある。

しかも、覚えなければならないことも、昔に比べたら遥かに膨大だ。

何かの情報を得ようとしたら、人と無駄な会話をして得るよりも、

ネットで検索すればどれだけ時間が短縮できることか。

人と話している間に、どれだけ多くの情報を得られることか。

出つくされた飽和状態の中で、抜きんでようとしたら、必要なのは創造性だ。

普通の人では考え付かないことに着目し、実用化させる力だ。

また、資源のない国である日本は特に科学技術の発展は重要不可欠である。

我々は、ADHD のように常にフィルターを開けっぱなしにしておかなければならいし、

こと理科系が多いとされる AS のごとく、黙々と一部分野を探究する人材を必要としている。

生物が進化に影響を与える要因の一つが、危機だと聞いた。

その社会の急激な変化に、ただ、人類の脳みそがいまいちついていけないだけで、

『障害』という形で表面化されてしまうのかもしれない。

進化とは『奇形』とか『障害』というのをどっかで聞いたことがあったような・・・。

楽園を追い出された人類の祖先たちは、さぞかし辛い思いで二足歩行になったことだろ

う。

あと何千年か何万年か後には、違った社会形態で、想像さえつかないコミュニケーション手段をとり

全く違った脳をしているかもしれない。

その頃には、人類は滅亡し、カエルが打って変わって

知的生命体となって地球を支配しているかもしれないけどね。

★10月1日

面白い記事を見つけた。

3 / 17 配信された CNN の記事である。(http://www.cnn.co.jp/career/35044129.html)

日経でも同じようなこと書いてあったけど。

統合失調症と創造豊かな人との脳内の活動が似ているということである。

そしてもう一つ、これはどっかで・・・うっき～さんにもあったけど、

統合失調症と覚せい剤の症状が酷似しているということである。

制作活動をする人の中で覚せい剤に手を出す者が少なくない。

記憶に新しいところでは、嘗て湧かせた二人組みデュオの一人が覚醒剤で逮捕された。

捕まった人々は、疲れが取れるとか、いい気分になれるとか、色々いっているけど

その理由の一つに、『閃き』があったと思う。アイデアが降りて来るといような。

精神が荒廃していくというのに、何故、薬物に手を染めるのか？

という疑問をかねがね持っていたのだが、

しかし、これらの記事を読んで、ふっと自分なりの答えが思い浮かんだ。

脳のフィルターが機能していない・弱まる状態（認知的脱抑制）で

無作為に入ってきた情報同士が、何らかの拍子で結びつく、これを『閃き』と言うらしいが、

天才的芸術家は、この状態に意識せずともすることができるが、

凡人は、薬を使うことで、この状態へともっていくのでは？ と考えた。

だが、この認知的脱抑制状態、彼等はどこで味わったのだろうか？

たまたまヒットした時に、この状態を脳内で体感していたのだろうか？

たまたま遊びで打った薬物で、この状態にあってヒットが出たのだろうか？

薬物に依存した場合であるが、神経や細胞に受けた損傷によって、

知能が低下し、論理的に物事を考えられなくなるはずだ。

それに、進行して行くと、持久力もなくなるのではないかな？

人は、奇抜であるとか刺激的であるからと言って、ちぐはぐな思考での作品を

はたして、違和感無く受け止めることができるであろうかな？

恐らく、あるボーダーまではね。

それを越えてしまったら、人間としてもヤバイ状態なのかもしれない。

★9月23日

省みて、自分を読みかえしてみた。

自惚れはみっともない。そして、こっぴどかしい。

それから、自分を卑下することは止めた方がよい。

読んでいて見苦しい。それに、人を嫌な気分にする。

そう思ったそんな国民的休日。

★9月22日

脳みそ更新作業も疲れたの～。

すっかり、書きかけのやつ、ほっぽりっぱなしだ。

書き始めで遺作ってのもなんだしなっ。

★9月21日

わし、今、知能を高める訓練しとるんじゃが・・・と言ったら、

無意味な努力だと言われた。

確かに、じじい～がするなら、呆け防止・・・・・・・・。

★9月19日

こんな問題見つけたので考えてみた。

5人の処刑囚がいます。

5人はこれから赤か青の帽子を被せられます。

さらに5人は階段の下に向かって1段に1人ずつ並びます。

自分の帽子は自分では見る事ができません。

自分より下の階段にいる人の帽子だけが見えます。

5人は上から順番に、自分の帽子の色を言わされます。

もし正しい色を言えない場合は、その場で処刑されます。

5人は帽子を被せられる前（並ばされる前）に相談をし、

少なくとも4人は確実に助かる方法を考え出しました。

さて、どうすればいいのでしょうか？

なお、5人はそれぞれ『赤』か『青』の一言だけしか言うことができません。

イントネーションを変えるとか、前の人に触るとかいうアクションも一切できません。

難しいことみんな考えてるんですけど、

これって、答える際、下の帽子の色が赤だったら手を叩く、青なら足をならすとか・・・・、

運が悪ければ、最初の一人死ぬだけで済むし。

それって、前の人に触るとかいうリアクションじゃね〜し。

答える時の癖だよ癖。

．．．．．って、だめですかね？

★9月18日

気分がのらない．．．．．。

寝るかなあ。

★9月16日

シリーズものを書いてる訳だが、たらたら書き過ぎてなかなか進まん。

ドストエフスキーを読み馴染んでしまったせか、事細かに書き過ぎ。

調べれば調べる程、ロールシャッハ・テストって知能バレバレなんだよね。

思い出しても赤面ものだわい。

性格暴かれるより恥ずかしいわい。

それに、まんまと策に嵌った感じも無きにしも非ず。

あれって、精神疾患方面に誘導できる感じがするな。

また、ご希望の疾患があれば、狙った診断に近づくことも可能だな。

今は、MRIとCTでほぼ一発で病気が有ればわかんでしょうが。

それにしても、馬鹿がばれて恥ずかしいな．．．．．。

★9月15日

昨日、NHK スペシャルで立花隆氏の臨死体験を見た。

以前にも、NHK で、臨死体験のメカニズムを見たことがある。

その時も、死ぬ瞬間、最後の最後に働く脳の部位があると言っていた。

それは、何とかとか言っていたが忘れてしもた。

極めて原始的な脳で、知能が発達する前から持っていたとか。

普通すぎて、これと行って特別なことのない人生で、

最後に最上の幸福感を味わえるのだ。

そこでどうだろう？

この部位を何とかして働かすことはできないだろうか。

外的衝撃、つまり、首を吊るとか、刃物を身体に突き立てるとかではなく、

内的な、そうだな念力とかで。

証拠を残さず、なんとかこれを作動することはできぬだろうか・・・・・・・・。

★9月12日

お辞儀を調べておったら、韓国式お辞儀がびよこびよこ引っかかって来た。

どうでもいいんで無視し続けておったが、これみよながし検索欄にお目見えしよる。

仕方がないんで、1個ひらいてやった。

なるへそ～。ﾌﾏﾌﾏ。

因みに、この韓国式お辞儀とやら、巷に横行しておるとか。

そう言えば、見たことあるㇿ。

と言わけで、自分も『韓国式お辞儀』とやらを実践してみた。

・・・・・・・・・・。

はらいでえ・・・・なるほど、とこういうことかと納得。

誰が美しいと思ったんだろう・・・・。

まず、日本式お辞儀は韓国式お辞儀とやらより深いような気がする。

おへそに手を重ねたままお辞儀をすると、確かに「はらいでえ」と。

それに、何か美しくない。

肘が突き出て角ばった印象。

肩肘張った感じがいかにも韓国人らしい。

肘は、身体のラインから付き出ない方が優雅で美しく見える。

やはり、日本人には日本字式お辞儀の方がよい、と自分なりの結論を見出した。

★9月11日

閲覧数を見て、ぞろ目が嬉しかったりする。

★9月10日

多分、西欧ではづらが落ちてしまうんじゃないかと・・・・・・・・。

女性は、大きく結いあげて、色んな物しこんでるし。

そんな頭で、腰から前に身体を折って頭を下げたらそりゃ大変。

そんな訳で、特に女性となると、

なるだけ頭は下に向けないで頭を低くする技を編み出したのではないか。

と、ふっと寝しなに閃いた。

ういっき～さんで見たら、女性の場合は、膝まつく姿勢が原型なのね。

★9月9日

丸善から出された『ロシアの神話』という本を読んで見た。

薄い本なので直ぐ読み終わった。

ざくっと書いてあって、する〜と読めるもんだから

読んだ先から抜けてしまったが。

自然崇拜、先祖崇拜といった原始的な宗教の話であるが、

亡くなった人には勿論、精霊にまでお供えするというのには興味をそそられた。

前から不思議に思っていたのだが、ドストエフスキーの本の中に、「ロシア式おじき」が出てくる。

文字通り、お辞儀なので頭を下げるのだが、深々とさげるのだ。

印象的なのは『カラマーゾフの兄弟』でカーチャがミーティアにお金を借りた時であるが、

「女子学生風のお辞儀ではなくロシア式の」といった表現をしていたと思う。

東洋では珍しくはないが、欧米では珍しい行為だと思う。

このロシア式お辞儀とやらは、一体どこからやってきたのだろう？

★9月7日

ロールシャッハテストの結果であるが、『白痴』と言われちゃったらしよ、と考えてしまった。

つまり、自分が真実であると思っている全てが虚構であると。

自分が見ている世界全ては、自分自身で作り上げた『妄想』『幻想』であると。

ムィシュキンは正にそれであって、病的で顕著な例がドン・キホーテということだろう。

自分が虚構をさ迷っているとしたら、ならば現実とはなんだろう。

ならばこの世の真実とはなんなんだろう。

自分の体感が、実生活の全てが虚構であるのならば、自分は一体何者なのだろう。

★9月5日

眠い。

異常に眠い。

寝たきりじじい〜のプロログであろうか。

★9月4日

手がかゆい。

そんなあなた、思わぬ臨時収入がはいつてくるかもしれませんよ。

てなことをきいたことあるけど、お金が入ってきたためしがない。

因みに、サマージャンボ宝くじなんですけどね、当たりました。

勿論、300円。

これは、1／10の確率で当たった、というか、10枚買えば1枚は当たるシステム。

そろそろ換金しようかと思っているのだが・・・・・・・・・・当り券がない。

外れた奴は、束になってあるんですけどね。

どゆこと？

ああ〜手がかゆい・・・・・・・・んですけど。

まったく、ど〜ゆ〜こと・・・・・・・・・・。

★9月1日

奥の手使って順序良く並べてみた。

やれやれ 疲れたわい。

というか、途中でまでも不手際さに気が付いた。

だいぶ脱出させてのことのなのだが・・・・・・・・

過去分を抜きだすより、今年分新しくした方が楽だったんじゃないのかな？ と。

いや～、じじい～ったら1本とられちゃったわい。ハハハはっ？

★8月31日

知恵熱でもいいでしょうか、って熱が出てるわけじゃないんだけど。

シリーズもののまだ本筋にさえ入ってない書き出しの途中で、はたと気が付いた。

お前だけだよ？ と登場人物の名前を忘れるし、年齢もぐちゃぐちゃ。

シリーズ化してしまうと脳内処理だけでは限界があることに気が付いたのである。

仕方がないので、年表でも作成して整理することにした。

世代を越えたシリーズものって、こんな落とし穴があっのね。

・・・・・・・・・・計算がメンドク。

そんなこんなで、半日は潰してしまった。(8月31)

★8月30日

付け加えるていえば、当時のロシア社会について。

ロシアは西欧から見たら、北のどんづまり、未開の広大な田舎だ。

野蛮で無教養、不法者で、波蘭人でさえ見下している。

上流社会はフランス語を公用とし、軍隊はドイツ式、皇帝すら外国人の血が流れている。

民族意識が高まって来た時代に、自分達独自のアイデンティティを追求するのは当然であろう。

鼻っから馬鹿にして蔑みながらも、反発し憎みながらも、茶化したりからかいながらも、

言葉を求めたり、救いを求め縋ったりさえして、

登場人物達はムイシュキンにほっとおけないどうにも惹きつけられる何かを感じるのだ。

ロシア社会で往生するムイシュキンという話で認識されているが、

自分には、寧ろ彼の扱いに戸惑うロシアの人々といった風に見て取れた。

彼を完璧な人と思えないのには、ナスターシャを憐れみながら持て余してもいる。

彼は人の痛みを感じることはできても救うことはできないし、まして奇跡は起こせない
のである。

自分には、彼はどう生きるかというより、どう生かされるべきかと問われている様に感じた。

故に、ムイシュキンはキリストとは違うのだ。

江川卓氏訳『罪と罰』（岩波）の訳注に、ユロージヴィ（聖愚者）についてがある。

ドストエフスキーは、ムイシュキンを「我等はキリストによって愚かな者なり」の一人と称していたと。

（他、悪霊のマリア、カラマーゾフのアリョーシャ・スメリジャコフの母リザヴェータをあげている）

聖愚者は真実の神の言葉を人々に向けて発すると言うのなら、

この物語の言わんとする真実とはなんであろうか？

物語は悲劇的な最後で終わる。が、必ずしも破滅だけでは終わらない。

登場時は皮肉屋でいけ好かなかったエヴゲーニー・パーヴロヴィッチだが、

終盤では公爵の理解者となり、発病時には献身的に公爵に尽くす。

彼は擁護者（エヴゲーニ）を得て、覚醒された意識で宣言される（夫人から）。

最後に、キラリと光る期待を残して物語は終わるのだ。

それこそ、正に、ダイヤモンドだ。

『Идиот（白痴）』（2004年露TVドラマ）で、夫人の訪問を受けたムイシュキンが、

スイスの山々が見渡せる病院の庭で、燦々と太陽の光が降り注ぐ中、

何も分からない筈の彼が、微かな笑みを浮かべてドラマは終わる。

とても印象的な最後であった。（8月30日）

★8月29日

さぼり癖が板に付いたのか、まったく書けなくなった。

面白いように、全く進まんのだ。

思考がピタッと止まってしまっ。

いいや、散漫して。

やはり、色々考えてしまうのだ。

『白痴』について人々が思うところを読んで。

自分は木村浩氏の翻訳で読んだのだと思う。

どこで読んだか忘れてしまったが、登場人物の解説について、

ナスターシャとアグラヤ、ムシュキンとロゴージンは陰と陽の如く対をなすと。

そうかもしれない。

伯爵がエパンチン家の女性達を前にして、彼女達の顔から受け取れる印象を述べていたが、

アグラーヤには敢えて言及せずにナスターシャと同じ目をしていると感じた。

これは、アグラーヤとナスターシャの本質は同じであることを暗示している。

ドストエフスキーは、この作品の制作にあたり誰だかに手紙を出してる。

その中で、ある人物がまだはっきりとしていない・・・というようなことが書いてあった。

その人物とは誰のことなのだろう？

ムイシュキンの人物像についても多くの人が分析をしているようだ。

多くの人が、キリストとみなしている。

自分が読んだ木村氏の解説では、確か、『完璧な人』ではなく『美しい人・素晴らしい人』とあった。

原文では、прекрасный なんかであったかな？ 決してパーフェクトではないのだという。

分類としては、恋愛小説。

そうだ、話の流れは、正に恋愛小説といってよい。

しかし、恋愛小説にするには、自分にとってはちぐはぐな感じがする。

ムイシュキンの行動は、恋愛をする人の行動としては理解しがたい。

ドストエフスキーの小説は思想だ。革命だ。と、自分は思っている。

勿論、イポリートや他の登場人物、主人公のムイシュキンにまで言わしている。

しかし、自分は、言葉という形ではなく、もっと感覚的に訴える思想を感じた。

つまり、登場人物はロシアそのものののだと。

そしてムイシュキンは以前も述べたように、純粹無垢なロシアの魂であると。

そうであるなら、全てを慈しみ愛し許す彼の行動に理解がいくのだ。

トルストイが「これはダイヤモンドだ！」とかウィツキイさんに書いてあった通り、

そう考えると自分はこの言葉に賛同できるのだ。

初めて彼がエパンチン家に行った時のことを思い起してみる。

エパンチン家の女性達に顔からくる印象を述べた時のことである。

リザヴェータ夫人に言った言葉を。

彼女は自分によく似ていると。生れたての子どもそのものだと（みたいなこと）。

何でそんなことを言うのかずっとひっかかっていた。

だったら夫人は、ムイシュキンの分身なのであろうであらうか？

西欧化された貴族社会で何時もびくついてお伺いをたてねばならない彼なのか？

最後の最後に、夫人は自覚を持って決心する。

ドストエフスキーは本を読む印象としては信心深い。

彼は、キリスト教的思考で考える。

ロシアの魂の目覚めを、キリストの復活になぞるのも合点がいく。

ロシア人は、正教にこそ本来のキリストの精神が反映されていると考えているらしい。

彼も、本の中で、カソリックやプロテスタントを権力に溺れた亡者の如く罵っている。

だからって、自分が読んだ印象からすると、ムイシュキンはキリストとは違うような気がする。

『完璧』ではなく、やはり『美しい（прекрасный）』のだ。

そして、愛すべきお馬鹿さん（идиот）なのだ。

★8月28日

何もしたくない病。

この前、ロールシャッハテストをやらされた。

というわけで検索かけてみた。

やっちまったぁ・・・・・・・・。

なんか、まんまとはまった気がする。正に、不意をつかれた。

人の体験談、且つ、診断方法を読みあさり、結局なんのこっちゃかあくまでも想像、

なんとなく碌でもない予感がする。

思い起して、照らしてみれば・・・・・・・・初っ端からやらかしておる。

初っ端とは、テスト開始の始まる前の第一声からさ。尚も続く・・・・・・・・が。

どうせ馬鹿なら、ただのお馬鹿さんより、天才的なお馬鹿さんの方が、断然こっちよい。

が、これじゃ、度を越えたお馬鹿さんじゃないの。

ま、あまり信ぴょう性のないテストだという話もきく。

例え熟練した研究者だとしても、疾患症状までは断定できないらしいし、

あくまで、過去のデータから性格を分類していくものらしく、

そこは血液型診断とか、手相とか、星座占いでもする感じでいいのでは？

と、軽く考えよう。

でも、知能は分かるらしいぞ。

★8月24日

嗚呼 もう夏も終わりか～。

どうして真冬のオーストラリアで水泳大会なんだろう？

しかも、屋外だ。気温18度と言うではないか……。

世の中は、正に、謎だらけだ。

★8月20日

実は昨日、思うところがあって、白と黒の鳥について検索してみた。

鳥は白黒であるという認識の地域は一体どこなのか？

ロシア、ヘルシンキ、イタリア、トルコは、画像で確認。

日本では九州。全国に生息しているらしいが気が付かない。

誰か正確なところ調べてくれんかの～？

★8月19日

昨夜はとでもない目にあった。

寝ている時に、急に左胸から背中へと、引き千切られる様に痛み出した。

痛くて、痛くて、

それでいて、自分は激痛を感じながらも眠っているんだなと思いつつ。

そして、治まらない痛みに耐えながら頭に過った。

心不全って、こうして誰にも気が付かれず死んで行くのだな～と。

つまり、仮想ご臨終体験だ。

仰向けに寝ており、横を向いたら治まったけど……。

多分、他所から来る煙草の煙が、夜の１０時半当りから立て続けて１２時まで

続いて酷く咳こんだせいで、肺が疲れて痙攣をおこしたのかもしれない。

★８月１８日

なんだろうな？

何にこだわっているのかな？

書くことを拒絶している自分がいる。

「いつまでこんな生産性のないことを続ける気だい？」

と否定している自分がいる。

そんな言葉、聞きたくないと背く自分がいる。

「現実を知れよ」

多分、焦っているんだ。

何もない自分が無力で、将来が不安で、怖いんだ。

落ち着け、落ち着け、

何もしないで死ぬのと、

無駄であっても足掻いて死ぬのと、

どっちが有意義だい？

いざとなったら足掻いてみせよう。

そうだろ？

その為にも、少しでも何かをしておかなくては。

多分、自分は、環境に疲れているだけなんだ。

★8月17日

新しい、と言ってもシリーズもの書いてはいるんですけどね、

全然すすまぬ・・・・・・・・。

やる気がでんのだ。

きもそぞろ。

そんなわけで、何もしないのもよくないことと、せめても・・・・・・・・

麗しのかえる姫の後ろ部分を修正して見た。

ちょちょこと 色んな作品 変えてみたりしてるんですけどね。

気づいてくれたかしらん。

って、気づいてくれる人がいたら凄いよね。

★8月14日

ま、なんだ。

タバコの煙が夜な夜な眠っているところを襲いにくるわけで、

体力的にも精神的にも限界なんですけどね、

最早、タバコは嗜好品じゃないよってことと、

吸わされるのは迷惑だよって拒絶する権利があるってこと、

喫煙者の殆どは黙殺しているわけで・・・・・・・・、

悪質なやつになると、嫌煙ふぁしずむとか暴言はきよりゅ。

そんな訳で、空気清浄機を付けてるわけだが、

放り込まれた煙を電気料を払って処理しなきゃなんないとか、

どうにも胸糞が悪くなる程の理不尽さを日々抱え増殖していくわけだけでも

しかも、決して分解されているわけじゃないし。

そんな苦痛の中で、一念発起し、消臭剤を作ってみた。

100%天然素材だ。アルコール意外わね。

蒸留水・アルコール・アロマオイル（ティートリ・レモン・ラベンダー）入れてみた。

が、実は、アルコールも駄目という……。

案の定、シュッシュしたら、喉が痛い。

そこで、次なる手段を考えた。

保冷剤アロマを作ることにした。

保冷剤・アロマオイル（ラベンダー・ローズウッド・イソイソ）こんな感じ。

それはそうと、一抹の不安が……。

空気清浄機ONにしたら、みんな吸いこまれちゃうんじゃないの？ と……。

★8月13日

今USBメモリーに自分の作品をちまちま映していた。

そんな地味な仕事をしながら、ふっと考えた。

自分がこうしているのは『確率』のためなのだなと。

世の中には、何をやってもだめな人間がいる。

特別悪党とか馬鹿とか、明らかな非があるわけでもないのに、

何一つとして旨く行かない人間がいる。

何処にも、何にもひっかからないで。

そして、ふと思った。

例えばこの先何年後か、何十年後かもしれないが

自分はいよいよどうしようもなくなる日が来るだろう。

それは貧困による飢えかもしれない。

病気による苦痛かもしれない。

自分はその時、どうしてのりきるのだろうか？

例えば母一人子一人の苦勞で育って、苦學して、職を得て、家族を持って、

人一倍苦勞して、人並み以上の暮らしを得たとしても、孤独に死んで行く人もいる。

だったら自分は尚のこと、これ以上、不幸はあっても幸せはあるまい。

彼の場合は不運であるが、自分の場合は自業自得だ。

飢えて死ぬのも、病気で苦しむのも、罵倒されるのも、独りで死んで行くのも、

そんなことは、道はずした時に決まったことだ。自業自得。

とても怖く思うけれど、多分、自分は自業自得と納得してやり過ごすのだろう。

こうして書けることが唯一の慰めだ。

故に、自分はまだまだ幸せなのだ。

自分の存在同様、作品もまた黙殺されることであろうが。

それは正に確率であって、誰が負うものでもないのだ。

自分はその他大勢の人員に組み入れられてしまったのだ。

ただ、それだけのことだ。

★8月10日

連日のくそ暑さとか、ご近所方々からの煙草害とかで、

創作意欲がすっかり殺がれ、ぐだぐら、げろげろと過ごしてしまった。

書きかけの作品も長らくほっぽり出して、どうにもこうにもやる気が出ない。

内容がないよ～だけに、全く持って拒絶感。

嗚呼、こんなことではいけない・・・・・・カエル失格。

と言わけて、心機一転、書くことにした。

と言っても、先程まで書きかけた卑劣漢は書きたくないので、

シリーズものの続きでも書こうかの～と。

★8月9日

どうしたら思い通りに頁が並ぶのだろうか？

それにしても、最新作の閲覧数が伸び悩んでおるのだが、

これはやはり、不適切な表現の為に制限がかかってしまったているのだろうか？

な～んて、そんなこと考えたりもしたりしてみたが、単に受け入れられてないんじゃないのかなの？

宗教色が強くなったことも毛嫌いされる理由ではなかろうか。

この物語を書くに当たって、我々日本人が言う所の『義』であるが、

西洋人にとって『義』とは何であろうかと考えてみた。

彼らの精神世界を支配するものは『主』以外の他になにものがあるか？

つまり、彼らの善悪の基準は『主』の意思に寄るのではないかと。

故に『神が人を造ったのか、人が神を造ったのか』と悩むのかな。

今の時代に於いてはどうかは知らないが、一昔前の人々にとっては、

基督教は単に宗教としての位置づけには留まらず、

彼らの心を覗こうとするのなら、避けて通れぬものなのであろう。

★8月8日

『白痴』の主人公ムイシュキンは、ドラマの中で、『КНЯЗЬ (クニャヅ)』と呼ばれていた。

訳された本の中では、ムイシュキンは伯爵の出である。

今日、試しに、伯爵をロシア語で何と言うか調べてみた。

『Эрл』だ・・・違うじゃないの。

だったら、『КНЯЗЬ (クニャヅ)』を調べればいいんじゃないのと、ウィキさんで調べてみた。

なんでも古くは一族の長でルーシと言われる頃から、君主を示す様になったとか。

18世紀以後は高官の貴族にもこの称号は与えられたそう。

この前読んだ『悪霊』のスタヴローギンであるが、彼はただの貴族だ。

しかし、正妻マリアはドラマの中で彼を『КНЯЗЬ (クニャヅ)』と呼んだ。

スタヴローギンがスイスに行こうと誘った時、マリアが殺される前のことだ。

彼は、『КНЯЗЬ』と呼ばれることを強く否定して、マリアが「偽物」と罵った。

翻訳した本の中でも『伯爵』と訳されていたと思う。

本を読んでいて、伯爵という訳に対しはピンとは来なかったが、

言葉の意味を知った今なら、なるほど～と思わされる。

ドストエフスキーは、『КНЯЗЬ』という言葉を意識的に使っていたのだ。

※但し、原文は確認してないけどね。

★8月5日

あれよあれよと閲覧数が増えていた。

意外に、日本のみなさん、チェーホフの映画に興味があるのね。

って、みなさんって程の閲覧数ではないけれど。

あの撮影場って、日本で言うところの「うずまさ」なのかな？

時代物のドラマでみかけるけれど。

ソ連時代に正教の儀式を再現したのには勇気あるね。と、思った。

★8月2日

あれからかれこれ15年は経ったのであろうか。

ずっと気になっていたドラマの正体が、つい先日、判明した。

それは偶然、ユーチューブで見終わった映画の脇の欄を何気なく見ていた時のこと、

見覚えなあるシーンを見つけた。

題名は、「Мой ласковый и нежный зверь」1978年 ソ連制作である。

チェーホフの「драма на охоте」和訳名（狩場の悲劇）に基づいて作成したものらしい。

兎に角、映像が美しい。

露西亜の自然が美しい。

露西亜貴族の遊興ぶりが面白い。

特に、主役の女の子がかわいい。

内容は、可憐など'貧乏少女を取り巻く助平おやじどもの恋愛サスペンス。

1 時間ほど経った辺には、怪しげなジャポニスムな場面も登場する。

言葉が分からなくても、見ごたえがある。

読みたくって図書館に行ったが、何かで貸出不可であった。ザッ初。

しかし、長い間のもやもやが解消されてよかった。

時間がある時、読みに行くか、館間貸出申し込もう。

★7月28日

自分は、社会に適応できない脱落者だ。

野生の世界であるならば、とっくに死んでなければいけない存在だ。

人類の進化に於いても、淘汰される種類の人種だ。

苦しみながら、つくづく思い知らされる。

まるで生き地獄だ。

面白がって、楽しみながら、苦しめられて。

死ぬまでずっと続くのだ。

嗚呼、死んだ方がまし。

首をひもでくくって、踏み台を蹴飛ばしてみる、

遥か下から吹き上げられるビル風に煽られて飛んでみる、

何時も馴染みの包丁に手を添えて、頸動脈を切ってみる、

そんな瞬間を想像しておきながら、決してしない自分。

「死のう 死のう ねえ死のうよ」そう誘いかけてみても、

でも、一向に死んでみようとさえしない自分。

救いなんて何処にもないのに。

精神だけが狂っていく。

★7月27日

やはり、何か救いが欲しくて、再度、『白痴下・終局』を読んできた。

そしたら、エリザヴェータ夫人が謎めいたことを呟いている事に気がついた。

伯爵がスイスの病院に再入院した際、夫人がお見舞いに行った時のことである。

それは、正に、最後の最後の言葉だ。

「そろそろ理性を働かせてもいい時分ですね。～

欧羅巴のものなど何もかも幻影にすぎませんよ。～

この言葉を覚えてらっしゃい、今にご自分で分かりますからね！」

これは全くの独自の見解であるが、ドストエフスキーが求めていたものはロシアである。

純粋のロシア精神によって成り立つロシア社会である。

例えば、ムイシュキン伯爵を長く欧羅巴の下で眠らされていたロシアの精神だとしたら、

やっと目覚めたロシアの精神は、愛されながらも持て増されて、また欧羅巴での眠りの中に追いやられ、

生きる支えであるはずのアグラヤーは、波蘭人の活動家で偽伯爵の手にすっかり落ちてしまう。

スイスの医者には、伯爵の回復はほぼ無いであろうと言われ、

家族のだれもが、その結婚が破綻することを予感し、彼女が帰って来ることを待ち、

そんな状況のなか、夫人は、確証の無い決意をする。

それは願望でしかないかもしれないが、作者の予告の様な予感を感じた。

★7月25日

頭が痛い。

深夜の殺傷能力を兼ね備えた噴霧液のせいか、

はたまた、軽い熱中症か。

じじい〜だから、脱水あんま気がつかないんだよね。

そうこうしているうちに、遂に『白痴』読み終えてしまった。

なんとも言えない余韻を残して。

例えば、零れてしまった覆水を盆に返そうと夢想するかのように。

零れてしまった、やっぱり、零れてしまった、零れてしまうことが運命であるのに。

ならば新たな水を、なんなら新しい盆にでも、

今は駄目でも、何れはきつと、そう願わずにはおれないのだ。

そして、ふっと気がつくと、自分は死へとむかってまた一段と時を進んだことに気がつくのだ。

やはり、戻せないのだ。

先を知りたく澆刺とした日々には、もう、戻ることなどできないし、

だからと言って、先を知らないもどかしい自分に戻る気はさらさらないのであるが。

ドストエフスキーの作品を読んだ後はこんな空しさが去来する。

彼の作品に限らず、思考が喜ぶ作品に於いては、である。

★7月24日

しかし、何ですな、暑い日が続きます。

それにしても、連載中の作品は受けが悪いようで、

いよいよ次回が最終回となりにけり。

結局、未だ、書きかけ中は手つかずのまま、放ったらかし。

やる気が失せて、こっそり企画をこそっとしてみたり。

卑劣な奴の話は気分がのらないな。

寝ているとことを起こされるのは辛いことだ。

どうにも喉が痛くて寝ていられなくなって目が覚めた。

身体も神経ももうぼろぼろだ。

人が何もできないことをいいことに、

苦しんでいるのを楽しむどころが、殺す気満々だ。

そうとなったら、生きてる間にせめて復讐がしたい。。

別に、精神薄弱者の戯言ととれるかもしれないが、

ああ、これ、いいや、これ、

寝ている間に、殺虫剤の臭いがした。

例えば、フマ\ラーのべ\ プのような・・・。

換気扇が、入れてもいないのにカタカタ鳴った。

それから暫くしてのことである。

★7月23日

ああ 辛い。空気清浄機が作動しっぱなし。

じじい～がじわじわと死んで行くのを楽しんでいるようだ。

わざと煙をよこして苦しんでいるのを楽しんでいるのだろう。

その中に、変なものを混ぜて、更に人を苦しめる。

そうして、日、一日、人が弱って行くのを楽しんでいるようだ。

現に、苦しんでいる姿を、子供に見せにやらせたり。

全く、手元がはっきりしない。力なくよく誤打をする。

やっぱり 死ぬんだろうな。

こうして、殺されて行くのだろうな。人知れず。

たかだかひ弱な死にかけのじじい～に、何もできないと思っているのだろう。

ただ、泣き寝入りするばかりに。

昔、教授だったじじいは、どうせ老い先短い命なら、好きなことやって死にたいと、

周りを殺して自分は長く生きるのだろう。

学術的に人類に貢献する者の為、虫けらどもは死んで当然とばかりに。

隣のおやじは、権利、権利とばかりに押し通し、自分の権利の為には、

じじい～の命を削って行く。

だから、呪うことにした。

自分を苦しめた者達に祟ることにした。

末代までも、彼らの血が受け継ぐ限り。

大きな不幸が降りかかる度、じじい～の恨みだと思ってくれればそれでいい。

★7月20日

どうしてだか分からないけど、どうしても頁が思い通りに並ばない。

しかも、閲覧が『ページの管理』に並んでいる順序とも違うんだよね。

まそんなわけで、あの小人は人間に比べたら身体能力が格段と上の様に思える。

自分の身体の半分程の高ささえも飛び上がり、腕力も体操選手並みの筋力と見た。

だったら、瓶の縁目がけて飛び上がり、手をかけるだけの跳躍力は充分あるわけで、

縁に手がかかりさえすれば、懸垂で身体を持ちあげらるには容易なわけで、

ことのほか、悩ましいのはあの団子虫。

はたして、あのしゃかしゃかと動く団子虫を取り押さえ、弄ぶ筋力を持ち合わせているものなのかな？

気にし出したらきりが無いし、自分にはそれを検証する能力がないので諦めるしかないのだが、

以前、聞いた話で、何とか症とかいう精神的障害があるということを思い出した。

それは、ビルの階数を無意識に数えたり、昇る階段の数を数えたり、という症状だ。

例えば、ガムや飴の箱なんかが、陳列棚でぐじゃぐじゃになっていようもなら、

綺麗に整頓しなければ気が治まらないとか。

少なからず、なにかを気にせずにはいられないということはあると思う。

多分、これは、生活に支障がきたさなければ病気ではないのだろうし、

こうした日本人によく見られる癖は、寧ろ、ものづくり日本を支えているのではないか
と思ったりもする。

★7月19日

タベ『借り暮らしのなんちゃら〜』と言うアニメ映画をテレビで見してみた。

世間の噂では、余りよい話を聞かない。

やはりここは見てみなければと、どんだけ『駄作』か見ることにした。

見てみて見終わった感想としては、自分にとっては、別に悪い印象はなかった。

それにしても、脳みそを使う作品だ。

ストーリーは単純なもので、物語的は何ら頭を使う要素は何一なく、

ただ映像の美しさを見るだけにしても、充分楽しめるだろうが、

絶えず付きまとう感覚に、自分はとても悩まされた。

小人と人間社会との大きさに於ける比率にである。

恐らく、ジブ\のことだから、全てぬかりなく検証済みとは思っただけけれども……。

だから余計に気になった。

昔のアニメの様ないい加減さであったなら、気にもとめなかったかもしれないが、

図柄が巧妙なだけに、全てにおいて、脳みそが現実世界に引きずり出して比較しようとするのだ。

また、恐らく家具や食器はおやじが造ったのであろうが、その道具はどうしたものかとか、

電気の配線はどうなっているんだろうとか、あの梯子段や渡り釘はどうして打ったのかとか、

火を起こした際の煙はどう処理しているのか、臭いは上がらないものなのだろうか、

その火であるが、炎が小さくても高温であるものかとか、

そんなこんなに意識が行って、なんだか頭が疲れたわい。

★7月18日

連載もいよいよ佳境。

終焉と突入していくのである。

それにつけても、ロシアには世に誇る文豪がおってよかったな。

正に、人類の宝だ。

翻訳した人も御苦労さん。ただただ敬服。

ほんと、芸術がなかったら、ただの『おそろしあ』でしかなかったであろうも。

★7月14日

『くるくる回る 目が回るこの世は因果なことばかり～♪』

と言わけで、岸田秀氏の唯幻論なるものを目にした。

へ～、ほ～、はあ、てな具合で、白人は黒人を奴隷化するに至ったとさ。

ドストエフスキーを読んでいると、他のロシアの文学もうそうであるが、

よく『ロシア的』とか『根っからのロシア人』といった風の表現が出てくる。

アバウトにまとめて、汎スラヴ主義とか土壌主義とかロシアメシアニズムとか言うらしいが、

これに似た心理が、当のヨーロッパでもあるということだ。

じゃ、日本は？ というと、政治や生活にまでは入り込んで来た外来の宗教と言えば、

ざっくりと、儒教（これは宗教か？）と仏教になるのかな？

儒教への復讐としては、家族制度の崩壊かな？

仏教への復讐としたら、檀家離れかな？

自由・平等の思想や、宗教の自由から起こったような気もするが、

仕方、まんまんとGHQの策に嵌った感も・・・。

そして今、リアル3次元に支配されてきた日本人が復讐している。

萌え～。

★7月13日

今書いているのは荒むばかりで、ちっとも楽しくない。

だからやる気が全然わいてこない。

何か、美しいもの、書きたいな。

★7月11日

今日、『白痴 下』を読み始めた。

なんとも面白い話だ。

余りの面白さに、ぎゅ～っと抱きしめてあげたいほどだ。

その一方で、今、自分が書いているものときたら……。

ほんと、やんなっちゃう。

自分の思いつく限りの卑劣漢だ。

こんな奴、できるものならぶん殴ってやりたい。

なんたって、『恨みの書』だからね。

★7月10日

と、思ったが、実は、今は、別なの書いてる。

それもこれも、一矢報いんがため。

個人的な根深い恨みから書き始めた『恨みの書』である。

めにものみせてくれえうわい。

★7月7日

結局、めじゃ〜への道はなかなか見いだせず、

悶々とした日々が空しくすぎてゆくだけで。

そんなくそ面白くない湿度の高い今日この頃、

ちょっと気分を変えて、詩を作ってみた。

『恋の哀れ』に載せてみた。

家人が夢で白の大蛇を見たと言う。

実は、『古物語』はシリーズもので、3巻からなる。(予定)

そんな訳で、ちゃんと完結しろやというお告げであろうか？

ってな口実つけて奮い立たせようと思ったりもしたりして。

★7月3日

今日、TOP頁でなんだか賞が貰えることを知った。

賞金は50万円だ。くりえ〜！

・・・・・・・・・・。

しかし、出す作品がない。

営利目的って、やばし、料金付けた時点でだめじゃない。

みすみし50万円、見逃しだあ〜。

今からじゃ、200頁以上もの作品なんて書けないしな・・・・・・・・、

と、思った今日この頃のがっかり話。

★7月1日

新作連載中のやつを、です・ます調に変えてみた。

まだ途中だけど、取り急ぎ。

語尾が間違っていたらゴメン。

★6月23日

出世頭の『麗しきかえる姫』がおかげさまで閲覧数が3000回を越えました。

だからと言って、3000人が読んでくれたわけではなく、

また、クリックしてくれたからって、はたして最後まで読んでくれたらどうか？

はたまた、偏見や意地の悪い見かた抜きで読んでくれたであろうか？

そして、他の作品も読んでみようかなと思ってくれた人はどれくらいいるのだろうか？

何につけ、多くの人が興味を持ってくれたことに違いなく、ここは素直に感謝します。

とは言え、自分にとっては他の作品も含め、沢山の人が読んでくれているとかれているが、

一般的にはどうなのだろう？

トップ頁に、『新着本』以外には自分の作品がのることが無いのだから、

自分が思っている程、全く大したことがないだろう。

それにしても、嬉しい。

★6月22日

村上春樹文学考察についてのHPを幾らか見てみた。

人気があるのも毛嫌いされるにも、読んでいてなんとなくではあるが合点がいく。

それにしても、春樹はハルキストなる盲目的且つ、熱烈なる信者がいて大変であるな・・・と思った。

色んな側面から分析されて。

仕方のないことであろうけれども。

★6月19日

罵倒壮年が春樹を語りよるので、『ノルウイの森上』を読んで見みた。

図書館で借りてきたのだが、『白痴上』のついでに借りてきた。

『悪霊』2014年版映像見終わるまで、その間読んでしまおうと思った。

と、読み始めたのだが、なんじゃ罰ゲームの様だ。

すっかりなドストエフスキー仕様脳で読むのだから、違和感がないわけがない。

全く持って、春樹には気の毒な条件である。

思えば、何故に、読もうとしなかったのか。

興味がなかったわけではないが、あの本の厚さに萎えてしまった。しかも、上下2巻もある。

買うほ程の情熱もなく、借りるには出張中でなかなか番が回ってこないと……。

で、そのうち記憶からすっかり消えていった。

読んでる最中の感想は……「早く『白痴』読みて〜。」で、ある。

文体に関して言えば、初めはもどかしさを覚えながらも、そのうち慣れ、自分は苦にはならなかった。

内容は……ふぁんたじ〜あっ？ 地に根の生えぬ浮き草のよう。

罪悪感も、怒りも、取り立てて感情の高ぶりといったものもない感じで、平坦に過ぎて行く。

変態えろ行動さえも、まるで普通のごとくにすらりと流されて行ってしまう。

多分、「読んだものが感じとれ」というものかなと解釈した。

個人的には、アレルギーもちの気管支の弱い自分としては、

人が食事してよ〜が何してよ〜がお構いなくすばすば煙草を吸いよる登場人物めらに嫌悪したが、

だいたい、学生運動の時代に大学行くと人はまだ少ないわけで、女子となるとことさらだろう。

ひッピーやら、すとりーきんぐやら、いかれた連中が湧いた頃だろうし。

だったらまともなわけがないじゃない。

と、自分なりの落ち着けどころを考えさせるものはあるなぁ〜と。

★6月17日

そういえば、夕べ寝しなに思い出したのだ。

子殺しと言え、故岡本太郎氏の母、岡本かの子女史を思い出す。

太郎氏本人の口が語ったことだが、自分の母親は余りにも執筆活動に夢中になりすぎて、

生れたばかりの妹の世話を疎かにしがちであったと。

ある日、母はうっかり妹をふんづけてしまった。そして妹は死んでしまった。と、

ネグレクトなんて言葉は最近の言葉で、その話を聞いた当初はなかったものだ。

そんな話を聞いて、なんとも酷い母親がいたものだと思いはしたが、

流石芸術一家の作家となれば、人とは違う生き物なのであろうと、勝手に納得してしまったものだ。

それが、今や、凡庸な人間である母親の身にも起こりえるものとなってしまった。

(以前よりあったが表面化されなかつただけかもしれないが)

するって〜と、そのカノコとは、岡本かの子女史のことなのかな？

★6月16日

おやじが云々、というわけで伊藤比呂美という詩人の詩を読んでみた。

便器がど〜のと、他にも子殺しであるとか、ショッキングな内容。

80年代のフェミニズムとやらならいたしかたなし。

なんでも、女性としてのレッテル、女流なんじゃらと言う、女性たるものはかくあるべきかなと、

男性の考える女性の打破、脱女性による所謂男性化ということらしい。

彼女に対する分析を何個か見てみた。

捻くれカエルから見たら「女性蔑視から脱出したい女性による女性蔑視」ってやつかな。

何に於いても段階といものを踏まえねばならないので、正に、いたしかたなし。

フェミニズムって、とっても肩意地張ってなんか苦しい。

そもそも、『便器』なんとい発想自体が、それこそ男性目線で、卑屈な感じだ。

今だったら、「そんな男すてっちまえよ、ばっかじゃね〜の」てな感じかな？

時代だよ、時代、そんな時代だったんだよ。

子殺しについては、正に今、もっと以前から、社会的事件として起こっているし、

母性に対する神話は、もはや、幻想として認知されつつありますね。

そういう意味で、こういう人達の表現は必要なのかなと考えさせられます。

女性の性や生命の誕生について、うんこだ、おしっこだと（それだけじゃないけど）

そんなタブーに実体験を通して、独自の感性と表現でもって詩っているわけだが

それも、また、表現の自由かなと。

彼女の評価は、革新的で斬新であると評価されるわけだが、

うんこだのおしっこだのと汚いとされる表現について、自分は魅力を感じない。

そして、男性目線での女性の表現についてである、自分はどうかと考えた場合、

自分の女性像は理想でしかなく、全く価値の無い虚構なのだろうかと脱力感。

こうでなくては今の時代評価されないのであるなら、自分は古いのだなと実感せざるおえないし、

と同時に、自分というものの存在もろとも否定されたようなものである。

つまり、詩人とは、『今を読む者』なのだなと実感させられたというお話。

★6月11日

「おめ～に聞いちゃいね～よ」てな具合で、けんもほろろに投げ捨てらるだろうけど。

それに、ドストエフスキー程であれば、既に自分なりの答えに向かっているわけで、

そもそも、彼らの言う『無神論者』と、多くの日本人がそうである『所謂無神論者』とは別なもので、

彼らにとって我々は、原始的宗教に留まる未発達の間人としてしか見てないんだろうな～と。

★6月10日

6月13日に映画『ノア』が公開される。

監督は、米国人でユダヤ教徒の家庭で育ち、自分は無神論者と言う

アロノフスキーが監督だそう。

ノアの箱舟は『旧約聖書：創世記』に載っている。

映画のストーリーをちょろ見したのだが、ちょろ見せんでも

墮落して邪悪化した人間を洪水で皆水に流して、

新たな世界を作りかえるというお話をもとにしているらしい。

基督教国家ではない日本にとっては、何とも辛辣で恐ろしい話である。

ただの古代人が作りあげた物語の域にあればいいものの、

これが神様の意思であるというから厄介なのだ。

聖書では、墮落した邪悪な人間とは基督を信じない者である。

そうすると、基督教徒者ではない殆どの日本人は、墮落した邪悪な人間なのだ。

つまり、日本に原爆を落とすことは当然の報いであると、これはあくまで例えばの話だが、

宗教的な倫理観でも簡単に正当化できてしまうのだなあと。

これは旧約の時代の選民思想での解釈であって・・・と願いたいものだがね。

ドストエフスキーを読んでいると、基督教者でさえも神の矛盾に苦しんでいるのが伺える。

『神が人間を造りたもうたのか、それとも、人間が神を造りたもうたのか』と。

基督教徒からみた我々東洋思想の概念を持つ所謂『無神論者』の多くは、

何の躊躇いもなく、『あんたらがこじつけた屁理屈だよ』と教えてやりたい欲求にかられるだろう。

★6月9日

ばきや貧で悪かったな。

おまけに拙くってさ。

★6月7日

告知通り新作の公開を開始してみた。

はてさてどうでありましょう？

公開中止の指導や批判の声が上がらんことを祈ります。

まあ、それは、ほれ、『〇〇人をぶっ殺せ！』とかが許されているんだもの、

自分の作品なんてどってことないでしょ・・・と願いたいものですがね。

★6月4日

終わった。

今日から公開してもよいのだが、土曜日からにした。

出し惜しみだ。

と言わけではないが、土曜からにした。

★6月1日

あとちょっとで終わる・・・

と思った途端、俄然、やる気が失せた。

★5月31日

ここまできたら 終わったも同然。

★5月30日

書きかけの物語がいよいよ終焉と向かった。

後、もうちょっと。

★5月29日

これじゃ～まるで伝道師ですか？

なんかカソリック教会の広報部員になった気分だ。

書きたいのは、そんなことじゃないのよ。

★5月28日

あれよあれよという間に、230頁目前です。

これって どうすんのよ？

ながなが、だらだらと、自由奔放に書いてしまった。

というのも、やっつけ仕事で、下書きも何もあったもんじゃない。

思い付きで書いてます。すごく反省してます。

本当に、こんなはずじゃなかったのに・・・と。

★5月24日

どうしよ・・・書きかけの物語、悠に200頁は超えそうだ。

ほとほと困ったとほほほほっ。

何かだらけて前半・後半つじつまがあわなくなっているし、

何処へ行く・・・テーマが何か変わってきてる。

迷走中だぁ。

★5月20日

じじい～は作るだけ作ってほったらかしじゃの～、と以前言われた。

しかして、作った後になにかすることってあるのかな？

それはそうと、全く持って困った事態が発生した。

益々、困窮を極めて行く。

書きかけの物語だが、とっくにお手上げ状態。

長くなっちゃって・・・・本当、想定外だ。

心の底より、誰か、考証してほしいと願う。

時代背景とか、教理とか、絡ませて書くってのは随分と苦痛なものだな。

ああ、正に地獄だ。

こんなはずじゃなかったのに・・・・。

★5月19日

カラマーゾフの兄弟、亀山訳を読み終え、ドラマも遂に最終回を見終えた。

何か寂し感じがする。今風に言えば『からろす』。

そんなことを知合いに言ったら、原訳の本も読んでみなと言われた。

それには、完結の後の話も載っているとのこと。

めんどくさいと言ってみたものの、以前、何処かの誰かが書いた感想で、

亀山氏訳の本は、読みやすいが原作に沿った訳をしていない、てなことがあった。

それで、もう一度、翻訳の比較をするPHをぐぐってみた。

ああ・・・・なるほろ、と言わけて、

原氏訳の本、読んで見ようかの～という気になった。

★5月15日

全く、とんだ困難な落とし穴だあ。ど'つぽにはまった・・・・。

それもこれもちょっとした思い付きで、ちゃっちゃと終わらすつもりであったのに。

調べれば調べるほど、頭が混乱というか、物語がめちゃくちゃに・・・・。

しかし、ヨーロッパの歴史は複雑で、宗教となると、時空・空間を越えると、

宗教、宗派、など色々と、最早お手上げ。

それは、ほれ、物語だから・・・と、知識がないとファンタジーも逃れるしかなく。

なんともなさない。

★5月14日

思いのほか、書きかけの物語が長くなり、そして、とんでもないことに。

もはや、收拾がつかん状態。

こんなことなら、前もって下準備をしておくべきであった。

今更ながら、資料を集めり始末。

結果、大幅な修正が・・・・・・・・・・。

★5月10日

実は、とある記事から『三田誠広の小説教室』を読んでいるのだ。

読むほどに、ああ自分は違うのだなと思い知らされる。

自暴自棄にもなるが、分かりやすい文章で読んでいて面白い。

自分のイメージとしては、理想だが、

『信念を持っている者が勝』ていうのがいいな。

★5月9日

大人の事情 っての？

最近、つくづく自分は世渡りベタなのだなと思う。

知合いは、プロになれんじゃね～とか言われて、自分も考えてみた。

が、しかし、ああ、自分にはその道はないのだな・・・と確信した。

そもそもが、立ち位置にすら立っていないわけで、その大人の事情っての、

無難な才能であるなら、後ろ盾がいなければやっぱ駄目なんだあと思ったり。

背後の組織も才能のうちだ。

どの世界だってそうだ。

例えば、ピアノも、絵画も、ゴルフだってそう。

世に出なくても、それが全てではないのだから。

ああ、そうだ。そうだ。何時も、そうして目的を見失う。

自分にとって何が大切か、っていうことを。

★5月7日

とある韓国客船沈没事故に関する報道で、

フェリー会社の経営をしている宗教団体についてご紹介をしていた。

どんな宗教団体か、どんな教理かを紹介していたが、愕然とした。

「人は懺悔をしなくても許される」とかなんとかで。

殆ど意味不明だが、先日、ローマ法王が苦言を呈しておられた意味が分かった。

思えば、日本で問題を起こす基督教系の新興宗教は、韓国由来が多い。

その多くが、教祖様が日本人美女若しくは童女を誑かしハーレムを作っている。

若しくは、無給で壺やら何やら怪しげな物を売らす。

基督教の教理を少しでも学んだ者からすれば、有りえない行為だ。

韓国は基督教徒が多いと聞く。それに比べて、日本は少ない。

それを人によっては進歩的、または欧米化された先進国と表現する人もいる。

思えば基督教は、土地土地の自然信仰・先祖崇拜を制し、その上に君臨してきた。

その法則から言えば、自然信仰と先祖崇拜で色濃く、しかも多神教ときたら、

日本は野蛮で原始的な宗教感であるとみられても仕方ないかも。

だが、数字では現されないが、信者ではないが基督教の教え・歴史は知っている、

という人数になるとかなりの数になるのではないだろうか？

西欧文化を理解する上では、知っていなければいけない必須条件だからね。

ただ、信者となると、別に入信する必要性はあまり感じない。

自分は、日本の土地で人々の中で培われた独自の宗教が、必ずしも基督教に劣っているとは思わない。

寧ろ、東洋思想の方が、精神については進んでいる様に思われるし、自分はこっちの方が楽だ。

話は逸れたが、今、正に今、書きかけの物語であるが、

懺悔話を書いている。勿論、テーマは懺悔ではないが。

そのせいもあって、懺悔を否定する基督教って有り得るのだろうか？

えらく驚かされた。

★5月2日

今書きかけの物語って、何かたらたら長くなっちゃったなあ。

新訳のサマリア人のたとえを パクってみたのだが、

いや、引用してみたのだが・・・・・・こうゆうことは難しい。

隣人愛とは何かについて語っているのだが、これは二段構えの解釈があるらしい。

瀕死の人を助ける愛⇒皆が見て見ぬふりこいていたところをサマリア人が助ける

瀕死の人を助けた人に助けをする愛⇒サマリア人が、この人をよくなるまで介護してくれるように

とのお願いに応える。

でも、サマリア人は、宿屋のおやじにお金を渡してんだよね。

これでよくなるまで面倒みてくれって。

無償ではないのだが、これを隣人愛に含めていいのかな？

ま、これはほれこそこそ話の余談なので……。

初め、死にかけの娘を助けただけを言及したが、多分これは

これだけでは駄目なんだよなあ～と思ったので、

更に、第三者による助けを書きたしてみた。

そんな感じで、長々と書くと荒がでてしまうのだあ～

と、つくづく後悔。

★5月1日

よっ！今日はメーデーだな。

と言うわけで、ご解禁～！してみた。

義理も果たしたことだし……ね。

★4月28日

やばし。

書きかけの物語であるが、とんだこんなで長い。

既に100頁は超えてしまったのだが、まだまだ続くぞ。

細かく書きすぎた。

★4月25日

禁止用語とか差別用語とか面倒くさい。

今書きかけの物語だが、今更ながらに後悔する。

どだい異文化な世界を描こうってのが無理なはなしで、

といおうか、そもそもはそんな大層ものにする気もなかった訳で、

かろっときい〜な気分で書き始めたのだが・・・・・・・・。

登場人物の設定がやばかった。

たいして意図的なものは何度も言うがなかったのものを、

坊主やらジプシーやらが出来てきてしまったせいで、ややこしくなった。

しかも登場させてしまったからにはなんぞや発言させねばならないし。

おかげで説教くさくなっちゃった。

そのせいであろうか。

色々と多方面で検閲にかかっているのか、編集が難航。

更新するのに時間がかかったり、強制がかかったり。

なかなか進まん。

まあなんだ。基督教的思考というものを織り込んで、

読む人に理解してもらえるか疑問。

それ以前に、表現しきれているのか・・・・・・・・と。

★4月21日

今書きかけの作品が、なかなか進まない。

ひとえに、言い回しが面倒くさい。

人種差別になるのかなと考えつつ、差別用語ではないのかと考えたり、

有色人種の自分が、こんな物語書くのってどうなんだろうと思った。

まあ、人種差別かどうかは分からないけど、

知合いが、韓国の沈没船の船長のことで疑問をもておった。

自分の命を先ず確保してこそその救助ではと。

船長だからと死を強要するのは可笑しいと。

確かに、船長だからと言って死を強要するのはおかしいことだ。

しかし、職務を全うせずに逃げるのは言語道断だ。

そして、自分は、「韓国には武士道がないからだ」と言った。

これは、侮蔑になることばなのだろうか？

実際、西洋に於いては『騎士道』日本に於いては『武士道』といった

そうした精神が、はたして存在するのだろうか？

歴史的に見ても、日本の武士に当たる存在はなかったらしい。

ニュースや、人の話によると、どうも韓国人と日本人は違う精神を持っているように思われる。

同じ様な顔をして、同じ思想を共有しながらも、

長い長い年月の中で、全く違う文化を発展させてきたように感じられる。

とわ言うものの、果たして自分だったらと考えてみる。

自分だったら、適切な行動を、瞬時にとることができるであろうか？

やはり、それは、つまらんことだが、日々の訓練・点検・確認と

体感的に叩きこみ、心がけをわすれぬことに尽きるだろう。

つまりは日々の鍛錬だ。

それは、理屈ではないのだろう。

実際、助かった人の話では、救助に当たった人もいたと言う。

武士のいない国でも、鍛錬された精神の持ち主がいるということだ。

それは、例えば、99%を見て1%を見ず決めつけてしまったことになる。

つまり、確率的には見れば間違いだという範囲ではないだろうが、

個々を見たとしたら、間違っているといことになるってしまうのだ。

要は、正しくは、

『あの船長には武士道精神がない』

と言うべきであったのかな？

まあ、それに続く言葉を考えるとしたら、

「韓国に武士いね〜し」と…………。

★4月17日

不審な動向は鎮まりを見せた。

特にお達しがないので、多分、規定に触れるところはなかったであろう。

ひとまず、ほっ。

★4月15日

なんだか閲覧数を見て動向がおかしい。

検閲でしょうか？

じじい御用達のサービスが閉鎖され、新しいサービスへ移行するも、

老害とうしろ指を指され、うっとうしいがられ、やむなく脱退。

ここに於いても、自覚のないまま不適切な表現がしっかかって、

追放の憂き目を見たら、あたしゃいったいどこへ行ったらいいのだろう。

協調性のないじじいが悪いのか……。

知らず知らずに、なんかやらかしたのであろうか？

★4月14日

連載が終わった。

どうも入りがいまいち。

やはり、じじいの話にゃ興味ないのだろうな。

ふと思ったのだが、連載機能を素直に使った方がよいのでは？

配信度にトップの新着に載るので、人目には付きやすいのでは？

有料であるのも、敷居を上げている要因ではなかろうか？

実質0円で、完読できるのだが……。

有料となると、先はお金払わなきゃ読めない訳で、

どうせ払う気ない本、途中まで読んでも意味ないしね。

初めから無料にしておけば、ちょん切れる心配なしに心置きなく読めるわけで。

まあ、自分的には今更感。

連作機能使う面倒臭そうだし、無料にするのもなんだかなあ〜。

そろそろ、このシステムに慣れてくれたらどうか・・・。

人から見たら、ほんと、ミクロ並みのこだわりなんだけどね。

営業能力とか、自己PRとか、自分プロデュース能力全くなしだよな。

人から見たら、読んでもらう気あんのかお！ ってことだよな。

だったらそれでもいいんじゃない？ とか思っちゃう自分なんだよな。

きっと、こんなんだから駄目なんだろうな・・・。

★4月13日

人はそういうわけで、知らない人の苦勞話に涙したり、

災害地には外国であろうが募金したり、

轢かれそうな人をみたら助けたり、

我が子を守り育てたりと、

人は、人を愛することを、日常茶飯事、それは無意識のうちに、

やってのけているのだろう。

また、それと同時に、人を恨んだり、妬んだり、悪口を言ったりもしているけど。

見ず知らずの人の窮地には、何かをしてあげたいと思うのに、

嫌いな奴には、ざあみろとあざけ笑ったりもするように。

そして、特定の人を、特別に愛することは、

至上の喜びであり、また、苦しみであたったりもする。

はてさて、つまるところ、なんじゃか分からない。

はげちゃびんのおやじが持ち出してきた、カミユの言葉。

「一人の人間を愛するということはたいしたことではないこと」

「愛というものは決してそれ自らの表現を見出しえるほどに力強いものではない」

カミユは何を言わんとしているのだろうか？

また、はげおやじは、どうしてそんな文章持ち出してきたのだろうか？と・・・。

『愛』なんて、漠然として不確かで、そして複雑で、全くもって掴みどころがない。

分析なんてするもんじゃない。こと、凡人に於いてはね。

と言いつつも、『愛』とは、

感情を指しているのだろうか？

それとも、行動を指しているのだろうか・・・ね？

★4月11日

制作するに当たって、愛について考えてみたわけだが、

読み返して見ると、つっこみどころ満載であることに気がつく。

例えば、エロスは抑制できない感情を指しているわけではない。

だったらアガペーは抑制できるのかと言えば、これも抑制はできないだろう。

考え始めると、長くなるのでやめるけど、そこはほれカエル脳。

そ～ゆ～ことにしておいてくれえ。

ふっと疑問に思ったのだが、母の愛はやはり自分の子に対して限定されるもので、

隣の子、見知らぬ子、誰に対しても無償の愛が注がれるかといえば、はたしてどうだろうか？

もしも、母の愛が『アガペー』であるとするならば、

特定した男女間での無償の愛も『アガペー』といってよいことになる。

そうしてしまった場合、無差別的な万人に対する『人類愛』としての要素が欠落してしまふのでは？

どうしてくれんの？

カエルの脳みそじゃ理解不能ではないの。

★4月10日その2

最後に、アガペーについて、

男女間においてアガペーを確立させた とうかつに書きこんじゃってるけど、そんなことってありえるの？ と冷静になって考えてみた。

まずアガペーであるが、キリスト教的には『神の愛』。

見返りを要求しない『無償の愛』。

具体的なものに置き換えるとしたら、母が子に対する愛。

そう教えられたように記憶する。

それは、自分の身を犠牲にしても厭わない献身的な奉仕。

例えば、困った人に同情してその時の持ち金全部渡すとか、
電車で轢かれそうな人を、危険を顧みず飛び込み助けるとか。

どこの誰とも知れない人の為に、とっさに起こした行動。

多分、目の前の人A子さんでもB男君でも同じ行動をとったであろう。

では、文学に於いては？

特定の男女間に於けるアガペーとは？

例えば、相手の為に自分を犠牲にしてまでも助けたいと思うだろう。

それは、見返りを期待するものではなく、ただ一途に

この人の為になりたいという自分の強い欲求が引き起こしたのであれば、

それは『無償の愛』と言えるだろう。

しかし、その行動を、A子さんにもB太君にも誰にでもできうるのだろうか？

できるのであればアガペーであろうが、

特定の人に対してのみの衝動であるなら、これはアガペーとは言えないのでは？

更に、そういった行動をとるに至る潜在的動機として、

愛されたい、せめて少しでも気を引きたいとか、ならば他の人とは違うと思ってほしいとか、

そんな思いはないだろうか？

そうであるなら、愛情と言う見返りを求めていることになってしまう。

物語では、あからさまであれ、潜在的であれ、叶う、叶わないにせよ、
愛情の受け渡しがある。

そして、それは、特定の人に対しての行動となる。

これが仮に、A子さんにもCさんにもする行動であれば、
神のごとき大きな愛とはならず、寧ろ『不誠実』とみなされてしまうのだ。

崇高なはずのアガペーは、軽蔑されるべき『プラトンの愛』となってしまうのだ。

博愛主義者か軽薄者か。

むむむむむ……。

つまり、男女間に『完全たる無償の愛』を成立させるとしたら、

それは、物語上、詰まらないかも。

まあ、他に考えられるとしたら、

その人が幸せになる道をつくるとか。

例えば、貧乏芸術家を経済的精神的に支え、大芸術家となる為に身をひくとか。

捨てられるのではなく、身を引く場合に於いて、

相手が幸せになる方法を考える、それは無償の行動と言えると思う。

しかし、身を引くということは、どういうことか？

相手の思考・環境等と自分の能力を照らし、

どうしても追いつかない、理解できない、合わせられない

といった自分に不安要素があるから起こる行動ではないのか？

相手に恥をかかせるは、自分が恥をかくことでもあるし

自分に自信があれば、若しくは心臓に毛が生えていれば、身をひくまい。

しかしなんですか～。

そんなことまで神経使わねばならないことなのかの～？

★4月10日

気が付けば、日またいでおった。

そんなわけで、そのエロスであるが、ならばその愛は、『プラトンの愛』かな？

もともとのプラトンの愛は、同性間での特別な感情を想定したものらしいが。

大抵、恋愛の順序として、精神的な結びつき⇒肉体の結びつきとなるわけだが、

この肉体関係を持つ前に、何らかの障害又は別離が生じた場合、

必ずしも、プラトンの愛、所謂『純愛』となるものなのかな？

例えば、相手の気を引きたいと思うと同時に、肉体への欲求も同じ比重で持ちえた場合、

だからと言って、互いの思いの確認と同時に肉体を持つことは、ないこともないが、

やはり、その場合に於いても、一般的には、時間的なずれはあるだろう。

つまり、肉体関係を前提として、精神の確認をするということ。

精神的愛情の確認をした後、その時間差の中で、何らかのイベントが生じ、

肉体関係までに至らなかった場合、この愛を、果たして『プラトンの愛』と言えようか？

例えば、色々な事情により、肉体関係を断念せざるおえない状況下で

それでも、その心の動向を抑えることができない場合、これは『プラトンの愛』と言え

るのか

？

精神が肉慾に勝れば、純愛なのか？

そして、肉慾に至るまでの余裕がない場合は？

将来は慾情を持ちうる可能性があるかもしれないが、今はそれどころではない。

相手が余りにも衝撃的で、自分の感情が衝撃的で、その感情だけで一杯一杯な状態。

多分、この状態のままであれば、純愛と言ってよいと思う。

そんなことまで考えなければいけないとなると面倒くさいし、

頭がこんがらってきってしまう。

多分、自分は、『愛』といっても、その精神は多彩であり、

一色単には表現できないものだと思う。

★4月8日

ちょっとした知合いのおやじが、女の子を口説いていた。

カミュの文章を持ち出しちゃったりして。

自分が思春期の頃、友人が書きだしてくれた章だと言って。

自分も、読んで見た。

正直、よく分からん。ので、何度か読み返してみた。

その一節だけで、話の内容が見えないだけに、やはり分からない。

ただ、分かったことは『愛』について語っていること。

しかし、その愛は、どの様な愛なのか？

今書いている作品であるが、ろまん派的であるからには、

やはり、お題は『愛』であろう。

それは、エロスなのかアガペーなのか、とても悩ましい。

こと文学の世界となると、必ずしも男女の愛がエロスであるとは単純には言い切れない。

何故なら、特定された男女の間に、無償の愛を確立させるからである。

しかし、その愛は、運命的で自分ではコントロールできない衝動的感情であることに違
いなく

、

そうであるなら、やはりその愛は、エロスなのであろう。

その文章を見出した感性の素晴らしさ。

そして、その文章の美しさを、そのおやじは胸熱く語っていたが、

自分にとっては、おめえの感性も文章力もどだい敵うわけがなかろうも。

おめえの書くもんなんか、ちゃんちゃらおかしくて何の価値もありやせんわ。

と、言われているかのようにであった。いや、現実言っていたのだろう。

確かにそうだ。

カミュのような複雑で鋭い感性など持ち合わせていようはずもなく、

巧みな文章など書けようはずもなく、分かりきったことではあるが、

自分は否定されたのだ。

才のある者は、その感性に、その文章にすでに早い時期から持ち合わせていると。
どんなにあがこうが、駄目な奴は駄目なのだと。

★4月5日

今書いている作品だが・・・疲れる。
文章長いし、まどっこしのなんのって、
書いてて分かんなくなってくるのなんなんのって。
ろ～まん派で攻めてみた。
単なる独断たるイメージだが。

★4月3日

昨日、アイコンを変えてみた。
だからって、激変したわけじゃないけど。
ちょっと変わっただけだ。
連載中の作品を読んでいて、あることに気が付いた。
またやっちゃったかと反省。
登場人物の年齢が合わない。
バブル時代に高校生って、あ～った、だったら今何歳？
と言う訳で、訂正した。

★4月1日

今連載中の作品だが、桜の咲く前に連載が完結つもりでいたが、
桜の方が先になってしまった。
未だ手直ししているが。

★3月30日

好きな曲は沢山あるし、美しいと思う曲も山ほどあるけど、

ラフマーニナフの「ピアノコンツェルト NO2」を聞いていて、

つくづく自分はこの曲が好きなのだと思う。

心の底から美しいと思う。

どうして、このような旋律を生み出せ得たのだろうかと思うほどに。

自分は本当は露西亜人ではないのかしらんと思わず程の郷愁が湧いてくる。

心の奥底の潜在する底の底から。

露西亜の森が無性に恋しく、帰りたいという気にさせられるのだ。

あそこへ、あの風、土の臭い、日の光、肌が、感覚が求めるのだ。

露西亜なんてそれ程身近でもなく、それ程知っているわけでもないのに。

この血に、露西亜人の血など流れてようはずもないのだが。

勿論、一時の感傷なのだろうけど。

★3月29日

暫くなり潜めておったのも他でもない。

何を隠そう、身を潜めておる間にすごい技を編み出したのだ。

それと言うのも、P C画面での長い文章を読みこなすのは至難の業。

これが小説となると、完読するのは無理な話で、

更に、長編となるともはや読破は不可能。

その主となる要因には、脳みそが可哀そうだから㊦、不慣れ㊦。

苦勞する要因の主たるものは、脳みそがカエルだから㊦。

そんなことはさて置き、そんな貧弱な脳みそでも何とかならぬものか？

他に上げられる難儀な要素として、何処を読んでいるか分からなくなる。

行移動が旨く出来ない。スクロールの際、視点が迷宮入り。といったものであろうか。

そこで編み出したのが、これである。

まじ、画面のサイドを縮める。

これで大方の難は解消される。

スクロールの際は、「」・行間で区切るか、範囲設定などして目印をつけておく。

※サイドを縮めた際、スクロールされる場合は、潔く諦めよう。

ん？

そんなの常識？

あっ、そ。

★3月27日

最近思うところがあって、古い映画やカラマーザフの兄弟の朗読を聞いている。

色々探して、フィルムは見つけたのだが、露西亜制作ドラマ全12回で字幕なし。

朗読を頭に入れながら、後は想像の世界で見ている。

そんなことをしながら、ふっと考えた。

自分の書くものは古いのではないかと。

言わば、無声映画の時代で止まっている様な。

そいえば、最近映画など見たことがない。

見たいと思わない訳でもないが、わざわざお金を出して出かけるまでの情熱が湧かない。

そんな御身分でないということもあるのだが。

映画を見てて思ったのだが、真実とはなんであるかと。

今まで隠されていたものを、暴くことが真実か？

例えば、女と言う女、女優達の服を脱がすことが真実か？

例えば、男性と女性が淫らに絡み合うのを見せることが真実か？

人間の生態を、正体を露わにすることに専念し、それは益々過激に。

このままでは、糞尿シーンとてそう遠いことではないだろうと訝しげに思っていたら、

自分がそこそこ若い時分に、遂にそのシーンは現れた。

見た後でつくづく思うのだ。

あの数々の刺激的な露出は、必要あるのかと。

今や名のある女優達は、意味もなく脱ぐことは拒否していると聞いたことがあるが。

表現に於いても、内容においても真実の方向性が自分の求めるものは違っている様に思われる。

例えば、聖域を暴くことが真実であるのか？

キリストは本当は誰の子でどうして生を受けたのか、

例えば、聖母マリアが、何時・何処で・いかにしてローマ兵達に犯されたのか、

それを暴くことが真実と言うのだろうか？

マリアの処女性を破壊することが真実なのか？

そうした種の人々は、そこにどんな真実を求めているのだろうか？

本当に意味のあることと思ひ、ある志を持って行っているのでしょうか？

デ\ズニーに、とある少女から文が届いたというニュースを読んだ。

自分の様なデブな子のプリンセス物語をつくって欲しいというものだ。

表現上のリアリティーとは、どこまで追及されるものなのか？

マリーアントアネットが断頭台に立った時の女王陛下たる毅然とした姿を、

人々は忘れてしまったのであろうか？

勿論、今のこの世で立会った者など存在していないが。

平民どもが、いかに王女を誹謗中傷で貶め様が、どんな貧しい服を着せようが、

女王としての風格も誇りも剥がすことはできなかった。

豚の様にぶくぶくと醜く太ったプリンセスに、そこまでの覚悟はできようか？

例えば、女王陛下を尚も慾に肥えた平民の前に膝まつかせ、その誇りさえも剥ぎ取ると言うのなら、

自分は無声映画の世界でいいやと思うのだ。

自分は美しいものを見ていたい。

神秘の世界を漂っていたい。

現実を見ないロマンティストともいえよう。

そんな時代はとうの昔に去ってしまったといのに。

★3月23日

ここ数日というものの、死臭に悩まされた。

昨日、嫁の実家の爺さんが亡くなったと知らせがあった。

大往生だ。

でも何で？ 自分には全く関係のない人。

寧ろ、袖触るる縁の方が純粹でいられる。

よせばいいのに、昨日、『火垂るの墓』（ジ\リ版）を見た。

案の定、ぐじゅぐじゅ。何とも重い思い。

終戦を挟んだほんの数カ月か何週間かの出来事なのだな。

それは、さほど遠くもないつい昔の話。

人権という考え方はほんの最近のことなのだとつくづく思う。

それでも、子供は死んでいる。

病気でなくともく、事故でなくとも、この社会の中で死んでいる。

殺されている、と言ってもいいくらいに。

亡くなった爺さんも、戦争を生き抜いたうちの一人だ。

運が良かったと言えるべきなのだろうか？

貪百姓から苦勞して今の財をなしたと聞いた。

取巻く人間模様は別として、その努力は尊敬する。

こうして、また一人、貧しかった日本を知る人が消えて行く。

そして、また一層、戦争の記憶も貧困も遠いことになって行くのだな。

万全な世など、何時までも経ってもないのだろうね。

常に誰かが犠牲になるよう、この世はできているとしか思えない。

何時の時代に於いても。

誰でも、何歳でも、人が死ぬのは憂鬱なことだ。

★3月19日

結局、頁の移動に失敗。

全然改善されてない。

どゆこと？

そんな訳で、気分が落ち着かないまま、新作にとりくんでいる。

過去の作品をなおざりにして・・・・・・。

修正したいが、なんかそんな気になれなくて。

そんな今日この頃。

★3月16日

そんなわけで、何となしか死臭に付きまわとられて憂鬱な気分。

新作を書き始めようか、それとも書いたものを修正しようか。

頁の移動ができる様になった気がする。

頁の整理をするのもいいかも。

ああ～自分は何処まで行っても底抜けの凡人代表。

自分が追いかけているのは、過ぎ去った幻想の陽炎法師。

ただ美しいだけの遺物でしかないのだろう。

★3月15日

最近、震災関連の話が鬱陶しくなった。

多分、そんなことを公言すると炎上ものなんだろうな・・・・・・と思いつつも。

自分は大した被害は受けてはいないが、何だろう？

とても重い気分にさせられる。

もう沢山だ！ と避けたくなる。

どうしてだろう？

哀しみを希望に変えて、どん底から這い上がる姿を見て、

頑張るその姿から、背けたくなる。

多分、後ろめたいのだ。

なんでもない癖に頑張れない自分が後ろめたいのだ。

それに空々しいのだ。

被災者の為の企画が、とても空々しく思えるのだ。

佐村\内氏と何が違うのだろうと。

よっぽど、自分は捻くれた人間なのだ。

ニュースでのもっともらしい報道にも嫌気がさす。

特に首都圏の言動であるが、もしも南海トラフトが来たら？ と大袈裟に大騒ぎして、

結局、自分たちのことか・・・と思ってしまう。

日本の心臓であり、頭脳であり、全てであり、それを支える大事な人間達だ。

自分達は東北の田舎もんらが被害を受けるのとは訳が違うんだと言わんばかりに。

現実、確かに都心を揺るがす大地震が来たら、想像絶する大騒動であるには間違いはないが。

被災者の写真や物がまだまだ引き取られずに沢山あると言う。

未だ、行く気になれない人もいるのではないだろうか？

全てが意味のない物と、目を背けている人もいるのではないだろうか？

今はそうかもしれないが、将来はそうとは限らない。

取敢えず、今はそっとしておいて欲しいのかもしれない。

自分は何のダメージも受けていないし、受ける理由がないはずと思っているが、

やはり、それだけ我々日本に生きている人間にとっては、大きな悲劇であったのだろう。

空々しく思える芸能人等の言動も、そうせざるおえない心情が、本当にあるのかもしれない。

「もしもここに～」と言う言葉も、警鐘なのだろう。

決して他人事でないのだよと。

しかし、今は、全てが鬱陶しく、空々しく思えてしまうのだ。

★3月13日

ああ これは？

東日本大震災の特集で、被災地の特集が報道されている。

『復元納棺師』という話を知った。

ご遺体に、生前の表情に戻すのだと言う。

つまり、『死化粧』を施すのだ。仕事はそれだけじゃないが。

正直、そんな報道が幾度かあったことを知らないでいた。

時期も時期的に、勘違いされているかもしれない。

自分が書いた話は、復元納棺師の話ではないよ。

全く違う動機から組み立てたのだけれど。

出だしの閲覧数は、そうした期待もあったのかな？

★3月11日 あれから3年経ってのね。

昨夜から何じゃアクセス難航。そして、遂に、アクセス難民。

異常大量苦情発生で、遂に、カエルの頁が閉鎖されたのか・・・と。

・・・・・・またかお。

何にせよ、強制脱退させられんでヨタア帰。

それはそうと、ここ数日間ではっきり分かったことは、

やはり、この閲覧数は組織がッかど・・・確信をもった。

お疲れ～。

それにしても、作品ごとのばらつきは何故？

均等ではないところが巧妙なのか？

そんな個人的なことは別として、最近、世界が不穏すぎ。

バランスが崩れてきているみたいだが。

これが、新しい価値観の推移への過程というものなのかな？

ひょっとして、これは、新時代が起こる前触れなのだろうか？

日本は、毅然と賢明な道を行ってほしいと願うのだ。

★3月9日

やはり、連載中の作品は、期待はずれだったようだ。

お客さんが途絶えてしまった。

この作品を書いていて、不思議な現象に見舞われた。

なんだろう？これが人間の脳の力なのか？

ありもしない言葉がインプットされるという現象が・・・。

文章を書いていて、ふっとある疑いが起こった。

この描写は、読んだことがある。

つまりは、誰かが書いた文章に似ているのではないのか？と。

これって、盗作？

と言う訳で、確認して見た。

無い。ない。アル・・・・・ナイ。

恐らく、考え得るには、

読んで、共感していくうちに、自分が勝手に付け足してしまった・・・ト。

それとも、別の作品で読んだ一節であったのかな？

どうにも、今となっては確認しようがないが。

聞き間違い、見間違い、妄想、妄言・・・・。

いずれにせよ、これが想像力のなせる業なのか？

いや、カエルの場合は、脳の障害でしょ。

★3月6日

ついに、お客人の足が途絶えた。

やっぱりね。

意とせぬ内容だったようだ。

かえる姫の話を読み返してみた。

やはり、ところどころの文章が変。

長い話なので読み返すの面倒くさいとかで放置していたが、

忘れた頃に読み返しみると、突然場面が変わってたり、文章が単調だったり荒が目立つ。

誤字脱字とか未だにあるし。

でも面倒くさいから後回し。

こんな時、プロは担当さんが指摘してくれたりするんだろうなと思ってみたり……。

誤字脱字は、更正さんが黙ってても直してくれてるんだろうなと思ってみたり……。

はあ～。

そんな魔法はないかしらん……。

★3月4日

今日は町をさ迷い歩き疲れた。

クリミア半島は一樣落ち着いたのかな？

パラリンピックままだけど……。

複雑だよね。

世界史で習ったクリミア半島南下政策。

キエフはロシアから独立したけど、露西亜古都のイメージあるしね。

行ってみたいと思っているが……。

日本は、干渉しないにつきるね。

確か以前に、EU派大統領だか候補だかの人、服毒暗殺計画ありましたね。

結構なイケメンぶりがぶつぶつ顔にされちゃったという……恐ろしや。

ソ連崩壊と言えども、KGB残党が親だまでは……クワバラクワバラ。

茶を濁してフェイドアウトするに尽きると思い気や、そうも言えないお国の事情が。

これでプーチンさんが日本に暗黙の配慮をしてくれたらいいんだけどね。

兎に角、大事にならないよう身内同士で治まることを祈ります。

★3月3日 その2

アナと雪の女王とかい言うのがアカデミー賞とった。

と言う訳で、早速、宣伝動画見てみた。

・・・・・・・・・・アル？

アンデルセンの雪の女王じゃないのね。

そもそも、アナってだれ？

そんなこんなで、ついでに『雪の女王』Снежная королева』を見た。

これこれ、多分これ。

ソ連時代のアニメだ。感動！

字幕ないの？ てな感じで、殆ど分からず、想像の世界だが。

冒頭の下りがない・・・女王様が自分で鏡わちゃってるけど？

細かいことはいいのだ。

なんだかんだ言たって、やはり長い歴史で培われたロシア芸術を感じる。

デズニーに問わずアメリカアニメは、じじい～がおやじだった頃から、

あのくねりんちょな無駄な動きがどうも受け付けなかった。

娯楽性を求めるならディズニーの『アナちゃら～』はおもしろそう。

だけど、自分の中では、やっぱりこっちい～『Снежная королева』。

それにしても、冒頭の下りがないのが残念だ。

あれじゃ、雪の女王様ったらしよたコンかおト、ヒール役かおト・・・誤解が生じる。

なんか物語の土台がずぼっと・・・ブツブツ。

因みに、Снежная королева 日本語新訳付きは、ジ\リの森にあるらしい。

ただではころばんところが、ちゃっかりしてら。

★3月3日今日はひな祭り

すごい。素直にありがとう！

新作発表して早くも3けた超え。

・・・・・・・・・・なんで？

一抹の不安が・・・・・・・・。

ひょっとして、タイトルとか、作品紹介からとか、

どんなもんじゃろと想像が妄想を呼び起こし、実力以上に期待されてしまった・・・トカ。

ただのじじいの話なんだけど・・・しかも、辛気臭い。

今回は、流石に「童話・絵本」カテは無理だと思う。

不安を抱きつつも、最後まで見捨てられずに読んでくれたら嬉しいな。

★2月28日

めりしい～ぼくちゃん（死ノ）。

コメントもらって、ちょっとびびった。

今回も良い人でほっ。

そんな中、煙草について考えてみた。

はっきり言って自分は嫌煙家だ。

みごとにまでの、嫌煙家だ。

体質的に受け付けないのだ。

今、世の中は、禁煙へと動いておる。

心の奥底から やっほ～！

しかし、ふっと考えた。

こうして、また一つ、文化が消えるのだな・・・と。

身体にわるしという理由で、ハリウッドから喫煙シーンが消えた。

憧れのカサブランカ、ハンフリー・ボガードは過去へとなりけり。

日本でもそうだ。

遂最近では、ジ\リ「風立ちぬ」で喫煙シーンが叩かれた。

まして、病床の彼女の前で喫煙するとはなにごとぞ！ と。

しかし、嘗ての日本はそうだった。

あたりかまわず、どこもでも吸った。

当たり前田のクラッカーのごとく吸いよった。

うちの爺さんもそうだ。

もとは吸わなかったのだが、娘が勤労で煙草工場で働かされ、

お駄賃として煙草を貰って来たのがきっかけだ。

そんな時代だったのだ。

今日日、若い衆らは煙管なんぞと言うものは知らぬまい。

いやはや、うちの従弟は変わり者で、今でも愛煙しているでありんすども、

今や芝居や落語といった別世界のものになってしまったでありんすよ。

また、ふっとある落語家の言葉を思い出した。

禁止、禁止と禁止ごとが増え、落語は詰まらなくなったと。

シガレットココアやガムは今はないのかな？

子供の頃、くわえて遊んだ懐かしい味。

喫煙はこの先どうかは分からないが、喫煙の描写は残るだろう。

廓やなんかと同じように。

全くもっての主観だが、自分を通してつくづく感じる。

読み手は、かくも突拍子もない。

色んなことに思いをはせて。

★2月27日

強制的に公開に踏み切ってみたものの、ちょっと無茶がすぎたかも。

今度こそはと、定型でがんばってみたものの、後半、面倒臭くなってしまった。

未だ、後半見直してしていないし……………。

明日できることは明日あしたあしたやる。

ついでに、ちょろ見せ興行。

おじじになる表紙の本のお試しを、1頁に統一してみた。

露出狂かぁ～？

全部見せないところが、せくすい～。

★2月26日

今年も、2・26はやって来る。

そんなわけで、新作公開しちゃうかな？

まだ、手直し終わってないけどね。

だって、今日は2．26じゃない。

そんな訳で、公開することにした。

面白そうな本を見つけたので、またコメってしまった。

読み返して、また馬鹿なこと書き込んでもうたと反省。

なんじゃこれ状態で気分を害していなければよいが・・・・・・・・。

★2月25日

書きかけ書き終わった・・・・様な気がする。

でも、公開はまだだけどね。

読み返して、補正して、なんだりかんだりしてみないとね。

・・・・・・・・長かったあ～。

またも、長くなってしまったあ～。

最後まで、読んでもらえるのかの～？

しかし、誰が読むんじゃ？

何か、辛気臭そ。

★2月24日

五輪が終わった・・・・・・・・。

感動したっ！

全ての選手、お疲れ様。

浅田選手の生きざまは清い。

やる時はやる娘です。あなどるなっ！

怪しげなポイント制は、点数の詳細からはもはや無意味。

所詮、日本人にはメダル、特に金をとらせない主義ですから、

ボード・フィギュアは確実にルールー改正でしょ。

ロシアの国旗のお隣は日の丸。

常に便乗、ちょこっとにんまり。

終わってしまっ、なんとなく気が抜けた。

パラリンピックは来月だよ。

日本選手は3種目に出るらしいが、なんだ？

たのしみだね。

★2月19日

何だこれは？

暫く見ない間に、画面変わっておった。

そもそも、五輪観戦と雪かき疲れがあ・・・・。

浅田選手には、是非とも、3回転全種制覇成し遂げて欲しい。

個人的には、金さんなんてどうでもいいから、ゴールド選手とか綺麗どころ見せろや！
と思ったり、

ISU 会長、「金さんに（金）賭けてもええよ！」の発言はかなりヤバイかもト・・・。

他競技に於いて、八百長疑惑が浮上してるしね。

くれぐれも、ジャッジは公正に願いますよ。

★2月12日

どひゃ～。

スキーもボードもコースが難しいとは、ソチオリンピック恐るべし。

．．．．．。

物はいいようだね。

単に施工技術が足りてないんじゃないの？

モーグルのぼこぼこだって、ハーフの壁だって．．．．ト思ってみた。

何にしろ、メダルおめでとう！

★2月10日

思えば．．．．ルール改正の歴史は、

日本に金を撮らせない為のものであったことを、

忘れてたことを思い出した。

★2月9日

モーグルって、なにがど～なっとんのさ、よく分らん。

ロシア式おもてしって、あれか？

異常なまでの辺り構わず湧きおこる『Р о с с и яコール』のことか？

1行目には数字を持ってこんようにしてみたが、

結局、思うような順序に頁はならばんではないか！

散々なおもてなしだ．．．．。

★2月8日

かくして、冬季オリンピックが幕を開けた。

起きて見た $N \setminus K$ での開会式録画。選手団入場は既に N 。

Jの日本は終わったのねえ～。と思ったら、キリル表示かお！

Яの段でしかも最後、御蔭で安倍さんともども見ることに出来ました。

結局、なんだかんだ言いながらも最後まで見ておった。

見てて思った。

さすが、世界屈指の舞台芸術の国。美しいに尽きる。

マスコットきゃらの可愛くなさったら、それはそれで可愛かったり。

ただ、ロシア式お・も・て・な・して何だ？

ロシアにおもてなし精神などあったのかの～㊦。

バッハ会長の御言葉に、さぞかしパン君は耳が痛かったことであろう。

ん？ 試合後政治的なプラカード掲げたり、判定に不服で大泣きしたりと、

行く先々で事件が起きたあの国のことじゃ……。

それはそうと、

前回のカナダは可哀そうだったな……と言うのが素直な第一印象。

歴史と言えば、侵略・略奪そしてひたすら開拓で、

芸術と言っても、これと言って……アメリカの地方版のような……。

次回はもっと歴史浅い韓国だぜえ。

評判悪かったら全部日本のせいになるのかの～㊦。

やっぱり、選手達のひたむきさは見えて感動するし、

それが日本人選手となるとことさらである。

宣言通り、清い祭典であってほしいと願う。

これから、睡魔との闘いだ！

諸君、健闘を祈る。(товарищ, желаю удачи!) でよいか？

★2月7日

何だったんだろう・・・・・・。

ばかされたのだろうか？

馬鹿にされたのだろう。

いらぬものは捨てればいいさ、都合よく。

ただ、馬鹿が馬鹿を必死に晒しただけだ。

自分を惨めに陥れるなら、いくらでも考えつく。

そんな状態にある自分が一番悪いだだけだ。

「よかった」、と思うとするなら、何とかまだ考えられる。

大事な物を落とさないでよかった。

それは正に奇跡だ。

家に帰ってきて、夜、寝る時に気がついた。

宙ぶらりんな状態で、大切にしている物がぶら下がっていたのだ。

よくも落ちずに堪えてくれた。

そもそも、どうしてこいつがくっついてきてしまったのか？

普通ではないことが起こったのは、尋常ではないことが起こったからかも。

自分の身を呪う前に、無事だったという奇跡に感謝しよう。

きっといいことがあるさ。

きっと、今度こそは……。

今できることは……

書きかけ書きあげてしまおうか。

★2月6日

Σびっくりにゅ～す！

ど～ゅ～こった？

聞くだけ聞きやがって、個人情報だだもれだぁ～。

拳句の果てに、だだもれ損かお。

弄ばれたじじい～かぁ～。

現代のヴェートホーヘン、あのドキュメンタリ～の感動を返せ！

弄ばれたじじい～だぁ～。

でも、100%ゴーストってわけでもなさそだな。

だったら、共作にすればよかったのでは？ トカ

でも、耳はどなの？ それはヤバイよ。

物事はちゃんと調べてから発注してね。

迷惑だから。

そんな訳で、何もする気がしねえ～。

★2月5日

真が勝手な行動をとるので、数字を認識しないよう1行目に言葉をもってきてみた。

なかなか新作が書きあがらない。

内容暗いし、気分まで落ち込んできて、テンション下がるわ～。

もう、どうでもよくなってきて、今じゃフォーメンション崩れだらだら。

明日早いから、今日は早く寝よ。

★2月4日

きゃ～、岡田君かっちょいい～。

と言うわけで、岡田准一、まじ、うらまやしい。

そんなことはさて置き、官兵衛なんですけどね、

第一話で出て来た『ビードロ』、なんなんだったんでしょ？

あれで出番終わり？

★2月2日

カテゴライズだと～？

カエルの癖に、カタカナ使いやがって生意気っ！

回答の中に、『書く過程に於いて意味がある』と言ったことが書いてあった。

そうだった。

書くことこそ意味があり、作品はその結果出た産物と思っていた。

絵画に於いても、音楽にしても。

しかし、どうだろう？

人とゆうのは、自分が意図しないところに興味が行くものだ。

違った視点で、違ったところに焦点を当てる。

それで思ったんだ。

作品の向こうには人がいる。

その向こうまでも見据える義務があるのではにかと。

人の意識にどう作用したか、自分の思考の波及先を。

自分は、思うのだ。

何時も、こうありたいと願うのだ。

自分の作品を完成させるのは、読んだ人だと。

では、ゴッホは？

キャンバスに感情を激しくぶつけて、その結果できた産物は？

ゴッホにとって、作品とはなんなんだろう？

では、ゲルニカは？

大きな意図を持って語らせる作品もあるけれど。

考えれば考えるほど、分らなくなる。

まあ、彼女の本を読み回答を読んだ上で考えられるのは、

要はもっともらしい言葉で体よくあしらわれたのだろう。

何で？

カエルは阿保だからだろ。

拍子抜けの回答は、相手に大して非は無いのかもしれない。

じじい～特有の被害妄想かもしれないね。

★2月1日

何度も振り返る。

ならば、人の言葉の中に。

美しい言葉を並べ立てて、一体、『ポエム』と何が違うのか？

違いなんてないかもしれない。

『ぬるい言葉』が『美しい言葉』に置き換えられただけかもしれない。

ならば、自分は、美しく繕った言葉で、人の本質をくるんでしまっているのだろうか？

自分は違うと思ってみても、人の思考なんて、大して変わりはないのだから。

以前、コメで質問した人のところに言ってみた。

自分の質問に回答がされていた。

読んだ。

でも、分らなかった。

部分的な文章の意味は理解はできるが、総合的には混乱を生じた。

なんとなく孤独を感じた。

『孤立』が相応しいかもしれない。

例えば、同じ言葉でも、中身が違う、とか。

自分は、自分だけにしか通じない異質な言語を使用しているのだろうか？

因みに、私小説のカテゴライズって何すかね？

そもそも、純文学って何なんすかね？

書くことに、カテゴライズは必要なのだろうか・・・？

自分は、深くありたいと願う。

行間にさえ思いが溢れ出るほどに、深く。

深く、深く、奥底までも、深く。

深く、知りたいのだ。

恐らく、自分は、賤しいのかもしれない。

自我と欲望の塊だ。

★1月31日

冬はももしき、春からはすててこ。

そんなアタイったら、じじい～力かなり高くなくなくない？

勿論、ムーミン好きですよ。特に、にょろにょろ。

と、浮かれ気分の今日この頃。

『ポエム』って、人の優しさを期待するものなのかな？

良いか悪いか、それは、好きか嫌いか人それぞれ。

そんなところで止めておこう。

★1月30日

そもそも、1勝でもしたことあんのかお・・・㊦。

『ポエム』作って分ったことがある。

悪魔で主観的な意見だがな。

とんでもポエムだけど、『ぬるい』正体を考えて見た。

視点は、今、この時の自分。

そこから、時間の経過も状態の変化もない。

ただひたすら『自分』と『自分の向かいあうもの』だけが存在する。

内容は多分、自分がこうでありたいというよりは、

自分にこうして欲しいという願望なのだろう。

『いつもそばにいるよ』の疑問。

わし、書きかけかかにならんし、不渡り出さん様お金用意せないかんし、

たまにや温泉につかってほっともしたいし・・・・・・・・。

自分のことで精いっぱいじゃわ。

★1月27日

敵を知り己を知れば百戦危うからず。

と言う訳で、『ポエム』作ってみた。

ぬるい感じで、ぼこぼこできた。

・・・・・・・・・・。

こんなんで、いいの？

★1月26日

実は、わし、今、はだづばり病。

ぐるじい～、た～しけ～てっくりえ～。

2カ月近く、呼吸困難だぁ～。グルヅィ。

次。

書きかけ書いてて終わらない。

はや100頁越えて、限界だあ。まだまだ続くぞ～。

細かいことまで書きすぎじゃないの？

ただでさえ、興味のなさそな内容で、長いとなたら、あ～た！

誰がよむんじゃい？・・・そんな感じ。

★1月25日 Σやっぱ すっきやねん～！

ふっと、人の作品を読みたくなくてふらっと出かてみた。

読み進めて行くうちに思った。答えは人の中にあるのだろうか？

そうかもしれない。

自分が書きたいのは人だもの。

ふっと、立ち止り、自分の作品を思い浮かべてみた。

一体自分は何を書こうとしているのか？

何を求めているのだろうか？

『美しさ』のみを追ってやしないか？

そうかもしれない。

人を、置いてけぼりにしているかもしれない。

そして、自分の作品を読み返してみた。

どうすればいいのだろうか？

自分は、間違っているのだろうか？

人の思いは千差万別。

そして、心が揺らぐ。

間違っているのは、自分かもしれない。

何度も思い起こしてみる。

人の思いと、自分の言葉と。

間違っていやしない、𦵑。

何度も重ねてみる。

人の思いと、自分の言葉と。

ああ これは自分に向けた応えかもしれない。

どうしても求めてしまう。

『美しい』ということ。

人を置き去りにしてまでも。

それでは、多くの人の心に響きやしない。

それでも、応えてくれる人がいてくれるなら、

自分は、間違っていやしない。

．．．．．そう、思いたいだけなのかもしれない。

人は、勘違いな生き物だ。

そうでなくっちゃ、やってらんない。

★1月24日

昔、よく、『ムー』を読んでいたっけなあ～。

何時の頃からだろう、読まなくなったのは？

と、考えて見た。

そうだ！『ニュートン』を読むようになってからだ・・・・・・。

と言う、四方山話。

★1月23日

ちょっと新しい試みをしようと思った。

日本シェア何番だかの *kobo* に投稿しようかと・・・・・・。

検索してみた。

・・・・・・。

英語だ。（多分、今も？）

日本の企業なのに日本人には厳しいグローバル化企業楽々の理念がこんなところまで・・・・・・。

何か気が乗らない。

米国の企業だけど変てこな訳でも日本人も参加して欲しいから

何とか頑張って日本語版も作ってみましたグローバル企業キドルの方が、

カエル的には感じがいい。

てなこと言いつも、パブーお試し企画誰でも *kobo* 配信きんぺーん！で、

既に3冊のっかったた。

今日見たら、表紙変更したのにそのままだったし、1冊審査中！だった。

これは、公開に満たないってことかの？

それより、内容修正ってどすんの？

ずっとそのままだけど・・・まっ、いいかと。

★1月22日

今、ある道で成功したじじいの話を書いている訳だが、

成功なんてしたことない癖に、知った風な感じが、なんかどんびき。

ついでに、どさくさに紛れて日頃のご近所さんへのうっぷんとか書きちゃったりして。

横道にぶれまくりで、早く書きあげたいのに終わらない。

★1月21日

やっちゃったよ、ケネディーさんちのお嬢ちゃん。

海豚をばかすか叩く漁と、カンガルーをばかすか叩く猟と何が違うのか？

自分には、違いが分らない。

生き物の優劣ってなんだ？

誰が決めたの？

命の重さは皆同じではないのか？

草食主義者だって、屁理屈こねたら可笑しな話だ。

植物だって生き物だ。

ちょん切られれば痛いと言き、ちょん切った奴が近付けば大騒ぎすると聞いた。

人には聞こえないが、音波を計れば反応しているらしい。

命を貰うから「いただきます」と言うのだ。

人間は食物連鎖には組み込まれていないのか？

どうして人間は特別なのだ？

それって『傲慢』って言うんじゃないの？

今の子供たちは知らないが、じじい〜の子供の頃は『輪廻転生』の思想があった。

本来、四足のものまでだった思うが、何時の時代か、何でだか、

人は、動物は勿論、ミジンコや草た虫など、あらゆる生物の

生まれ変わり／生まれ変わるかもしれない、と教えられた。

そんな人間に、「海豚と鯨は特別尊い命である」と言われても、到底理解できない。

うんざりだ！

★1月19日

結局、チャンスは自分で掴むもんなんだな・・・と。

★1月18日

書きかけ書いてて忙しく、結局、会社の調査してないや。

電子書店の利用者の一番の不安は、撤退にあるようだ。

サービス終了とともに購入した本が見れなくなってしまう。

そんな悲しい過去が購入の足枷になっている。しかも高いし、ということらしい。

よって、電子本を買うとなったら、絶対確実なところ、今はキ\ドルかな？ に行くのだろう。

若しくは、「定額読み放題」ならおしくない。

会社理念云々とあるが、ブクロクの目的は、人集めでしょう。

利益は、恐らく、プロの本を売ることと広告収入がメインであろう。

だから無料でサービスを提供するし、公開するにのに、不適切な表現以外基準もレベルも問わない訳だ。

つまり自分の様な利用者は、「ブログやってます」の軽いのりでよいということだ。

そう言う訳で、頁が移動できないなんてどーでもいいのだ。

くたばりぞこないのじじい～の戯言と、無視して貰いいいのだ。

★1月16日

ゲストに出たおじちゃんと兄ちゃんと言う。

ポエムが流行る背景には、何があるか考えてほしいと。

過酷な労働やどうにもならない挫折感など、こうでもしなきゃやってらんねと言った。

そして問題点。

優しい言葉で、本質が見えなくなってしまう。

例えば、過酷な労働を共感し傷をなめ合うのではなく、

労働組合を作るなどして、改善させるといったような。

なるほどね・・・と思いつつ。

いずれにしても、ポエムは苦手だな。

でえへ。芥川・直木賞発表されてた。

早いものね、もうそんな時期。

みなさん、揃いも揃って文学部。ｽｺｲ!

やはり、文学の「てにをは」は必要なのかと・・・・・・・・。

★1月15日

やたら閲覧数が増えてびびっちゃう。

検閲かあ～？

じじい～の情報網なんてたかが知れてる。

公に発表されていることしか分らんし、か、2 ch ネタ（これがくせもの）。

今日は特に検索しなかった。暇が無くて。

昨日、あるもやもやがちょこっと解消された。

よく見る、NH \ 黒酢あっぶ現代。『居酒屋甲子園』やっていた。

ぱっと見の印象→「新手の宗教？」

快い優しい言葉で共感し一体になる教。

教典は『ポエム』。といった感じかな。

番組では、このポエムが流行る背景と、問題点と語っていた。

ああ、これだ。ゆとりの国の新しい価値観。

この温いげろげろ感だ。

小さい頃から、何故か団体行動が取れない自分。

何故か、合わせているつもりでも人からずれていく自分。

そんなやつが、最後の砦であるポエムとやりにさえ一体になれないとは、

もはや完全とした『人間失格』。

自分の作品は、例え愛されたくても、愛しては貰えないだろう。

世間がポエムに向かっているのなら、自分の言葉など届く余地などあるわけない。

だからと言って、温い言葉に浸りたくもない。

ならば自分は、自分の求めるがまを追求しよう。

芸術家は孤高なのだ。Ii?!

★1月14日

びっびた、コメだ！！

じじい～恒例の妄想始動。

ばぶーからのおしおきかと・・・・。

以前、コメった人からだった。お。

めるし～じょうちゃん（ﾀﾞﾝ）。

そんなわけで、パプー存続に対しての危機を感じたので、会社を探してみた。

ﾌﾏﾌﾏ、元締は福岡にあるのね。お！ ジャスだっくに上場してる。ｽｺﾞｲｽｺﾞｲ。

100株単位で、今日の終値は4245円。ニーサで買える範囲だ。

買える人は、買ったまい。

売上げも、年々上がっているみたいよ。配当135円（H24）って、13500円ももらえちゃうの～？

そんなことより、そもそもどんなことして儲けてますの？

ホースティングって何？ カエルの脳では理解不能。

IR情報からでした。

明日はもちっと掘り下げて探してみよう！（予定）

★1月13日

面白い記事を見つけた。

J-C-A-S-Tニュースでは、電気書籍シェア過半数以上がキンドルだそうだ。

パプーは？ と言えば、名前すら上がっていない。ｱﾙﾎ。

大丈夫？

そもそもここってなんなのさ？ と 実は知らずに利用している。

誰がターゲットで、どこを目指しているの？

そう言えば、2 c h ネタだが・・・

以前読んだもので、k o b \ や何処とかは投稿するのに、あるレベルに達していなければ

公開にこぎつけないらしい ぐあっ！

ぱぶ〜はちょろいぜ！ 誰でも投稿できるしな云々 とあった。

確かにご気楽ㄉㄤ編集即公開で、自分としては使い勝手が非常によろしい。

しかし、肝心のシェアが E E E E では、メジャーデビューの陰謀が果たせないんじゃないの？

それどころか、ここって何時まで使ってられるのやら・・・と存続危機の妄想が。

ここは何とか、起死回生をば。

ということで、勝手に改善策を考えてみてやった。

①頁の移動は思い通りに移動できるようにしよう！

②キツネやチョロメでもゴシックが使えるようにしよう！

③スマホレビューを可能にしよう！

などなど。

ん？ それはカエルの要望。

★1月11日今日は鏡開きで正解。

国民的ニュースこ〜な〜！ 設けて、今日の行事、告知してくれたらいいのに。

正直、本当にお餅下げていいのかドキドキもんじゃったわ。

★1月10日 明日は鏡開きかのう～？

苦情のコメぶっこきやがってクソ利用者が、ということなのだろうか？

頁移動の件について、断固たる改善の意思がないようだ。

昨日『白樺～』を久々に読み返してみた。

そして、ちょちょこっと手直しをしてみた。

ところで、マーシャって誰？ サーシャって誰？ と思われるかもしれない。

マーシャはマリアさんで、サーシャはアレクサンドル君だ。

だから誰？

そんな調子で、書きかけ書いているのだが、

書いておいてなんなんだが、書きながら、ふと思った。

『誰が読むんじやい？』と。

何か地味だな・・・じじいの話なんぞ。

誰が興味持つんだろう？ と思いつつ、先を進める。

★1月9日 Σ新春苦情コメぶっこきましたでしょ～！

メンテが終わって、早速、苦情コメしたった。

改善してくれるかどうか知らんけど、口約どおりしったったわ。

次。

ツイッターで、フォロアー諸君と共有してみた。

そして、直ぐに削除してみた。

が、痕跡は残ったままだ。

つまり、自作自演だ、気にするな。

実は、未発表のものを初めにしてみたの。

これ、どうなっちゃうの？

まっ、いいか。

しかし、未だ、フォロアー、人っ子一いないんですけど。

何がおもしろいんじゃない。

★1月8日

苛々。いらいら。イライラ。

『くるくる回る目が回る この世は因果なことばかり～』

って いつまで回ってんの～？

体外にしろや！！

萎えた。

何の攻撃だ！ 新作書かせないぜ攻撃か？

と思ったら『ばぶーのお知らせ』があった。

・・・・・・またか、しかたね。

と言う訳で、今日、ショックなお知らせが届いた。

じじい～御用達某サービス終了のお知らせだ。ゲロツ。

こんな日が、いつかはくるのじゃないかと思っていたが・・・・。

全てが、虚しく、空中分解～するのねえ～。バィバィ。

こんな不手際続きで、ここも、いつまでもつのだろう？

折角、発表の場ができたと言うのに。

そこそこ、来てくれる人もいると言うのに。

そんなこと考えちゃうと、一気に、やる気が失せた。

仮想は所詮幻。

儚く消えるのみなのねえええええ～。

★1月7日

今日、久々に書きかけ書こうと思った。

気入れて、書こうと思った。

ああ、それなのに・・・・・・。

ぐるぐる回って、回って、どんだけ回るの～？

反応が遅すぎて、やる気が萎えた。

仕事も通常に戻り、早速、キンドル用システム改善作業が始まったのか、

冬休みの駆け込み需要で、若い衆が殺到したのか、

びじい～だぜえ。

とんだとばかりで、早くなんとかしてお！

★1月6日@只今、老々介護中！

ちょっと前だが、恒例の『苔田カエル』検索をやってみた。

ぬぬっ？！

候補の『水苔カエル』とは？

例えば、『ローラ』で言うところの『水沢アリー』的な？

ここは取敢えず、クリックでしょ。

・・・・・・・・・・。

蛙の飼い方について、餌となる水苔云々～。デハッ。

平成26年（2014年）

★1月1日

年をとる程に、ゆく年月が早くなる。

気がつけば、2014年。

ゆく年くる年の除夜の鐘の音を聞きながら、うどんをすすする。

年が明けた。

あけましておめでとうございます

泉谷の春夏秋冬は、好きな曲である。

何度口づさみ、食いしばったことか。

『今日で全てが終わる』と思い、

『今日で全てが変わる』と信じ、

『今日で全てが報われる』と言い聞かせて、

しかし、何も変わらなかった。

変わった事と言えば、より悪い状況に陥ったことかの～。

例え結果はそうだとしても、信じぜずには生きていけない。

きっと、傍目ではさぞかし滑稽なことかもしれないけどね。

★1月2日

多分、自分は、努力が足りないのだろう、

思ったような人生が歩めないでいるのは。

売れね～、売れね～と言ってる割に、営業努力しているだろうか？

そんな訳で、外部ストア班の表紙を変えて見た。

．．．．．。

何かしっくりいかないなあ。

ビジュアル的に、アンバランスだな。

元にもどそうかの～、と尝试してみたり。

★1月3日

日本人の義務、お雑煮から解放される。

胃が重い。

そろそろ初詣もすいた頃でしょ、と行って見た。

やっぱり、三が日はだめみたい。

真ん中目指して並んでた。

何で人って、真ん中にこだわるのだろうと、列に並ぶ。

カエルの癖に、お前もかぁ！

表紙を画像に変えて、心なしかお客さんが来た。

絵を見にきたのだろうか？

やっぱ、ビジュアルって大切なのね。

結局、なんやかやで、書きかけの作品、手がつけれなかった。

★1月5日

だぁ～ 正月疲れ・・・。

願の掛け方、間違えた。

『本がガンガン売れますように』ではなく、

『仕事がガンガンきますように』の方がよくないかい？

お伊勢参りも、出雲参りも、三が日も、初詣も終わってしまってなんなんだが、

これからは、そう祈願することにしよう。

奥付

奥付

文豪への道

<https://puboo.jp/book/44635>

著者：苔田 カエル

著者プロフィール：<https://puboo.jp/users/keronojyou/profile>

感想はこちらのコメントへ

<https://puboo.jp/book/44635>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/44635>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

{{-
-}}

文豪への道 日々精進2

版番号の予定

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社